どきい〔奴僻〕やつばら
どきい〔駑才〕おろかもの
どきう〔土葬〕土中にはうむること
どきう〔土藏〕土のくら
とざす〔鎖〕戸をとづ○閉鎖・鎖扃
とさつ〔屠殺〕ほふりころすこと
とざま〔外樣〕徳川時代に將軍の譜第の臣にあらざる大名をよぶ稱
とさん〔土產〕その地の產物
とざん〔登山〕山にのぼること
とし〔年・歲〕㊀月日のとし ㊁「よはひ（齡）」を見よ
とし〔徒死〕いたづらに死ぬること
とし〔徒士〕かち立ちの兵
とし〔都市〕みやこ
とし〔敏〕「さとし（敏）」を見よ
とし〔利〕きれよし○銳利・利銳
とし〔疾〕「はやし（速）」を見よ
とじ〔徒爾〕いたづらごと
とじ〔刀自〕婦女の稱
とじ〔途次〕みちのついで
とじ〔屠兒〕獸を殺す人
としごろ〔年頃〕㊀わかざかり○壯年㊁數年この方○年來
としや〔吐瀉〕はきくだし
どしや〔土砂〕土とすな
とじやう〔都城〕みやこ
とじやう〔登城〕城にのぼること
どじやう〔土壤〕つちくれ
としゆ〔徒手〕からて「――天下を取る」
としゆ〔斗酒〕一斗ばかりの酒
としよ〔圖書〕書物と圖畫と
としよく〔徒食〕ゐぐひ
としよく〔蠹蝕〕蟲が食ふこと
としより〔年寄〕老いたる人○老人・耆老・古老・宿老
としわか〔年若〕若き年 ○若年・靑年・弱冠
としん〔妬心〕ねたみごゝろ
とじん〔都人〕みやこびと
どじん〔土人〕その土地にすむ人
とす〔吐〕「はく（吐）」を見よ
どす〔度〕俗人を僧になす「僧尼を――す」
どすう〔度數〕たびかず

とせい〔渡世〕世わたり
とぜつ〔杜絕〕ふさぎとむること
とせふ〔徒涉〕かちわたり
とせん〔渡船〕わたしぶね
とぜん〔徒然〕つれぐ
とそ〔屠蘇〕正月元日にのむ祝酒
とそう〔抖擻〕あんぎや僧のこと
とそく〔杜塞〕ふさぐこと
とぞく〔蠹賊〕わるもの
どそく〔土足〕どろ足
どぞく〔土俗〕土地の風俗
どぞく〔土賊〕百姓の一揆
どだい〔土臺〕いしずゑ
とたう〔徒黨〕なかま、くみ
どたう〔怒濤〕あらなみ
とたん〔塗炭〕水と火と（窮困せるありさまにいふ）「――に苦む」
とたん〔亞鉛〕金屬の名
とち〔杼・橡・栃〕木の名
とち〔土地〕ぢめん
どぢやう〔鰌〕魚の名
どちやく〔土着〕その土地にすみつくこと「――の民」
とちゆう〔途中〕みちのうち
とづ〔閉〕しめきる○閉塞・閉鎖・閉壅・杜閉・掩閉＝密閉（しかとゝづ）＝幽閉（ふかくとづ）
とづ〔綴〕「つゞる（綴）」を見よ
とつあふ〔凸凹〕あがりさがり
とつかつ〔咄喝〕しかりのゝしること
とつかん〔吶喊〕わめきさけぶこと
とつぐ〔嫁〕よめ入りす
とつくわん〔突貫〕敵陣につきいること
とつげき〔突擊〕つきうつこと
とつこつ〔突兀〕高くとがりそびゆる貌「奇峯――たり」
とつさ〔咄嗟〕しばし「――の間」
とつしゆつ〔突出〕つきいだすこと
とつじよ〔突如〕にはかに「狂瀾――として來る」
とつしん〔突進〕つきすゝむこと
とつぜん〔突然〕ふいに、だしぬけに「――の話」
とつとつ〔咄咄〕いぶかりあやしむこゑ「――

—怪事」

とつぴ〔突飛〕することの尋常ならぬこと

とつべん〔訥辯〕つたなき辯舌

どて〔土手〕「つゝみ(堤・塘)」を見よ

とてい〔徒弟〕でし

とてつ〔途轍〕すぢみち

とても〔迚〕いかにしても「—もの事」

どど〔度度〕たび〳〵「—の催促」

どどいつ〔都都逸〕歌の一體

とと〔渡頭〕わたしば

ととく〔都督〕官名

とどく〔屆〕㈠「いたる(到)」を見よ㈡事由を官につぐ○上申 申告

とどこほる〔滯〕つかふ○鬱滯 留滯 淹滯 延滯 凝滯 澁滯 遲滯 停滯

ととのふ〔調〕ほどよくなす○調達 調理

ととのふ〔整・齊〕整はそなはる意、齊はそろふ意○齊整 整頓 整理‖整然 秩然(とゝのふさま)

とどまる〔留〕一所に居る○淹留 滯留 逗留 在留 滯在

とどまる〔止・停〕「とゞむ(止・停)」を見よ

とどむ〔留〕「とゞまる(留)」を見よ

とどむ〔止・停〕おさへて動さず○停止 停歇 底止

とどむ〔禁〕いましめさし止む○禁遏 制禁 制止

とどむ〔駐〕馬をとゞむる意より轉じて、何にても行くを止むるに用ゐる「蹕を—む」

とどろかす〔轟〕「とゞろく(轟)」を見よ

とどろく〔轟〕なりひゞく○震動 動響 雷轟‖轟々(とゞろくさま)

となふ〔稱〕㈠「となへ(稱)」を見よ㈡「ほむ(褒)」を見よ

となふ〔唱〕聲をあげていふ○唱道 呼唱 演唱 皷唱‖首唱 先唱(まづ先に唱ふ)‖謳唱 吟唱 歌唱(うたて唱ふ)

となふ〔徇〕ふれまはる「義を天下に—ふ」

となへ〔稱〕よび名○稱呼 稱號 稱名 名稱

となり〔隣〕並びつゞくこと○比隣 近隣‖隣家 隣屋 合壁 隔壁(隣の家)

となる〔隣〕ならびつゞく○隣次 隣接

とねり〔舍人〕官の名

との〔殿〕㈠貴人の住宅の名○殿舍 殿宇 殿堂㈡貴人の尊稱、轉じては女より男をよぶ稱ともなる

どの〔殿〕貴人を尊稱する語「左大臣—」

とのゐ〔宿直〕とまり番

とば〔賭場〕ばくち場

どば〔駑馬〕おとれる馬

どはい〔奴輩〕やつばら

とはう〔途方〕しかた「—に暮る」

とばく〔賭博〕ばくち

とばしる〔迸〕とびちる○迸出 迸發 迸散

とばす〔飛〕「とぶ(飛)」を見よ

とばり〔帳・帷・幔〕「まく(幕)」を見よ

どばん〔土蕃〕その土地の蕃人

とひ〔問〕「とふ(問)」を見よ

とひ〔樋〕水を流しやる具

とひ〔都鄙〕みやことゐなか

とひ〔徒費〕むだづかひ

とび〔鳶〕鳥の名

どひ〔奴婢〕めしつかひ

どひ〔土匪〕その土地のわるもの

とびら〔扉〕開き戸の戸○扇扉 扃扉 瓊扉 瑤扉(玉の扉)‖柴扉(しばの扉)

どびん〔土瓶〕水をわかす具

とふ〔都府〕みやこ

とふ〔妬婦〕やきもち女

とふ〔問〕たづぬ○諮問 訊問‖鞫問 按問(しらべ問ふ)‖尋問 質問(たゞしとふ)‖責問 詰問(せめ問ふ)

とふ〔訪〕おとづる○訪問 詢訪‖往訪(行きて訪ふ)‖來訪(來り訪ふ)

とぶ〔飛〕空を行く○飛揚 飛颺 飛翔(とびあがる)‖奮飛 雄飛(勢よく飛ぶ)‖翺翔 翩翻(空をとびかける)

とぶ〔跳〕「はぬ(跳)」を見よ

どぶ〔溝・渠〕「みぞ(溝・渠)」を見よ

とふく〔屠腹〕はらをきること

とぶらひ〔弔〕死者のさうしき○葬儀 葬式 葬禮

とぶらふ〔訪〕「とふ(訪)」を見よ

とぶらふ〔弔〕喪ある家をとひいたむ○弔問 弔悼 弔慰

とほ 〔吐哺〕口にいれたる食物をはくこと
とほ 〔徒歩〕かちあるき
どほう 〔土崩〕土くずれ「——瓦解」
とぼく 〔恍〕ぼけたる風をなす○佯爲
どぼく 〔奴僕〕めしつかひ
どぼく 〔土木〕家、橋、道、堤などの工事
とほざかる 〔遠離〕㈠とほくなる○遠離 遠隔㈡うとくなる○疎遠 疎濶 契濶
とほざく 〔遠離〕「とほざかる（遠離）」を見よ
とほし 〔遠〕へだゝり多し○邈遠 遼遠 遐遠 迢遠 迴遠 悠遠＝僻遠 鄙遠 荒遠 邈遠（邈僻の遠きこと）＝幽遠 玄遠 高遠 崇遠 淵遠 沈遠（意味ふかく遠し）＝永遠 久遠（時が永く遠し）
とぼし 〔乏〕足らず ○匱乏 窮乏 空乏 缺乏 挮底
とほす 〔通・徹・透〕「とほる（通・徹・透）」を見よ
とぼす 〔點〕火をたきつく
とぼそ 〔樞〕戸、とびら
とほる 〔通〕㈠行きすぐ○通行 通過㈡ゆきわたる○流通 融通 疏通＝該通 博通（ひろく物事にゆきわたる）
とほる 〔徹〕つきぬく ○通徹 貫徹 洞徹 疏徹 徹底・
とほる 〔透〕すきて見ゆ○透通 透徹 透明 透
とま 〔苫〕菅、茅などあみて作れるもの「——船」
とまつ 〔塗抹〕ぬりけすこと
とまり 〔泊〕㈠「みなと（湊）」を見よ ㈡「やど（宿）」を見よ
とまる 〔止・留〕「とゞまる（止・留）」を見よ
とみ 〔富〕ゆたかなること○富有 富庶 富饒＝殷富 豪富 巨富（大なる富）
とむ 〔富〕「とみ（富）」を見よ
とむ 〔止・停・禁・駐〕「とゞむ（止・停・禁・駐）」を見よ
とむ 〔宿〕「やどす（宿）」を見よ
とむらふ 〔弔・訪〕「とぶらふ（弔・訪）」を見よ
とも 〔友〕親しく交る人○朋友 同友 同朋 知友＝好友 親友（したしき友）＝畏友（うやまふべき友）
とも 〔伴〕つれ、なかま ○伴侶 儔侶 僚侶

とも 〔供〕したがふ人○從者 從屬
とも 〔鞆〕古弓射る時左臂につくる具
とも 〔艫〕舟のしりへ○船尾
ともがら 〔輩・徒・黨・曹・儕〕やから、なかま○朋輩 儕輩 曹輩 等輩 儕等 儕輩 儕倫 黨與 族黨 比倫 徒黨
ともし 〔乏〕「とぼし（乏）」を見よ
ともしび 〔燈・燭〕あかり（燭はかゞり火）○燈火 燭火 燈燭＝寒燈 冷燈（光のうすき燈）＝孤燈（一つの燈）＝殘燈（きえ殘りの燈）
ともす 〔點〕「とぼす（點）」を見よ
ともづな 〔纜〕船をつなぐなは
ともなふ 〔伴〕つれ立つ○同伴 同道 同行 携伴 伴隨
ともに 〔共・與・倶〕ひとつに、一處に「——に死す」
どもる 〔吃〕ものいひつかへにぶる「口——る」
とよ 〔豐〕ゆたかなること「——年、——秋」
どよう 〔土用〕季節の名
とら 〔寅〕十二支の一
とら 〔虎〕獸の名
どら 〔銅鑼〕樂器の名
とらい 〔渡來〕うみをわたッてくること
とらう 〔徒勞〕むだのほねをり
とらかす 〔鎔・鑠・盪・蕩〕「とろかす（鎔・鑠・盪・蕩）」を見よ
とらふ 〔捕〕「からむ（搦）」を見よ
とらふ 〔捉〕手ににぎる ○拿捉 拿攫 拿捕 把捉 捕捉
とり 〔鳥〕空をとぶ動物の名○飛禽 禽鳥＝猛鳥 鷙鳥（たけき鳥）＝瑞鳥 祥鳥（めでたき鳥）＝靈鳥 奇鳥（めづらしき鳥）
とり 〔酉〕十二支の一
とりあつかふ 〔取扱〕とりさばく○處置 處分 處理 處辨 措置
とりかふ 〔取換〕互にかふ ○交換 交易 換易
とりく 〔屠戮〕ほふりころすこと
とりこ 〔虜・俘〕いけどり ○俘囚 俘虜 捕虜
とりこみ 〔取込〕秋のをさめ ○秋收 收獲

とりさばく〔取捌〕「さばく(捌)」を見よ
とりしまる〔取締〕いましめまもる○監督監察管理管轄統御統轄制御
とりしらぶ〔取調〕「しらぶ(調・査)」を見よ
とりたつ〔取立〕とりあぐ○徴收徴集
とりつぐ〔取次〕なかつぎをなす○遞傳傳致＝紹介案内(二人の間を取次ぐ)
とりで〔砦・寨・壘〕柵をかまへて敵をふせぐ所○壘塞壘壁堡砦城砦
とりもち〔取持〕「とりもつ(取持)」を見よ
とりもつ〔取持〕せわす○周旋斡旋
どりやう〔度量〕心のうち
とりやり〔取遣〕とりかはすこと○贈答受授往復
どりよく〔努力〕つとむること
とりゐ〔鳥居〕神社のとりゐ○華表
とる〔取〕我が物になす○取得獲取
とる〔採〕えらびとる○採擷採得
とる〔執〕手にもつ○執持
とる〔把〕手ににぎりもつ○把握把持
どれい〔奴隷〕しもべ

とろ〔吐露〕考をいひ出すこと「意見を——す」
どろ〔泥〕土のどろ○泥土淤泥泥濘
とろかす〔鎔・鑠・蕩・盪〕「とろく(鎔・鑠・蕩・盪)」を見よ
とろく〔鎔・鑠〕金がとろく○鎔鑠銷鑠
とろく〔蕩・盪〕心がとろく○放蕩淫蕩
とん〔噸〕量目の名「一萬——の軍艦」
どん〔鈍〕おろか、にぶきこと「——才」
とんいつ〔遁逸〕にげさること
とんえい〔屯營〕軍人のたむろ
どんえふ〔嫩葉〕わか葉
どんが〔嫩芽〕草木のわかめ
とんきよ〔頓遽〕にはか、たちまち
とんご〔頓悟〕はやさとり
とんこう〔敦厚〕行のあつきこと「風俗——なり」
とんざ〔頓挫〕にはかにくじくること「文勢——す」
とんさい〔頓才〕にはかに出づる智慧
どんさい〔鈍才〕にぶき才智

とんざい〔屯在〕たむろすること
どんさう〔嫩草〕芽ばえの草
とんし〔頓死〕にはかじに
とんじ〔豚兒〕せがれ、わが兒
とんじ〔遁辭〕にげことば
どんし〔嫩枝〕わかえだ
とんしふ〔屯集〕たむろすること
どんじやく〔嫩弱〕やはらか
とんしゆ〔頓首〕首をさぐること
とんしゆ〔屯守〕たむろしてまもること
とんじゆ〔屯戍〕たむろしてまもること
とんしゆつ〔遁出〕にげいだすこと
とんしよ〔屯所〕たむろする所
どんす〔緞子〕織物の名
とんせい〔遁世・遯世〕世をのがるゝこと
どんぜい〔呑噬〕のみくらふこと
とんそう〔遁走〕にげはしること
とんそく〔頓速〕にはか、すみやか
とんたう〔遁逃〕にげのがるゝこと
とんち〔頓智〕にはかに出づる智慧
とんぢやく〔頓着〕氣にかくること
とんでん〔屯田〕兵士を土着せしめ、平時は農に、亂世には戰に從事せしむること
どんてん〔曇天〕くもりの空
とんとく〔遁匿〕にげかくるゝこと
とんばう〔遁亡〕にげさること
とんぴ〔遁避〕にげのがるゝこと
どんぶつ〔鈍物〕おろかもの
どんぶり〔丼〕食物を入るゝ器
とんぼ〔暾晡〕あけくれ
とんぼう〔蜻蛉〕蟲の名
とんぼく〔敦朴〕すなほなること
とんめつ〔頓滅〕にはかに死すること
どんめつ〔呑滅〕ほろぼしつくすこと
とんや〔問屋〕物品のおろし賣をなす商家
どんよく〔貪慾〕慾ふか
とんろ〔遁路〕にげみち

な

な〔名〕なまへ○名稱名目稱名稱號
な〔菜〕食用の植物の名○野菜蔬菜
ないい〔內意〕した心

ないいう〔內憂〕國內のうれへ
ないえつ〔內謁〕內々にて天子に拜謁すること
ないおう〔內應〕內々敵をたすくること
ないかい〔內界〕心の內のこと（外界に對して）「——の現象」
ないかう〔內行〕うち〳〵のおこなひ
ないかく〔內閣〕諸大臣の朝政を議する所
ないがしろ〔蔑〕「あなどる（侮）」を見よ
ないき〔內規〕うちわのきめ
ないぎ〔內儀〕他人の妻の敬稱
ないくわ〔內科〕體內の病を治する醫術（外科に對して）
ないくわん〔內患〕內々のうれへ
ないくん〔內訓〕內々のさしづ「政府の——」
ないこう〔內訌〕內々のもめあひ
ないこう〔內攻〕病の內へおすこと
ないこく〔乃刻〕そのとき
ないさい〔內濟〕爭ひ事を內々にてすますこと
ないざう〔內臟〕體內のざうふ
ないし〔內侍〕女官の名
ないし〔乃至〕數の上下をいひて中を略する語「四十——五十」
ないじ〔乃時〕そのとき
ないしつ〔內室〕他人の妻の敬稱
ないじつ〔內實〕うち〳〵の事情
ないじやう〔內情〕內々の事情
ないじよ〔內助〕內々のたすけ
ないしよう〔內證〕ない〳〵
ないしん〔內心〕したごゝろ
ないせき〔內戚〕父方の親戚
ないそ〔乃祖〕先祖のこと
ないそう〔內奏〕內々にて天子に奏上すること
ないだん〔內談〕內々ばなし
ないち〔內地〕國內の土地「——雜居」
ないち〔內治〕國內を治むること「——外交」
ないちよう〔內寵〕天子の氣に入ること
ないちん〔內陳〕內々己の意見をのぶること
ないつう〔內通〕內々敵にしたがふこと
ないてん〔內典〕佛教の書のこと
ないど〔內帑〕天子の內々の費用

ないふ〔乃父〕おやぢのこと
ないふく〔內服〕藥をのみ用ゐること「——藥」
ないふく〔內福〕內わの富めること
ないへい〔內嬖〕天子の氣に入りの妾
ないへん〔內變〕內々の變事
ないみつ〔內密〕ない〳〵、內證
ないめい〔內命〕內々の命令
ないやく〔內約〕內々の約束
ないらん〔內亂〕國內のみだれ
ないらん〔內覽〕內々見ること
なう〔腦〕頭のなう○頭腦腦髓
なうあう〔懊惱〕なやみくるしむこと
なうがい〔腦蓋〕頭のはち
なうく〔惱苦〕なやみくるしむこと
なうくわつ〔囊括〕ふくろに入れてくゝること
なうさつ〔惱殺〕なやますこと
なうじ〔曩時〕いつぞや
なうじやう〔腦漿〕腦みそ
なうずゐ〔腦髓〕「なう（腦）」を見よ
なうてん〔腦巓〕頭のいたゞき
なうらん〔腦亂〕心の狂ひみだるゝこと

なか〔中〕㊀まなか○中央中心＝中途中道中程（事のなかほど）㊁「うち（內）」を見よ㊂まじはり○交情
ながいき〔長生〕命長きこと ○長命長壽
なかうど〔仲人〕「なかだち（媒）」を見よ
ながえ〔轅〕車のながえ
ながし〔長〕形の丈ながし○延長
ながし〔永〕時ひさし○永久永遠
なかす〔泣〕「なく（泣）」を見よ
ながす〔流〕㊀「ながる（流）」を見よ㊁流罪に行ふ○流謫流竄遠流遠竄
なかたがひ〔仲違〕交をたつこと○義絶絶交
なかだち〔媒〕双方の中をとりもつこと○媒酌媒介紹介＝氷人（夫婦のなかうど）
なかなほり〔仲直〕破れたる交を再び結ぶこと○和睦和解和熟
なかば〔央〕「まなか（眞中）」を見よ
なかば〔半〕㊀はんぶん「財產の—」㊁「もなか（最中）」を見よ

ながびく〔永引〕おそくなる○延引遲延延滯遲滯
なかま〔仲間〕とも、くみ○伴侶儔侶等輩朋輩傍輩儕輩僚友同僚
ながむ〔眺〕ながめ見る○眺望瞻望臨眺
ながむ〔詠〕聲長くうたふ
ながめ〔眺〕「ながむ(眺)」を見よ
ながもち〔長持〕長くたもつこと○持久耐久長保
ながらふ〔存〕いきのぶ○存命生存長生
ながる〔流〕低きにうつりゆく○瀉流幹流流下=奔流馳流(勢よく流る)=激流(勢はげしく流る)=潺湲滾々涓々淙々(細流の流るゝ貌)=滔々湯々(大河の流るゝ貌)
ながれ〔流〕水のながれ○洪流(大なる流)=涓流(小なる流)=湍流(急の流)
ながれ〔旒〕旗をかぞふる語「白旗一―」
なぎ〔凪〕海上波しづかなること

なきがら〔亡軀〕「しかばね(屍)」を見よ
なぎさ〔渚〕波うちぎは
なぎなた〔薙刀〕武器の名
なく〔鳴〕聲を出だす(悲しむ意なし)
なく〔啼・泣・哭〕悲しみさけぶ(泣は涙にむせぶ意、哭は涙を流し聲をあげてさけぶ意)○啼泣涕泣號泣號哭慟哭痛哭啼哭哭泣=飮泣歔泣歔欷(すゝりなきすること)
なぐ〔薙〕横にはらひきる「草を―ぐ」
なぐ〔和〕おだやかになる
なぐ〔投〕「なげうつ(抛・擲)」を見よ
なぐさみ〔慰〕たのしみ○娛樂
なぐさむ〔慰〕㊀氣をはらす○慰藉慰勞 ㊁「なぶる(嬲)」を見よ
なげうつ〔抛・擲〕なげやる ○抛擲放擲擲投
なげき〔歎〕「なげく(歎)」を見よ
なげく〔歎・嘆〕うれへて息づく ○悲嘆愁嘆痛嘆嗟嘆嘆息嘆嗟 惆悵=悵然喟然惆然(歎くさま)
なげく〔慨〕くやしがる○慨歎憤慨慷慨=慨然(慨くさま)

なげやり〔投遣〕さしおくこと○放置放任等閑
なごり〔名殘〕事の全くつきぬこと ○餘波餘韻
なさけ〔情〕物のあはれを知る心 ○情愛慈悲
なし〔梨〕木の名
なし〔亡〕人の死にてなきこと「―き人」
なし〔無〕あらず ○虛無=皆無絕無(一向になきこと)
なじむ〔馴・染〕なつく ○親昵昵近馴致
なじる〔詰〕とひたゞす○詰問詰責詰讓
なす〔茄子〕蔬菜の名
なす〔爲・作〕する○作爲
なす〔成〕「なる(成)」を見よ
なす〔濟〕かりをかへす ○償還返濟返還
なずらふ〔準・擬・准〕ひきくらぶ ○準擬準據比準

なぞ〔謎〕なぞ〳〵
なた〔鉈〕刄物の名
なだ〔灘〕海のあらき所
なだい〔名題〕名高きこと「――の餠」
なだかし〔名高〕○著名有名
なだむ〔宥〕ゆるめ和らく○寬宥寬恕宥恕
なつ〔夏〕季節の名○炎夏朱夏陽夏=首夏孟夏初夏始夏(夏のはじめ)=仲夏盛夏(夏はなかば)=季夏晚夏(夏のすゑ)
なづ〔撫〕㊀掌にてさする ○摩撫安撫拊撫 ㊁いたはる○愛撫慈撫撫恤
なついん〔捺印〕印をおすこと
なつかし〔懷〕「したはし(慕)」を見よ
なづく〔懷〕「なじむ(馴・染)」を見よ
なつとう〔納豆〕食物の名
なつとく〔納得〕きゝ入るゝこと
なづな〔薺〕草の名
なづむ〔泥〕㊀一方にのみかゝはる○拘泥 ㊁「とどこほる(滯)」を見よ
なつめ〔棗〕木の名

なでしこ〔撫子〕草の名
ななめ〔斜〕かたむきたること「月光—なり」
なにがし〔某〕その名を定めていはぬ時用ゐる語
なにとぞ〔何卒〕とうぞ「——頼む」
なは〔縄・索〕ものをしばるもの（索はあらなは）○縄索
なはしろ〔苗代〕稲のなへを作る田
なはて〔畷〕田の間の道
なびく〔靡〕風に草木のかゞむこと○風靡倚靡—靡然靡々（なびくさま）
なふ〔綯〕縄をよる
なふじゆ〔納受〕うけをさむること
なふぜい〔納税〕税金ををさむること
なふりやう〔納涼〕すゞみ
なぶる〔嬲〕からかふ○嘲弄愚弄戯弄
なへ〔苗〕草木の芽ばえしたるもの
なべ〔鍋〕食物を煮る器
なほ〔尚〕その上に、いよく「—高し」
なほ〔猶・仍〕まだ、やはり「今—存ず」
なほさら〔尚更〕その上に「——面白し」
なほざり〔等閑〕深く心をとゞめぬこと○等閑
なほし〔直〕「たゞし（正）」を見よ
なほす〔直〕㊀正しくなす○匡正矯正修正釐正革正‖改竄加刪添削（詩文などをなほすこと）㊁つくらふ㊂修繕修補㊃「いやす（療）」を見よ
なほる〔直〕㊀正しくなる○歸正復正㊁「いゆ（癒）」を見よ㊂正しくすわる○正坐端坐
なま〔生〕㊀熟せぬこと「—煑え、—意氣」㊁煑燒せぬこと「—魚」
なまく〔懶〕「をこたる（怠・惰）」を見よ
なまぐさし〔腥〕なまくしき香あり○臊腥腥羶
なまこ〔海鼠〕海産動物の名
なまじひに〔憖〕なまなかに「—に人に見えじ」
なます〔鱠・膾〕食物の名
なまづ〔鯰〕魚の名
なまめかし〔艶〕うつくし○婀娜窈窕嬋娟嬌冶妖艶
なまめく「なまめかし」を見よ

なまり〔鉛〕金屬の名
なまり〔訛〕訛りたることば○訛言方言
なまる〔訛〕言語が法にたがふ○轉訛
なみ〔波・浪・濤・瀾〕水のうねり（濤・瀾は大きなる波）○波濤波浪波瀾滄浪濤瀾‖巨浪高浪洪波洪濤（大なる波）‖狂瀾狂濤驚浪驚瀾激波激浪怒濤猛浪（さかまく波）‖碧波翠浪（青き波）
なみ〔竝〕よのつれ○尋常通例普通凡常
なみき〔並木〕道わきのならびの木○列樹行樹
なみだ〔泪・涙・涕〕眼の内より出づる水○涕涙‖暗涙（人知れず泣く涙）‖血涙紅涙（ちの涙）‖潸然泫然漣然漣々潸々滂沱（涙の流るゝさま）
なむ〔嘗〕舌にてねぶる
なめくぢ〔蛞蝓〕蟲の名
なめす〔鞣〕皮を柔かにす「—し皮」
なめらか〔滑〕すべくしきこと○滑澤
なや〔納屋〕ものおき
なやます〔惱〕「なやむ（惱）」を見よ
なやむ〔惱〕思ひわづらふ○煩悶懊惱惱殺惱苦
なやむ〔艱〕いたみくるしむ○艱苦艱難難澁辛苦痛苦
なゆ〔萎〕「しぼむ（萎）」を見よ
なゆ〔痿〕氣力がなくなる○痿悴
なら〔楢〕木の名
ならく〔奈落〕地獄のこと
ならす〔鳴〕「なる（鳴）」を見よ
ならす〔馴〕「なる（馴）」を見よ
ならす〔平〕ひとしくなす○平均平準平等均一
ならはし〔習〕しきたり○風習風俗風儀習慣習俗慣習
ならはす〔習〕「ならふ（習）」を見よ
ならひ〔習〕「ならはし（習）」を見よ
ならふ〔習〕まなぶ○講習演習傚習練習練磨
ならふ〔倣・傚〕まぬ○摸倣摸擬
ならぶ〔並・列〕つらなる○並列序列齒列駢列整列櫛比鱗次（正しくな

らぶ)＝羅列班列棊列(入りみだれて列ぶ)＝排列陳列(物品をならぶ)
なり〔形〕「かたち(形)」を見よ
なりたつ〔成立〕できあがる○成立形成構成
なりはひ〔生業〕世すぎ○渡世營世家業生業營業
なりもの〔鳴物〕ならして樂しむもの○樂器管絃糸竹
なりゆき〔成行〕事の成るまゝ○向背風潮
なる〔成〕できあがる○成就成功竣功落成
なる〔生〕草木の實が結ぶ○結實
なる〔爲〕形をかゆ「氷が水と―る」
なる〔鳴〕音を立つ○鳴動轟鳴
なる〔慣〕しばしばしなる○慣倣 慣熟熟練練熟
なる〔馴〕なづく○馴致
なる〔狎〕なれなれしくなる○狃褻親昵昵近歡狎
なるかみ〔雷〕「かみなり(雷)」を見よ
なるこ〔鳴子〕鳥を逐ふためのもの
なをれ〔名折〕身の恥となること○不名譽不面目
なん〔難〕㈠さいなん「―に遇ふ」㈡むづかしきこと「―を避く」
なんい〔難易〕むづかしきとやさしきと
なんから〔軟肴〕かうやく
なんかん〔難艱〕くるしきこと
なんぎ〔難義〕むづかしき意義
なんぎ〔難儀〕くるしみ
なんきよく〔難局〕かたき處「外交の―に當る」
なんくわ〔軟化〕やはらかになる「民黨遂に―す」
なんこつ〔軟骨〕やはらかき骨(いくぢなき人の意にもいふ)「―男子」
なんじ〔難辭〕むづかしきことば
なんじふ〔難澁〕くるしみ
なんしやう〔難症〕おもき病
なんじやく〔軟弱〕よわきこと
なんず〔難〕他の非をせむ「他人の擧動を―ず」

なんぞ〔何・奚・曷〕いかで、いかにして「―ぞ爲ざる」
なんぢ〔汝・爾〕そなた
なんぢ〔難治〕病の治りにくきこと
なんど〔納戸〕きものべや
なんなん〔喃喃〕さゝやく聲
なんなん〔諵諵〕さわやかにものいふさま
なんぱ〔難破〕難にあうてやぶるゝこと
なんぱ〔軟派〕主義のよわき派(硬派に對して)
なんばん〔南蠻〕近古西洋人をさしていふ
なんぷう〔軟風〕そよそよ風

に

に〔荷〕にもつ○荷物行李
にあふ〔似合〕につく○適合適應恰當相應
にうしう〔乳臭〕ちゝくさき意にて年若きことをいふ「―の男子」
にうじふ〔乳汁〕ちゝのしる
にうじやく〔柔弱〕かよわきこと
にうじゆん〔柔順〕おとなしくすなほなること
にうだ〔柔惰〕なまけをこたること
にうはち〔乳鉢〕藥をこなす鉢
にうぼう〔乳棒〕藥をこなす棒
にうめい〔乳名〕をさな名
にうらく〔乳酪〕牛乳にてつくりし食物
にうわ〔柔和〕おとなしきこと
にかい〔二階〕家のにかい○層樓
にがし〔苦〕味にがし「―き味」
にがす〔逃〕「にぐ(逃)」を見よ
にかは〔膠〕ねばしつくるもの
にがむ〔苦〕「しかむ(顰)」を見よ
にぎはし〔賑〕にぎやかなり○殷賑熱鬧熾盛
にぎはす〔賑〕ほどこしたすく○賑恤賑給賙賑賙給
にぎはひ〔賑〕さかゆること○繁昌繁華繁盛繁榮昌盛
にぎはふ〔賑〕「にぎはひ(賑)」を見よ
にぎやか〔賑〕「にぎはひ(賑)」を見よ
にぎる〔握〕つかみもつ○掌握把握

にく〔肉〕しゝ「牛—、鷄—」
にぐ〔逃・遁〕のがれ去る（逃はにげかくるゝ意、遁はにげのがるゝ意）〇逃亡逃遁遁逃逃逸逃竄遁竄遁走逋亡逋免逋竄逋逃竄逃遁逃
にぐ〔北〕戰にまけてにげ走る〇敗北敗走
にくえん〔肉緣〕親子兄弟などのしんみのえん
にくがる〔憎〕「にくむ（憎）」を見よ
にくがん〔肉眼〕人の眼
にくくわい〔肉塊〕にくのかたまり
にくくわん〔肉冠〕鷄のとさか
にくけい〔肉桂〕藥の名
にくけい〔肉刑〕死刑のこと
にくさ〔肉叉〕にくさじ
にくし〔憎〕つらにくし「—き人」
にくし〔惡〕爲しにくし「言ひ—し」
にくじき〔肉食〕肉を食ふこと「——妻帶」
にくじやう〔肉情〕からだの色欲
にくしん〔肉身〕なまみのからだ
にくしん〔肉親〕しんみの緣者

にくたい〔肉體〕なまみのからだ
にくたん〔肉袒〕はだをぬぐこと
にくはく〔肉薄〕おしせまること「——して攻む」
にくひつ〔肉筆〕手にて書きし文字
にくむ〔疾・憎・惡〕疾はねたみにくむ意、憎はつらにくゝ思ふ意、惡は甚しくいやがる意〇憎疾憎惡疾惡
にくよく〔肉慾〕男女の色の欲
にげかくる〔逃隱〕のがれかくる〇逃匿亡匿
にげことば〔遁辭〕よけことば〇遁辭
にげみち〔逃路〕のがるゝ路〇遁路走路
にごす〔溷〕「にごる（溷）」を見よ
にごる〔濁〕水けがる〇渾濁汚濁溷濁
にし〔西〕方角の名
にじ〔虹・霓〕空に立つにじ〇天虹天弓虹橋彩虹
にしき〔錦〕織物の名
にじゆ〔二豎〕やまひ「——に侵さる」
にしん〔鯡〕魚の名
にす〔似〕「まぬ（眞似）」を見よ

にせ〔贋〕いつはりごと「—札」
にせもの まがへもの〇贋物僞物
にそう〔尼僧〕あま
にだ〔荷駄〕馬に負せたる荷
にちえい〔日影〕日のかげ
にちぼ〔日暮〕日ぐれがた
にちぼつ〔日沒〕日のいり
にちや〔日夜〕よるひる
にちりん〔日輪〕日のこと
にちろく〔日錄〕日記のこと
につかん〔日旰〕ひのくれ
につき〔日記〕日々の事を記したるもの
につきふ〔日給〕日々の手あて
につきん〔日勤〕日々のつとめ
につく〔似付〕「にあふ（似合）」を見よ
につくわ〔日課〕日々の課業
につくわう〔日光〕日のひかり
につさん〔日參〕日まゐり
につし〔日子〕日かず
につし〔日誌〕日記のこと
につしやう〔日章〕日のしるし「——旗」
につしん〔日進〕日々に進むこと「——月步」

につしん〔日新〕日々に新まること
にづたう〔日當〕日々の賃錢
にな〔蜷〕かひの名
になふ〔擔〕肩にかつぐ〇荷擔負擔
には〔庭〕家の前後にある空地〇庭園庭除
にはかに〔俄・遽・卒〕たちまち（遽はあはたゞしき意、卒はだしぬけなる意）〇急遽急速急卒卒爾倉卒卒然俄然遽然
にはとこ〔接骨木〕木の名
にはとり〔鷄〕鳥の名
にひ〔新〕あらたなることをいふ語「—學、—嘗祭」
にふえい〔入營〕營所に入ること
にふかう〔入校〕學校に入ること
にふがく〔入學〕學びに入ること
にふきん〔入金〕いりがね
にふとう〔入寇〕外國よりをかして來ること
にふとう〔入貢〕外國人の吾朝にみつぎを奉ること
にふとん〔入魂〕したしきこと「——の友」

にふさつ〔入札〕ふだを入るゝこと○投票(トウヘウ)
にぶし〔鈍〕㈠覺えわるし○魯鈍(ロドン)愚鈍(グドン)痴鈍(チドン)㈡切れ味わるし「—き刀」
にふしゆ〔入手〕うけとること
にふしん〔入津〕船がみなとに入ること
にふせき〔入籍〕戸籍に入るゝこと
にふたい〔入隊〕兵隊に入ること
にふたう〔入湯〕湯あみ
にふだう〔入道〕佛の道に入ること
にふぢやう〔入場〕場所に入ること「—券」
にふてう〔入朝〕朝廷へ參ること
にふばい〔入梅〕季節の名
にふひ〔入費〕いりめ
にふふ〔入夫〕いりむこ
にふぼつ〔入沒〕死ぬること
にふめつ〔入滅〕死ぬること
にふもん〔入門〕弟子いり
にふよう〔入用〕いりよう
にふらい〔入來〕入り來ること
にふらう〔入牢〕牢屋に入ること
にふゐん〔入院〕病院に入ること
にへ〔贄〕そなへもの、みつぎもの

にべ〔鮸〕魚の名
にべ〔鰾膠〕ねばるもの
にほ〔鳰〕鳥の名
にほひ〔匂〕うるはしきかをり「花の—」
にほひ〔臭〕くさきかんじ「惡しき—」○臭氣(シウキ)
にほふ〔匂〕「かをる(薫)」を見よ
にほふ〔臭〕くさく感ず「鼻に—ふ」
にまう〔二毛〕しらがまじり
にもつ〔荷物〕「に(荷)」を見よ
にゆ〔煮〕湯にて熱せらる○煮熟(シヨジユク)
によい〔如意〕佛家の具
によご〔女御〕天子のきさき
によばう〔女房〕宮仕への女
によしやう〔女性〕をんな
によらい〔如來〕佛の尊稱
による〔似寄〕にかよふ○近似(キンジ)肖似(セウジ)類似(ルヰジ)髣髴(ハウフツ)
にら〔韮〕草の名
にらむ〔睨〕ねめつく○疾視(シツシ)睚眦(ガイサイ)睥睨(ヘイゲイ)瞋目(シンモク)
にる〔煎・煮・烹〕煎はにつむる意、煮はにえ

立たする意、烹は調味する意○煮沸(シヨフツ)
にる〔似・肖〕互にひとしく見ゆ(肖は體がにかよふ意)○肖似(セウジ)類似(ルヰジ)疑似(ギジ)
にれ〔楡〕木の名
にん〔任〕つとめ「—を全うす」
にんい〔任意〕心のまゝ
にんか〔認可〕みとめゆるすこと
にんき〔任期〕在職の期限
にんぎやう〔人形〕○偶人(グウジン)塑像(ソザウ)傀儡(クワイライ)
にんぐわい〔人外〕人でなし
にんくわん〔任官〕官につくこと
にんけふ〔任俠〕をとこだて
にんげん〔任限〕職にある期限
にんげん〔人間〕世の中(人の意にもいふ)
にんこく〔忍酷〕むごきこと
にんし〔任恣〕わがまゝ
にんしき〔認識〕みとめしること
にんしやう〔刄傷〕刄物にて人をきずつくること
にんじやう〔人情〕人のなさけのこゝろ
にんじよく〔忍辱〕はぢをしのぶこと
にんしん〔姙娠〕子をはらむこと

にんじん〔人參〕草の名
にんず〔任〕㈠ひきうく「責に—ず」㈡まかす「官に—ず」
にんせん〔人選〕人えらび
にんそく〔人足〕かるこ
にんたい〔忍耐〕たへしのぶこと
にんだく〔認諾〕みとめてうけがふこと
にんち〔認知〕見さだむること
にんてい〔認定〕見とむること
にんにく〔忍辱〕辱をしのぶこと
にんぴ〔認否〕みとむるとみとめざると
にんぴにん〔人非人〕ひとでなし
にんぷ〔人夫〕かるこ
にんぷ〔姙婦〕はらみ女
にんめい〔任命〕官に任ずること
にんめん〔任免〕任官と免職と
にんよう〔任用〕官に任じ用ゐること

ぬ

ぬえ〔鵺・鵼〕鳥の名
ぬか〔糠〕米のぬか

ぬかづく〔額突〕額を下げて禮をなす○叩頭頓首稽首
ぬかり〔泥濘〕泥ある地
ぬき〔緯〕織物のよこ糸
ぬきがき〔拔書〕ぬき出してかくこと○抄錄鈔書
ぬきみ〔拔身〕さやをぬきし刀○白刃露刃
ぬきんづ〔擢〕えりぬきいだす○拔擢抽擢
ぬきんづ〔挺〕ひいづ○挺出
ぬく〔拔〕ぬきとる○抽拔＝簡拔選拔（えりぬく）
ぬく〔擢〕「ぬきんづ（擢）」を見よ
ぬく〔挺〕「ぬきんづ（挺）」を見よ
ぬく〔脫〕のぞかる○漏脫脫落脫失
ぬく〔貫〕「つらぬく（貫）」を見よ
ぬぐ〔脫〕とりのぞく「衣を―ぐ」
ぬぐふ〔拭〕「ふく（拭）」を見よ
ぬくむ〔溫〕「あたゝむ（溫）」を見よ
ぬけみち〔拔路〕ちかみち○間道陰道暗路

ぬけめ〔拔目〕しおち、てぬけ ○遺脫遺漏缺陷
ぬさ〔幣〕神に奉るもの○幣束幣帛
ぬし〔主〕「あるじ（主人）」を見よ
ぬし〔塗師〕ぬりものする人
ぬすびと〔盜人〕ぬすみをなす人○草賊鼠賊鼠盜狗盜偷兒
ぬすむ〔盜・竊・偷〕盜はゆるしなきに人の物をとる意、竊はひそかに人の物をぬすむ意、偷は人目をかすめて事をなす意○盜竊剽竊偷盜竊取
ぬの〔布〕織物の總稱○布帛
ぬのこ〔布子〕綿入の衣○縕袍
ぬひ〔奴婢〕下男と下女
ぬひはく〔縫箔〕ぬひものに金銀糸を加へたるもの
ぬふ〔縫〕針にて布帛をさしとづ
ぬぼく〔奴僕〕めしつかひ男
ぬま〔沼〕池の泥ふかきもの○沼池湖沼
ぬめる〔滑〕「すべる（滑）」を見よ
ぬらす〔濡〕「ぬる（濡）」を見よ
ぬる〔塗〕なすりつく「壁を―る」

ぬる〔濡〕「うるほふ（濡）」を見よ
ぬるで〔白膠木〕木の名
ぬるむ〔溫〕すこしあつくなる
ぬれい〔奴隷〕めしつかひ
ぬれぎぬ〔濡衣〕うき名

ね

ね〔根〕㊀草木のね㊁「もと（元）」を見よ
ね〔音〕「おと（音）」を見よ
ね〔峯・嶺〕「みね（峯・嶺）」を見よ
ね〔直〕「あたひ（直）」を見よ
ね〔子〕十二支の一
ねいあく〔獰惡〕わるづよきこと
ねいあく〔佞惡〕心の底あしきこと
ねいあん〔寧安〕やすらかなること
ねいかう〔佞巧〕口先の上手なること
ねいかん〔佞奸〕うはべは正直なる如くにて心のねぢけたること
ねいさい〔佞才〕へつらひの才智
ねいさい〔寧歲〕やすらかなる歲
ねいじつ〔寧日〕やすらかなる日

ねいじや〔佞邪〕うはべのみよく心のあしきこと
ねいしん〔佞臣〕心のねぢけたる臣
ねいじん〔佞人〕心のねぢけたる人
ねいせい〔寧靜〕しづかなること
ねいてん〔佞諂〕へつらふこと
ねいび〔佞媚〕こびへつらふこと
ねいへう〔獰飇〕つよき暴風
ねいべん〔佞辯〕へつらひことば
ねいゆ〔佞諛〕へつらふこと
ねうぜつ〔饒舌〕しやべること
ねうち〔直打〕「あたひ（直）」を見よ
ねおき〔寢起〕ねたりおきたり○起臥坐臥
ねかず〔殕〕かうじをつくる
ねがひ〔願〕のぞみこふこと ○志願願望
ねがふ〔願〕のぞみこふ○情願請願念願歎願懇願
ねぎ〔葱〕草の名
ねぎ〔禰宜〕神官の名
ねぎらふ〔犒〕いたはる○慰勞犒勞

ねぐら〔塒〕鳥のねどこ
ねこ〔猫〕獸の名
ねごと〔寢言〕うはこと○囈語
ねじろ〔根城〕本城のこと○牙城據城
ねずみ〔鼠〕獸の名
ねたし〔妬・嫉〕「ねたむ(妬・嫉)」を見よ
ねたむ〔妬・嫉〕それむ○嫉妬妬忌妬嫉嫉視嫉惡
ねだる しひてこふ○强請
ねだん〔直段〕「ねうち(直打)」を見よ
ねぢ〔螺旋〕ねぢてはめ又はぬくもの
ねぢく〔拗〕心ひがむ○拗戾執拗
ねつ〔熱〕あつさ「——病」
ねづ〔捩〕ねぢまはす「栓を—づ」
ねつあい〔熱愛〕はなはだ愛すること
ねつけつ〔熱血〕あつき血しほ「滿腔の——」
ねつざう〔捏造〕これまぜてつくること
ねつじやう〔熱情〕はなはだ厚き情
ねつしん〔熱心〕心をこむること
ねつたい〔熱帶〕あつき地方「——地方」
ねつたう〔熱鬧〕さわがしく混雜すること
ねつちやう〔熱腸〕熱せるこゝろ

ねつちゆう〔熱中〕思ひこむこと
ねつばう〔熱望〕ふかくのぞむこと
ねどこ〔寐床〕夜寐る床○臥床洞房
ねはん〔涅槃〕不生不滅の義(佛教の語)
ねばる〔粘・黏〕なめらかにてつきあふ○粘着粘接膠漆(ねばりつく)
ねぶみ〔直踏〕直づけすること○評價
ねぶる〔舐〕舌にてなむ「猫が足を—る」
ねむし〔睡〕ねむたし○思睡感睡
ねむる〔睡・眠〕目をとぢて休む○睡眠交睫
ねめつく〔睨付〕「にらむ(睨)」を見よ
ねや〔閨〕ねどこ、ねま○臥房閨房寢室
ねらひ〔狙〕「めあて(目當)」を見よ
ねらひうち〔狙擊〕狙ひすましてうつこと○狙擊
ねらふ〔狙〕目をつけてうかゞふ○直視瞪視注視凝視‖覬覦覬偵覬覦
ねる〔練〕㈠糸をやはらかにす㈡くはしく習ふ○熟練鍛練練熟練達練習練

磨
ねる〔錬・煉〕燒ききたふ
ねる〔埏〕これてねばらす
ねる〔遯〕そろ〳〵行く○緩步遲步徐步徐行
ねる〔寐・寢〕「いぬ(寐・寢)」を見よ
ねる〔焙〕麴になる
ねん〔年〕とし「今—、去—」
ねん〔念〕おもひ、かんがへ「—を入る」
ねんえき〔粘液〕ねばるしる
ねんが〔年賀〕年始のいはひ
ねんがう〔年號〕年の名
ねんかん〔年鑑〕年々の要事をしるしたる書「統計——」
ねんき〔年季〕召使の奉公する年限
ねんき〔年紀〕とし
ねんき〔年忌〕死人の年まはりのいみ日
ねんきふ〔年給〕一年の給料
ねんぐ〔年貢〕みつぎ
ねんくわい〔年回〕年々回りくる死人の忌日
ねんぐわん〔念願〕おもひねがふこと
ねんげん〔年限〕定めたる年の期限

ねんこう〔年功〕多年の功績
ねんごろ〔懇〕心あつきこと○親切叮嚀懇篤懇懃鄭重諄篤悃篤‖諄々懇々(ねんごろなるさま)
ねんさん〔年算〕よはひ
ねんし〔年始〕年のはじめ
ねんし〔年齒〕とし、年齡
ねんしゆ〔年首〕年のはじめ
ねんじゆ〔念兒〕まじなひをねんずること
ねんじゆ〔念珠〕ずゞ
ねんじゆ〔念誦〕經文を念をこめてよむこと
ねんしよ〔年初〕年のはじめ
ねんしよ〔年所〕とし
ねんず〔念〕心におもひこむ「佛を—ず」
ねんせう〔燃燒〕火にもゆること
ねんせつ〔粘接〕ねばりつくこと
ねんちやく〔粘着〕ねばりつくこと
ねんてふ〔粘貼〕のりにてはりつくること
ねんど〔粘土〕ねばつち
ねんとう〔年頭〕年のはじめ
ねんとう〔念頭〕心の上
ねんねん〔念念〕たえまなきおもひ

ねんぱい〔年配〕としのころ
ねんばう〔念望〕おもひねがふこと
ねんぷ〔年譜〕その人一代の年代記
ねんぷ〔年賦〕年々にわけて納むること
ねんぶつ〔念佛〕佛を念ずること
ねんぼ〔年暮〕年のくれ
ねんぽ〔年甫〕年のはじめ
ねんぽう〔年俸〕一年の俸給
ねんまつ〔年末〕年のすゑ
ねんらい〔年來〕としごろ
ねんりき〔念力〕思ひ込みたる力
ねんりよ〔念慮〕おもひより
ねんれい〔年齢〕とし
ねんれき〔年歴〕數年の來歴

の

の〔野・埜〕のはら○原野 郊野
の〔箆〕矢竹のこと
のう〔能〕㈠わざのよく出來ること○藝能 才能 技量㈡「きゝめ(効)」を見よ
のう〔膿〕はれものゝうみ
のう〔農〕田畠をたがやす業
のうえん〔濃艶〕つやゝかなること
のうかう〔農耕〕田畠をたがやすこと
のうがく〔能樂〕舞樂の一種
のうかん〔能幹〕はたらき
のうかん〔農閑〕農事のひまの時
のうくわい〔膿潰〕はれ物のうみのふッきること
のうげき〔農隙〕農事のいとま
のうこう〔濃厚〕汁又は色などのこきこと
のうさう〔農桑〕農業と蠶業と
のうさく〔農作〕田畠をたがやすこと
のうし〔能士〕はたらきのすぐれたる人
のうじ〔能事〕よく出來ること
のうじふ〔膿汁〕はれものゝうみしる
のうしよ〔能書〕てかき
のうたん〔濃淡〕うすきとこきと
のうちう〔濃稠〕こまやかなること
のうひつ〔能筆〕てかき
のうふ〔農夫〕ひやくしやう
のうべん〔能辯〕ものいひの巧みなること
のうみ〔濃味〕こきあぢはひ

のうみん〔農民〕ひやくしやう
のうむ〔農務〕農業のつとめ
のうりよく〔能力〕はたらき
のがす〔逃・遁〕「のがる(逃・遁)」を見よ
のがる〔逃・遁〕「にぐ(逃・遁)」を見よ
のき〔軒・檐・簷〕屋根のたれたる所○屋簷
のぎ〔芒〕稻麥などの穗のとげ○芒穎
のく〔除〕「のぞく(除)」を見よ
のく〔退〕「しりぞく(退)」を見よ
のこぎり〔鋸〕木、竹など切る具
のこす〔殘・遺〕「のこる(殘・遺)」を見よ
のこり〔殘〕「あまり(餘)」を見よ
のこりをし〔殘惜〕なごりをし○遺憾 殘念 殘懷
のこる〔殘〕「あまる(餘)」を見よ
のこる〔遺〕後々につたはる○遺留 遺傳
のし〔熨〕贈物につくるもの
のす〔伸〕「のぶ(伸)」を見よ
のす〔熨〕火のしにてしわをのばす
のす〔載〕車に物をつむ○乘載 登載
のぞく〔除〕とりのく○刪除 芟除 却除 消除 攘除 刈除 蕩除 除去
のぞく〔蠲〕さしゆるす○蠲除
のぞく〔覗・窺〕「うかゞふ(覗・窺)」を見よ
のぞみ〔望〕もとめ、ねがひ○志願 志望 希望 願望
のぞむ〔望〕㈠遠く見やる○瞻望 眺望 遙望㈡こひねがふ○熱望 冀望 所望
のぞむ〔臨〕さしのぞく○瞰臨 俯臨
のたまふ〔宣〕いふの敬語
のち〔後〕㈠「あと(後)」を見よ㈡血すぢののち○末葉 末裔 苗裔 苗胤 後胤
のつとる〔則〕「ならふ(傚)」を見よ
のど〔咽・喉〕のんど○咽喉
のどか〔長閑〕しづかなること ○長閑 融和 ＝閑々 悠々 融々 (のどかなるさま)
のどぶえ〔吭〕のどの息のかよふ處○咽吭 喉頭 氣管
ののしる〔罵・詈〕怒りてしかりいふ○罵詈 詬罵
のばす〔延〕「のぶ(延)」を見よ
のはら〔野原〕「の(野)」を見よ
のびちゞみ〔伸縮〕のびたりちゞんだり○伸

縮盈縮舒縮屈伸
のぶ〔舒・展〕ひらく○舒展展舒
のぶ〔暢〕滯なくのぶ○暢發舒暢流暢
のぶ〔紓〕「ゆるぶ(紓)」を見よ
のぶ〔宣〕世にいひしめす○宣言宣告宣布
のぶ〔述・陳・敘〕くはしくいふ ○敘述陳述開陳陳供陳敘
のぶ〔伸〕たけ長くなる○伸長
のぶ〔延〕㊀ひろぐ○延長㊁「おくる(遲)」を見よ
のぼす〔登〕「のぼる(登)」を見よ
のぼす〔逆〕本心をうしなふ ○上氣上衝逆上
のぼり〔幟〕はたの類
のぼる〔登〕高きにあがる「山に―る」
のぼる〔上・升・昇〕上へすゝむ ○上昇昇進
のみ〔蚤〕蟲の名
のみ〔鑿〕木にあなをほる具
のみこむ〔呑込〕㊀喉にのみ込む○嚥下㊁心にのみこむ○會得合點了解
のむ〔飲〕水ものをのむ○吸飲
のむ〔呑〕まるのみにす○併呑
のり〔糊〕ものをればしつくるもの
のり〔海苔〕水草の名
のり〔法・則・規・範〕「おきて(掟)」を見よ
のり〔法〕佛法のことをいふ「―の火」
のりと〔祝詞〕神に告ぐる語
のりもの〔乘物〕人の乘り行くもの ○乘輿駕輿車駕
のる〔乘〕その上にあがる○乘駕
のれん〔暖簾〕軒先にたるゝまく
のろし〔烽火〕あひづの火○狼煙烽火
のろふ〔詛・呪〕神佛に祈りて敵を害せしむ○呪詛詛誓
のんど〔咽・喉〕「のど(咽・喉)」を見よ
のわき〔野分〕秋冬のころ吹く大風

は

は〔葉〕草木のは○嫩葉(わか葉)=翠葉(みどり葉)=槁葉(かれ葉)

は〔齒〕口中のは○義齒(入れ齒)
は〔刃〕刀のは
は〔覇〕諸侯の盟主たるもの
は〔派〕えだは、わかれ
は〔羽〕㊀はね「鶴の―風、蟬の―衣」㊁蟲鳥を數ふる語「一―の雀、蝶三―」
は〔端〕㊀はし「山の―」㊁はした「數の―」
は〔把〕たばねたるものを數ふる語「薪一―、藁三―」
ば〔場〕ばしよ「仕事―」
はあく〔把握〕手ににぎること
ばあひ〔場合〕をり、とき「困難の――」
はい〔肺〕はいのざう
はい〔敗〕まけ、やぶれ「―をとる」
はい〔杯・盃〕さかづき「―を擧ぐ」
ばい〔倍〕二つ同數のかさなること
はいいう〔俳優〕やくしや
はいう〔沛雨〕おほあめ
ばいう〔梅雨〕さみだれ
はいえつ〔拜謁〕目上の人にまみゆること
はいえん〔肺炎〕病の名
はいえん〔沛焉〕さかんなるさま
はいか〔配下〕てした
はいか〔佩荷〕かたじけなく思ふこと
はいか〔敗家〕やぶれ家
はいが〔拜賀〕よろこびを申上ぐること
ばいか〔倍加〕ばいまし
はいかい〔俳諧〕歌の一體
ばいかい〔媒介〕なかだち
はいかう〔背向〕うしろむきになること
はいがふ〔配合〕取あはすること
はいかん〔廢刊〕新聞雜誌などの發行をやむること
はいかん〔排陷〕しりぞけおとしいるゝこと
はいかん〔肺肝〕心のそこ「――に銘す」
はいがん〔拜顏〕おめにかゝること
ばいかん〔焙乾〕火にかわかすこと
はいき〔廢棄〕のぞきすつること
はいき〔拜跪〕ひざまづくこと
はいき〔敗毀〕やぶれこはるゝこと
はいぎ〔俳戲〕しばゐ
はいきやく〔廢却〕すて去ること
はいぎやく〔悖逆〕さからふこと
ばいきやく〔賣却〕うりはらふこと

はいきよ〔廢去〕すつること
はいきん〔拜金〕金錢を尊むこと
ばいきん〔黴菌〕かび
はいぐう〔配遇〕つれあひ
はいくわい〔俳詼〕おどけ、しやれ
はいくわい〔廢潰〕やぶれすたること
はいくわい〔徘徊〕あるきまはること
はいくわん〔拜觀〕をがみみること
はいくわん〔肺患〕肺の病
はいぐん〔敗軍〕まけいくさ
はいげき〔排擊〕おしのくること
はいげふ〔廢業〕業をやむること
はいけん〔佩劍〕劍をおぶること
はいけん〔拜見〕見るの敬語
はいこ〔癈痼〕かたはやまひ
はいご〔背後〕うしろ
はいこう〔廢興〕すたるとおこると
ばいこく〔賣國〕自國の秘密を敵にしらするもの「──奴」
はいざい〔配劑〕藥のもりあはせ
はいざう〔肺臟〕五臟の一
ばいさう〔焙燥〕火にてかわかすこと

はいさん〔杯盞〕さかづき
はいし〔廢弛〕すたること
はいし〔廢止〕やむること
はいし〔稗史〕小說のこと
はいし〔配祀〕合せまつること
はいじ〔拜辭〕つゝしみて辭すること
ばいじ〔陪侍〕おそばにつきそふこと
はいしつ〔癈疾〕かたはやまひ
ばいしやう〔賠償〕つくなひ
はいしやう〔俳倡〕げい人、やくしや
はいしや〔拜謝〕禮をのぶること
はいしやく〔拜借〕借るの敬語
はいしやく〔杯酌〕さかづきのとりやり
ばいしやく〔媒酌〕なかだち
はいじゆ〔配授〕わけてわたすこと
はいじゆ〔拜受〕つゝしみてうくること
ばいじゆう〔陪從〕つきしたがふこと
はいしゆつ〔輩出〕多く出づること
はいしゆつ〔排出〕おしいだすこと
はいしよ〔配所〕流罪せられし所
ばいじよ〔媒助〕なかにたちてたすくること
はいしよう〔拜誦〕つゝしみてよむこと（書簡文の語）

はいしよう〔拜承〕つゝしみうけたまはること（書簡文の語）
ばいじよう〔陪乘〕車馬につきそひのること
ばいしよく〔陪食〕貴人の食事に相伴すると
ばいしよく〔培殖〕つちかひふやすこと
はいじん〔癈人〕かたはもの
ばいしん〔陪臣〕またげらい
ばいしん〔陪審〕たちあひてしらぶること
はいす〔配〕㊀くばる「投票用紙を―す」㊁めあはす「甲女を乙の息男に―す」
はいす〔廢〕やむ「中道にして―す」
はいす〔拜〕「をがむ(拜)」を見よ
ばいす〔倍〕二つます「資を―す」
ばいす〔陪〕つきしたがふ「鳳輦に―す」
はいすう〔拜趨〕まゐること
はいすゐ〔排水〕水をのくること
ばいずゐ〔陪隨〕お供にしたがふこと
はいせい〔排擠〕つきこみおとしいるゝこと
はいせき〔排斥〕おしのくること
はいせき〔敗績〕いくさにまくること
ばいせき〔陪席〕座につきしたがふこと

はいせつ〔排泄〕もらしいだすこと
はいせつ〔敗折〕やぶれくじくること
はいぜつ〔廢絕〕たゆること
はいせん〔杯洗〕杯あらひ
はいぜん〔配膳〕膳をくばること
はいぜん〔沛然〕盛に流るゝさま「――として雨降る」
ばいせん〔憊喘〕息せくこと
はいそ〔敗訴〕まけたる訴訟
はいそう〔敗走〕まけてはしること
はいたい〔胚胎〕子をはらむこと
はいたい〔廢頽〕すたれおとろふること
はいたい〔拜戴〕おしいたゞくこと
はいたい〔佩帶〕腰におぶること
はいたう〔配當〕わりあつること
はいたう〔佩刀〕腰にはく太刀
はいたく〔配謫〕島流せらるゝこと
はいたつ〔配達〕くばりとゞくること
はいだん〔俳談〕おどけばなし
ばいだん〔焙暖〕火にかわかすこと
はいち〔配置〕くばりおくこと
はいち〔背馳〕ゆきちがふこと（せなかあは

せにはしる意)
はいぢく〔敗衂〕まけいくさ
はいちやう〔拜聽〕つゝしみてきくこと
はいちやく〔廢嫡〕あとつぎを廢すること
はいてい〔拜呈〕つゝしみて進呈すること
はいてう〔廢朝〕天子が朝政を見るをやすむこと
はいてう〔敗兆〕まけいろ
はいてつ〔廢撤〕とりはらふこと
はいてん〔廢典〕すたれたるおきて
はいでん〔拜殿〕神ををがむ御殿
はいとく〔悖德〕道にそむくおこなひ
はいどく〔拜讀〕つゝしみてよむこと
ばいどく〔黴毒〕かさ(病の名)
はいなう〔背囊〕背に負ふ囊
はいなふ〔拜納〕つゝしみてうけをさむること
ばいばい〔賣買〕うりかひ
はいはう〔敗報〕まけたるしらせ
はいばう〔敗亡〕まけほろぶること
はいはん〔背叛〕そむくこと
はいばん〔杯盤〕さかづきと皿鉢と

はいふ〔配布〕くばること
はいふ〔肺腑〕こゝろの底
はいふ〔配賦〕わりわたすこと
はいふく〔拜復〕謹みて返事すること
はいふく〔拜伏〕ひれふすこと
はいふく〔佩服〕身におぶること
はいぶつ〔廢物〕すたれたるもの
はいぶん〔配分〕わけくばること
はいへい〔敗兵〕まけたる兵士
はいへい〔配兵〕諸方にくばる兵
はいぼく〔敗北〕まけてにぐること
はいぼく〔排扑〕おしたふしうつこと
ばいぼく〔賣卜〕うらかた
はいめい〔拜命〕おほせをうくること
はいめつ〔廢滅〕ほろぶること
はいめん〔背面〕うしろおもて
ばいやう〔培養〕土かひやしなふこと
ばいやく〔賣藥〕うりぐすり
はいよう〔佩用〕身におび用ゐること
はいよう〔胚孕〕子をはらむこと
ばいらい〔蓓蕾〕花のつぼみ
はいらん〔悖亂〕國をみだすこと

はいり〔悖理〕だうりにはづれたること
はいりつ〔廢立〕天子を廢し、又立つること
はいりやう〔拜領〕もらひうくること
はいりよ〔配慮〕心をくばること
はいる〔配流〕島ながし
はいれい〔拜禮〕つゝしみ禮すること
はいれい〔悖戾〕そむきたがふこと
はいれつ〔排列〕ならぶること
はいをく〔敗屋〕あばらや
はう〔方〕むき、かた「東の—」
はう〔報〕しらせ「急—に接す」
はう〔砲〕てッぱう
ばう〔暴〕らんばう
ばう〔坊〕僧の居るところ
ばう〔帽〕かぶりもの
ばう〔房〕へや
ばうあく〔暴惡〕手あらくあしきこと
ばうあつ〔防遏〕ふせぎとゞむること
はうあん〔保安〕やすらかにたもつこと
はうあん〔方案〕かんがへ
はうい〔芳意〕御心ざし
はういう〔包有〕つゝみもつこと

はういう〔保有〕たもつこと
はういつ〔放逸〕わがまゝ
ばういん〔暴飲〕酒をむやみにのむこと
はうゑい〔泡影〕水のあわと物のかげ「夢幻—」
はうゑん〔砲烟〕つゝのけむり
はうおん〔報恩〕恩かへし
はうか〔放歌〕大聲にてうたふこと
はうか〔放下〕なげすつること
はうが〔萌芽〕草木のめざし
ばうがい〔妨害〕さまたげ
はうかう〔方向〕むき
はうかう〔爬行〕蟲獸などの地をはふこと
はうかう〔芳香〕よきにほひ
はうかう〔咆哮〕ほえたけること
ばうかう〔暴行〕手あらきおこなひ
ばうかう〔滂浩〕ひろくおほきなるさま
はうかく〔方角〕むき
はうがふ〔抱合〕いだきあふこと
はうかん〔寶鑑〕よきかゞみ
はうかん〔芳翰〕他人の書狀の敬稱
はうがん〔芳顏〕他人のかほの敬稱

はうがん〔包含〕ふくむこと
ばうかん〔坊間〕町のうち、市中
ばうかん〔暴漢〕あばれもの
ばうかん〔暴悍〕わるくたくましきこと
はうき〔箒〕塵をはらふ具
はうき〔邦畿〕都近き地
はうき〔芳紀〕美人の年齢
はうき〔寶器〕貴きしな
はうき〔抛棄〕なげすつること
はうき〔謗毀〕わるくそしること
ばうき〔耄期〕おいぼれどき
はうきやう〔邦疆〕くにざかひ
ばうきやく〔忘却〕わするゝこと
ばうぎやく〔暴逆〕手あらきこと
ばうきよ〔暴擧〕らんばうのふるまひ
ばうぎよ〔防禦〕ふせぐこと
はうくわ〔放火〕つけ火
はうくわ〔包裹〕つゝむこと
はうくわう〔彷徨〕さまよふこと
はうくわう〔放曠〕しまりなきこと
ばうくわう〔膀胱〕小便ぶくろ
はうくわつ〔包括〕ひきくるむこと

はうくわん〔抱關〕門をまもる人
ばうくわん〔傍觀〕わきより見ること
ばうげ〔妨礙〕さまたげ
はうけい〔方形〕四角のかたち
はうけい〔方計〕はかりごと
ばうけい〔旁系〕わかれの系圖
はうげき〔砲擊〕大砲にてうつこと
はうけん〔寶劍〕貴きつるぎ
はうけん〔邦憲〕くにのおきて
はうげん〔放言〕いひちらすこと
はうげん〔方言〕くになまり
ばうけん〔冒險〕けはしきををかすこと
ばうけん〔望見〕のぞみ見ること
ばうげん〔妄言〕みだりなることば
ばうげん〔暴言〕らんばうのことば
はうご〔保護〕たすけまもること
はうご〔放語〕いひちらすこと
ばうご〔妄語〕みだりなることば
はうこく〔報告〕つげしらすること
はうこく〔報國〕國にむくゆること「――の丹心」
はうこく〔邦國〕くに

ばうこく〔亡國〕ほろびし國
ばうこひようか〔暴虎憑河〕命しらずのことをなすこと「――の勇」
はうこん〔方今〕たゞ今
ばうこん〔亡魂〕死人のたましひ
はうさい〔堡砦〕とりで
はうさい〔報賽〕神佛への禮まゐり
はうざい〔方劑〕くすりのあはせかた
ばうざい〔防材〕敵をふせぐ材木
はうさう〔疱瘡〕病の名
はうざう〔寶藏〕たからのくら
はうざう〔包藏〕つゝみかくすこと
はうさく〔方策〕はかりごと
ばうさつ〔榜札〕たてふだ
はうさん〔放散〕とびちること
はうさん〔寶算〕天子の年齢
はうさん〔謗訕〕そしること
はうし〔放恣・放肆〕わがまゝ
はうし〔芳志〕他人の志の敬語
ばうし〔榜示・牓示〕たてふだして示すこと
ばうし〔望視〕とほくよりのぞみ見ること
ばうし〔帽子〕かむりもの

ばうし〔茅茨〕屋根をふくかやのはし「――を刈らず」
ばうし〔芒刺〕草木のとげ
はうしう〔報酬〕むくい
はうしう〔報讎〕かたきうち
ばうしつ〔亡失〕ほろびうしなふこと
ばうじつ〔望日〕十五日のこと
はうしや〔報謝〕物を贈り報ゆること
ばうしや〔茅舍〕わらや
ばうしや〔坊舍〕いほり、僧庵
ばうしや〔防遮〕ふせぎさへぎること
はうしやう〔褒賞〕はうび
はうじやう〔芳情〕他人の御心の敬語
はうじやう〔褒狀〕ほむるしるしのかきつけ
ばうしやう〔帽章〕ばうしのしるし
ばうじやう〔亡狀〕らんばう
ばうじやくぶじん〔傍若無人〕我が思ふまゝなるさま
ばうしゆ〔防守〕ふせぎまもること
はうしゆん〔芳春〕春のこと
ばうしゆん〔髦俊〕すぐれたる人
はうじよ〔幇助〕たすくること

はうしよく〔飽食〕くひあくこと
ばうしよく〔暴食〕おほぐひ
はうしん〔方針〕とるべき目的
はうしん〔放心〕心のしまらぬこと
はうしん〔芳信〕花のたより
はうじん〔訪尋〕人をたづぬること
はうじん〔邦人〕わが國の人
ばうじん〔傍人〕そばに居る人
はうず〔報〕「むくゆ(報)」を見よ
ばうず〔坊主〕僧のこと
はうすん〔方寸〕むれのうち
はうせい〔方正〕心、行などのたゞしきこと
ばうせい〔暴政〕あしき政事
はうせき〔寶石〕貴き石
ばうせき〔紡績〕糸をつむぐこと
ばうせつ〔妄說〕みだりなる說
はうぜん〔保全〕やすくたもつこと
ばうせん〔防戰〕ふせぎたゝかふこと
ばうぜん〔茫然・惘然〕あきれてぼんやりしたる貌「――として爲す所を知らず」
はうそ〔寶祚〕天子の御位
はうそ〔苞苴〕まひなひのおくりもの

はうそく〔飽足〕あきたること
ばうそく〔防塞〕ふさぐこと
ばうぞく〔望族〕貴き家がら
はうだ〔滂沱〕水の流れたるゝ貌「涙――たり」
はうだい〔砲臺〕大砲をうつだいば
はうたう〔放蕩〕惡しき遊びにふけること
ばうだい〔尨大〕わるくおほきなること
はうたふ〔報答〕こたふること
ばうたん〔妄誕〕そらごと
はうち〔報知〕しらすること
はうぢ〔保持〕たもつこと
はうぢ〔抱持〕かゝへもつこと
はうちく〔放逐〕おひはらふこと
はうちやう〔庖丁〕料理をする刀
ばうちやう〔傍聽〕わきにてきくこと
ばうちやう〔膨脹〕ふくるゝこと
ばうちやう〔暴漲〕水のみなぎること
はうちゆう〔庖廚〕くりや
はうづ〔方圖〕さだめ「――なし」
はうてい〔謗詆〕そしること
はうてき〔放擲〕なげうつこと

はうど〔方土〕くに
ばうと〔暴徒〕わるもの
ばうとう〔冒頭〕文章のかきはじめ
ばうどう〔暴動〕あばるゝこと
はうとく〔報德〕恩德にむくゆること
ばうとく〔謗讟〕そしること
ばうとく〔冒瀆〕をかしけがすこと
はうにん〔放任〕なりゆきにまかすること
ばうにん〔冒認〕人の物を我が物と認むるを
はうねん〔放念〕氣にかけぬこと
はうはい〔澎湃〕河水のみなぎるさま「激流――たり」
ばうばい〔傍輩〕なかまどうし
はうばう〔方方〕あちらこちら
はうばう〔滂滂・汸汸〕水の盛んにながるゝさま「――たる河海」
ばうばう〔莽莽〕草深き貌「草――たり」
ばうばう〔哤哤〕言語のかまびすしき貌
ばうばう〔茫茫〕ひろ〴〵としてはてしなきさま「――たる海天」
ばうばく〔茫邈〕ひろ〴〵としてはてしなきさま

ばうはつ〔暴發〕にはかにおこること
はうひ〔謗誹〕そしること
はうび〔褒美〕ほむること
ばうひ〔旁批〕ほかゝらみての批評
はうふ〔抱負〕もちまへ
ばうふ〔亡父〕なき父
ばうふ〔暴富〕にはかにとむこと
ばうふ〔防腐〕くされをふせぐこと
ばうふう〔暴風〕あらし
はうふく〔抱腹〕はらをかゝへて笑ふこと
はうふつ〔髣髴・彷彿〕よくにかよひたるさま「水天――たり」
はうぶつ〔方物〕その地方の產物
はうふん〔芳芬〕かぐはしきこと
はうへき〔放辟〕ねぢけてをること
はうへん〔褒貶〕ほむるとそしると「譏譽――」
はうべん〔方便〕たより
ばうぼ〔亡母〕なきはゝ
はうぼく〔芳墨〕他人の書狀の敬稱
はうぼつ〔咆悖〕たけりいかること
はうはふ〔方法〕しかた

はらまつ〔泡沫〕水のあわ
はらむる〔葬〕死人の屍を土に埋む○埋葬
はらめい〔芳名〕かぐはしき名
ばらめい〔冐名〕名をいつはりをかすこと
ばらめい〔亡命〕くにをにげいだすこと
ばらめつ〔亡滅〕ほろぶること
はらめん〔放免〕ゆるしはなつこと
はらめん〔方面〕そのかたのむき
はらもつ〔寳物〕たからもの
はらもん〔訪問〕とひたづぬること
はらやう〔保養〕身をやしなふこと
はらやう〔彷徉〕さまよふこと「四方に──す」
ばらやう〔茫洋〕ひろ〲したるさま「──たる海面」
ばらやう〔望洋〕とほく海をのぞむを「──の歎」
はらやう〔放浪〕思ひのまゝに遊びまはること
はららつ〔放埒〕身持のわるきこと
はらり〔方里〕一里四方「十──の地」
はらりやく〔方略〕はかりごと

ばられい〔亡靈〕なき人のたましひ
ばられい〔暴戻〕らんばう
ばらろう〔望樓〕ものみの高どの
はらろく〔焙烙〕いりなべ
はらゐ〔方位〕むき
はらゐ〔寳位〕天子の位
はらゐ〔抱圍〕兩手にてかゝへかこむこと
ばらゐ〔暴威〕あらきいきほひ
はらゐき〔邦域〕くにのさかひのかぎり
ばらゑい〔防衞〕ふせぎまもること
ばらをく〔茅屋〕わらや
はえ〔榮・映〕みえのよきこと
はおり〔羽織〕着物の名
はか〔墓〕死人を葬る所○墳墓 塋域 冢塋 塋墳
はか〔果〕仕事のすゝみ「──が行く」
ばか〔馬鹿〕「おろか（愚）」を見よ
はかい〔破戒〕戒をやぶること
はかく〔破格〕格をやぶること
ばかす〔魅〕だます（重に狸狐などにいふ）
はかせ〔佩刀〕こしがたな
はかせ〔博士〕學位の名（ひろく學者の意にもいふ）

はかどる〔果取〕はかゞゆく○進歩 進渉
はかなし〔儚〕とりとめたるをなし「──き戯」
はがね〔鋼鐵〕かたき鐵
はかま〔袴〕腰につくる着物
はかま〔苞〕花などのはかま
はからふ〔計〕「はかる（計）」を見よ
はかり〔秤〕物の輕重を知る具 ○衡秤 權衡
はかりごと〔謀〕もくろみ ○猷謀 策略 謀計 謀策 謀圖 計略 計圖 計謀 計策 計數 計議 方策 機數 機謀 規謀 權謀 權數 權略
はかる〔計〕かぞふ○計算 量計 料計
はかる〔謀〕「はかりごと（謀）」を見よ
はかる〔圖〕見つもる○企圖 計圖
はかる〔度〕物尺にて長短をはかる○計度 量度 測度 料度 規度 揆度
はかる〔料・量〕桝にて多少をはかる ○揆量 商量
はかる〔稱・權〕秤にて輕重をはかる ○權度
はかる〔測〕水の深さをはかる○窺測 測量 測度
はかる〔忖〕他人の心をおしはかる○忖度
はかる〔詢〕相談をなす○諮詢 諮問
はかる〔揣〕手さぐりにはかる○臆揣 揣摩 推摩
はかる〔議〕論じさだむ○評議 商議 論議 諮議
はき〔破棄〕やぶりすつること
はき〔覇氣〕人に頭立つ氣性
はき〔破毀〕やぶりこぼつこと
はぎ〔脛〕すね
はぎ〔接〕つけ合せめ「衣の──、板の──」
はぎ〔萩〕草花の名
はきふ〔波及〕波の四方に達するが如くおし及ぶこと
はきやう〔破鏡〕われたるかゞみ（夫婦相別るゝにいふ）「──の歎」
はきやく〔破却〕やぶりすつること
はく〔箔〕金、銀を紙のごとくのばしたるもの
はく〔帛〕きぬおりもの

はく〔吐〕口より出す○嘔吐 吐出(トシユツ)(食物を吐く)‖吐露(言論を吐く)
はく〔掃〕はらひきよむ○掃除(サウヂ) 洒掃(サイサウ)
はく〔佩〕腰につく○佩帶(ハイタイ) 佩用(ハイヨウ)
はく〔穿・履〕足にはく
はぐ〔接〕つゞりあはす○補綴(ホテツ) 點綴(テンテツ)
はぐ〔剝〕㈠ぬげはなる ○剝脫(ハクダツ) 剝落(ハクラク) ㈡「うばふ(奪)」を見よ
はぐ〔矧〕矢をつくる
ばく〔化〕形を變ふ○變化(ヘンクワ) 變形(ヘンケイ)
はくあ〔白堊〕しろかべ
はくあい〔博愛〕ひろく愛すること
はくう〔白雨〕にはかあめ
ばくう〔麥雨〕さみだれ
ばくえき〔博奕〕かけごと
ばくえん〔邈焉〕はるかなるさま「——たる希望」
はくか〔薄荷〕藥の名
はくが〔博雅〕ひろく物事に通じ居ること
ばくか〔幕下〕將軍の手した
はくがい〔迫害〕他をそこなふこと
はくがく〔博學〕學ひろきこと

はくかふ〔博洽〕物事にひろくゆきわたること
ばくぎやく〔莫逆〕「ばくげき(莫逆)」を見よ
はくぎ〔薄儀〕手うすき謝儀
はくきふ〔薄給〕少き給金
はくぎよく〔璞玉〕みがゝぬ玉
はくきん〔迫近〕ちかよりせまること
ばくきん〔縛緊〕きびしくしばること
はくく〔白駒〕光陰のこと「——の隙を過ぐるが如し」
はくくわ〔舶貨〕舶來品のこと
はくけい〔伯兄〕第一の兄
はくげき〔駁撃〕他人の說をうつこと
はくげき〔搏擊〕うちたゝくこと
ばくげき〔莫逆〕互にしたしくして逆はぬこと「——の友」
ばくこ〔邈乎〕きはめてとほきさま
はくこつ〔白骨〕さらされたる骨
はくさい〔舶載〕ふねにのすること
はくさい〔薄才〕才のともしきこと
ばくさう〔爆燥〕さらしかわかすこと
はくさつ〔搏殺〕うちころすこと
はくざつ〔駁雜〕いりまじれること「——せ

ろ議論」
ばくしう〔麥秋〕むぎをかるとき
はくしき〔博識〕ものじり
はくじつ〔白日〕ひるなか「靑天——」
はくしや〔薄謝〕手うすき謝禮
はくしやう〔拍掌〕手をうつこと
はくじやう〔薄情〕つれなき心
はくじやう〔白狀〕罪をいひひらきし口書
はくじやく〔薄弱〕力よわきこと
はくしゆ〔拍手〕手をうちならすこと「——喝采」
はくしゆく〔伯叔〕兄と弟と
ばくしよ〔曝書〕書物の蟲ぼし
はくじん〔白刄〕ぬきみの太刀
はくす〔博〕ひろく知らる「名聲を—す」
はくす〔駁〕非をうちやぶる「甲論じ乙—す」
ばくす〔縛〕「しばる(縛)」を見よ
はくせい〔剝製〕鳥などの羽をはぎてその形に作りしもの
はくせい〔搏噬〕獸のかみあふこと
はくせき〔白皙〕ましろきこと「——人種」
はくせん〔搏戰〕うちあひたゝかふこと

ばくぜん〔漠然〕ぼんやりしたるさま「——たる論據」
ばくぜん〔驀然〕まッしぐらに行くさま「——として馳走す」
ばくぜん「邈然」きはめて遠きさま「——たる宇宙」
はくたい〔薄待〕もてなしのわるきこと
ばくだい〔莫大〕きはめて大きなること「——の利」
はくだつ〔剝奪〕他人の物をはぎとること
はくち〔白痴〕ばかもの
ばくち〔博打〕かけごと
はくちう〔白晝〕まひる中
はくちゆう〔伯仲〕長子と次子と「——の間に在り」(まさりおとりのなき意にいふ)
ばくと〔博徒〕ばくちうち
はくとう〔搏鬪〕うちたゝかふこと
はくとく〔薄德〕德のうすきこと
ばくばく〔寞寞〕もの靜なる貌「四隣——たり」
ばくばく〔邈邈〕とほくはなれたる貌「——たる前途」
ばくばく〔漠漠〕ひろ〴〵したる貌「——た

ろ虜原」
はくはつ〔白髮〕しらがの髮の毛
ばくはつ〔爆發〕はれて火を出すこと
はくひ〔薄非〕德などのうすきこと
はくび〔白眉〕衆にすぐれたる人のこと
はくひよう〔薄氷〕うすき氷
はくふ〔伯父〕をぢ
ばくふ〔瀑布〕たき
ばくふ〔幕府〕武家の政府
はくぶつ〔博物〕動、植、鑛の三界のもの
はくぶん〔博聞〕ひろくきゝ知ること
はくへき〔白壁〕しらかべ
はくぼ〔伯母〕をば
はくぼ〔薄暮〕たそがれどき
はくほう〔薄俸〕少き給金
はくめい〔薄命〕ふしあはせ
はくめい〔薄明〕あけぼの
はくめん〔白面〕年若きこと「——の書生」
はくらい〔舶來〕外國より舶にて渡りしもの
ばくらう〔博勞〕馬の賣買をなすもの
はくらく〔剝落〕はげておつること
はくらく〔伯樂〕馬の醫者
ばくらく〔寞落〕おとろふろさま「——せる悲境」
はくらん〔博覽〕ひろくみること
はくり〔薄利〕うすきまうけ
ばくれつ〔爆裂〕火氣のためにはれさくること「——彈」
はくろ〔白露〕しらつゆ
はぐろ〔鐵漿〕齒をそむるかね
ばくろ〔暴露〕惡事陰謀などあらはるゝこと
ばくろう〔麥隴〕むぎばたけ
はくわい〔破壞〕やぶりこはすこと
はくわい〔破潰〕やぶれつひゆること
ばくゑつ〔驀越〕とびこゆること
ばくゑん〔邈遠〕はるかに遠きこと
はけ〔刷毛〕ちりをはらふ具
はげ〔禿〕髮のぬけたるあと
ばけ〔化〕あざむき「—の皮」
はげし〔烈・厲〕勢つよし〇强烈 猛烈 烈激 過激 劇甚 急劇 急激
はげます〔勵〕いさみてなさす 〇奬勵 激勵 奬誘 刺激 刺衝
はげむ〔勵〕いさみてなす 〇出精 勵精

勉勵 銳意 奮發 奮勵
ばけもの〔化物〕あやしきもの 〇幽靈 妖怪 妖魔 妖魅 變化 鬼魅 魑魅 魍魎 魍魎
はけん〔派遣〕わけつかはすこと
はこ〔箱・匣・筥・筺〕物を入るゝ具
はご〔羽子〕小兒の玩具「——板」
はこぶ〔運〕物品をはこぶ〇運漕 運送 運搬 搬運 運輸
はこべ〔蘩〕草の名
ばさ〔婆娑〕㊀舞の袖のひるがへるさま㊁物のちりみだれたるさま「松影——」
はさい〔破碎〕やぶりくだくこと
はざま〔狹間〕あはひ「山の——、岩の——」
はさまる〔挾〕物と物との間に入る〇介立
はさみ〔鋏〕物をはさみきる具〇剪刀 鉸刀
はさみ〔螯〕蟲の手にあるはさみ
はさむ〔挾〕物と物との間に入れてもつ
はさむ〔挿〕物の間にさし入〇挿入
はさん〔破產〕財產をやぶること
はし〔橋〕水上にかけ渡したる橋 〇橋梁
はし〔階〕堂にのぼるきだはし〇段階
はし〔箸〕食物をはさむはし
はし〔嘴〕鳥蟲などの口ばし
はし〔端〕物のとぎるゝはし〇端緒 發端 (始の端)=邊端 末端(終の端)=極端 (ごくの端)
はじ〔櫨〕木の名
はしか〔痲疹〕病の名
はじく〔彈〕たわめてはなつ〇彈撥
はしけ〔艀〕小さき舟〇扁舟 端艇 艀艇 脚船
はしご〔梯子〕高に上る具
はしこし〔捷〕すばやし〇敏捷 機敏 機捷
はしばみ〔榛〕木の名
はじまる〔始〕「はじむ(始)」を見よ
はじむ〔始・創・肇〕事をしだす(創は新につくる意、肇は基を立つる意)〇開始 創始 肇始
はじめ〔初〕はじめての時、まへかた〇當初 最初
はじめ〔始〕事のおこり、手はじめ 〇發端

端緒元始草創濫觴嚆矢權輿
はしゆ〔播種〕種をまくこと
はしゆつ〔派出〕くばりいだすこと
ばしよ〔場所〕ところ
はしよく〔播植〕種をまきうゝること
はしら〔柱〕家の屋根をさゝふるはしら
はしる〔趨・走・奔〕趨は足ばやにあるくこと、走はかけてゆくこと、奔は一目散にかけゆくこと○奔走趨走奔趨＝馳走驅走駛走奔馳（馬にてはしる意）＝疾走迅走疾趨急趨駿奔（早くはしる）
はす〔蓮〕草の名
はす〔馳〕馬にてかけ走る○馳驅馳驟馳騁
はず〔筈〕然るべきすぢ「行く―、勝つ―」
はずみ 勢にのること○機勢機運機轉
はぜ〔沙魚〕魚の名
ばせう〔芭蕉〕草の名
はせん〔波線〕波のうねりのかたの線
はそく〔把束〕たば、たばね
はそく〔頗側〕かたよること

はそん〔破損〕やぶれいたむこと
はた〔旌・旗・旛〕めじるしとする具○旌旗旗旆旗幟旌幟旆旌
はた〔機〕布をおるはた
はた〔畑・畠〕水なき田地○陸田白田
はた〔將〕また、あるひは「是か―非か」
はだ〔肌・膚〕「はだへ（肌・膚）」を見よ
はだ〔陂陁〕平ならぬこと「地勢――たり」
はたう〔波濤〕おほなみ
はたう〔波蕩〕波のごとくゆるゝこと
はだか〔裸〕むきだしのからだ○裸體赤裸
はたご〔旅籠〕「やどや（宿屋）」を見よ
はだし〔跣〕すあし○徒跣跣足
はたす〔果〕しとぐ
はだへ〔肌・膚〕身の皮○肌膚皮膚
はたらかす〔働〕うごかす○運轉運用活用
はたらき〔働〕○才幹才覺才能才力能幹器量（心のはたらき）
はたらく〔働〕つとめなす○勞動動作力作工作＝營々役々（働くさま）

はたん〔破綻〕やぶれほころぶること
はだん〔破談〕相談がやぶるゝこと
はち〔鉢〕食物を入るゝ具「木―、鐵―」
はち〔蜂〕蟲の名
はぢ〔把持〕手にとりもつこと
はぢ〔恥〕心に深くとがむること○恥辱羞辱慙愧慚愧愧羞
ばち〔罰〕神佛のこらしめ○鬼誅天誅
ばち〔撥〕樂器の弦をひき鳴す具
ばち〔桴・枹〕太皷などうちならす棒
はちく〔破竹〕竹をわること「――の勢」
はちす〔蓮〕草の名○芙蓉
はちまき〔鉢卷〕頭に布など卷くこと
はぢゆう〔把住〕しッかりもちてをること
はつ〔果〕「をはる（終）」を見よ
はつ〔初〕はじめ「―春、―午」
はづ〔恥・慚・愧・羞〕恥は深く心にとがむる意、慚・愧は見苦しきをいとふ意、羞はまばゆくはづかしげにする意○慚愧愧赧羞辱愧羞羞慚慚怍靦慚愧恥＝靦然赧然怍然（はづるさま）
ばつ〔罰〕罪をこらすこと

ばつ〔跋〕書物の末にかき添ふる文
はついく〔發育〕そだち
ばつえふ〔末葉〕ちすぢのすゑ
はつおん〔發音〕口より音を出すこと
はつが〔發芽〕めばえ
はつかう〔醱酵〕酒の泡立ちわくこと
はつかう〔發行〕書籍などうりいだすこと
はつかう〔發向〕旅にでかくること
はつかく〔發覺〕惡事陰謀などあらはるゝこと
はづかし〔羞〕「はづ（羞）」を見よ
はづかしむ〔辱〕はぢを與ふ○汚辱屈辱折辱侮辱淩辱詬辱
はつかん〔發刊〕書物を版にすりていだすこと
はつかん〔發汗〕あせを出すこと
はつき〔發輝〕光をはなつこと
はつぎ〔發議〕議をいひ立つること
はつきやう〔發狂〕氣ちがひになること
はつくつ〔發掘〕ほりあばくこと
はつくわ〔發火〕火をはなつこと
はつくわい〔發會〕會をおこすこと
はつくわう〔八荒・八紘〕天地の間（四方と四

陋との意)

ばつぐん〔拔群〕衆にすぐれぬくること「——の功」

はつけん〔發遣〕使などつかはすこと

はつけん〔發見〕みいだすこと

はつげん〔發言〕いひ出すこと

ばつこ〔跋扈〕はびこること「跳梁——」

ばつさい〔伐採〕きりとること

はつしや〔發射〕矢丸をいはなつこと

はつす〔發〕㊀おこる「病—す」㊁いだす「手紙を—す」

ばつす〔罰〕罰にあつ

ばつする〔拔萃〕ぬきがきすること

はつせい〔發生〕はえいづること

ばつせふ〔跋渉〕わたりあるくこと

ばつぞく〔撥賊〕わるものを平ぐること

ばつそん〔末孫〕すゑのまご

はつだ〔發兌〕賣りいだすこと

ばつた〔蝗蚱〕蟲の名

ばつたう〔拔刀〕刀をぬくこと

はつたつ〔發達〕のびそだつこと

はつちやく〔發着〕出發と到着と

はつてい〔發程〕旅にてかくること

ばつてき〔拔擢〕ぬきいだすこと

はつと〔法度〕おきて

はつと〔發途〕旅にいてたつこと

はつどう〔發動〕うごきいだすこと

はつばい〔發賣〕うりだすこと

はつぱう〔發砲〕大砲をうちだすこと

はつぴ〔法被〕しるし半てん

はつぷ〔髮膚〕かみの毛とはだへと

はつぷ〔發布〕ふれいだすこと

はつぷん〔發憤〕いきどほりをおこすこと

はつぺう〔發表〕あらはし示すこと

ばつべう〔拔錨〕船の港を出づること

ばつぼく〔伐木〕木をきること

はつめい〔發明〕考へいだすこと

はつやう〔發揚〕あらはしあぐること

はつらつ〔潑剌〕魚のをどるさま「——たる池魚」

はつらん〔撥亂〕みだれを平ぐること「——反正」

ばつりう〔末流〕すへのながれ

はづる〔外〕はまらず○脱出

はつろ〔發露〕あらはるゝこと

はつれん〔發輦〕天子の御車の出づること

はて〔果〕㊀をはり、すゑ○究竟 究極 極終 極點 極度 ㊁「かぎり(限・際)」を見よ

ばてい〔馬丁〕馬かた

ばてい〔馬蹄〕馬のひづめ

はでやか「はなやか(華)」を見よ

はてんくわう〔破天荒〕物の端を開くこと「——の事業」

はと〔鳩〕鳥の名

はと〔覇圖〕おほいなるはかりごと

はどう〔波動〕波のうごくこと

はとば〔波戸場〕船の荷あげをなす場○港埠 埠頭 碼頭

はな〔花〕草木のはな○嬌花 綺花 艷花(うつくしき花)‖落花 散花(ちる花)‖殘花(散りのこりの花)‖晚花(おそ咲きの花)

はな〔鼻〕香をかぐはな

はなし〔話・噺・咄〕ものいひ○話說 談話 ‖講談 講古 講話 講釋(ものがたり)‖坐談 對話(人と向うて居ての話)

はなす〔話〕「はなし(話・噺・咄)」を見よ

はなす〔離〕「はなる(離)」を見よ

はなだ〔縹〕色の名

はなつ〔縱〕ゆるしてやる○追縱 放縱

はなつ〔放〕とりはなす○解放 放離

はなつ〔發〕うちいだす○發射

はなはだ〔甚〕いたく「—寒し」

はなはだし〔甚〕いたし、はげし○激甚 太甚 籍甚

はなむけ〔餞・贐〕旅立つ人に贈る品 ○餞別 餞祖 祖道 祖餞

はなやか〔華〕うるはしきこと○華美 華麗 美麗 艷美 艷麗 秀麗‖端麗 端嚴

はなる〔離〕別になる○分離 隔離 別離 離別 乖離(進退動作のはなやかなること)

はぬ〔撥〕末をはらひあぐ「筆を—ぬ」

はぬ〔跳〕をどりあがる○跳躍

はぬ〔刎〕首をきりさる○刎首 刎頸

はね〔羽根〕鳥のはね○羽毛 羽翼

はは〔母〕女のおや○母堂 北堂

はゞ〔幅・巾〕横のわたり○幅員
ばゞ〔祖母〕父母の母にあたる人
ばゞ〔婆〕年よりの女○老嫗　老媼
はゞかる〔憚〕おそれつゝしむ○忌憚　畏憚　顧憚
はゞき〔脛巾〕きやはん○脚絆　脛衣
はゞむ〔沮〕さまたげ支ふ○沮害　沮止　沮格
はひ〔灰〕火のもえがらのあく
はびこる㊀草などはひしげる○蔓延㊁悪行を恣にす○跋扈　跳梁　強梁　横行
はふ〔覇府〕将軍の政府
はふ〔破風・搏風〕屋のきりむねのはし
はふ〔這〕㊀手足を地につけて歩む○匍匐　腹行㊁（人がはふ）＝爬行　跂行（獸蟲などがはふ）＝延蔓　蔓延（草がはふ）
はぶ〔波布〕毒蛇の名
はぶく〔省〕のぞく○省略　刪略　闕略
はへ〔蠅〕蟲の名○蒼蠅
はへき〔頗癖〕かたひいき
はべり〔侍〕あり、又は居りの敬語

はま〔濱〕海のはまべ○海岸　海濱　海畔
はまぐり〔蛤〕貝の名
はまる〔嵌〕「はむ（嵌）」を見よ
はむ〔食〕「くらふ（食）」を見よ
はむ〔嵌〕はめこむ○嵌入
はめつ〔破滅〕やぶれほろぶること
はもの〔刄物〕きれもの
はもん〔破門〕吾がなかまよりおひ出すこと
はやあし〔疾足〕いそぎあし○急歩　快歩
はやく〔破約〕約束をやぶること
はやさ〔早〕はやき度合○速度　速力
はやし〔林〕木のしげる所○山林　森林　林藪＝深林　茂林　幽林　密林（しげれる林）＝凋林　寒林　荒林（冬がれの林）＝疎林（まばらの林）
はやし〔早〕「すみやか（速）」を見よ
はやじに〔早死〕「わかじに（若死）」を見よ
はやす〔囃〕いひはやす、にぎはす
はやせ〔早瀬〕川水の流の急なる所○急湍　激湍　急流　激流
はやち〔疾風〕疾く吹く風○疾風　迅風

はやぶさ〔鶻・隼〕鳥の名
はやまる〔早〕あせる○躁急　速逸
はやみち〔早路〕手近きしかた○捷徑
はやり〔流行〕時世に行はるゝこと○流行　時興　風尙
はやりやまひ〔流行病〕一時流行する病○時疫　時疾　瘴癘
はやる〔流行〕「はやり（流行）」を見よ
はゆ〔映〕かゞやき照る「—ゆる色」
はゆ〔生〕もえ出づ○萌生　發生
はら〔腹〕身體のはら
はら〔原〕平にしてひろき所○原野　平原　曠原
ばら〔薔薇〕草の名
はらう〔破牢〕牢やぶり
はらがはり〔腹變〕生みの母の異なること○異腹　別腹
はらから〔同胞〕きやうだい○同胞　兄弟　姉妹
はらきり〔腹切〕腹をきりて死ぬること○切腹　割腹　屠腹
はらす〔晴〕のぞきちらす「恨を—す」

はらばふ〔匍〕手足にてはふ○匍匐
はらひ〔祓〕神をいのりて災をのぞくこと○解除　祓除　禳祓
はらふ〔拂〕㊀のぞく○除拂㊁錢をわたす「勘定を—ふ」
はらふ〔掃〕箒にてはき淸む○掃除　掃洒　淨掃
はらふ〔攘〕わる者をのぞく○掃攘　攘蕩　排攘
はらふ〔祓〕「はらひ（祓）」を見よ
はらむ〔孕・妊〕身ごもる○妊娠　懷妊　懷胎　懷孕　胚孕　胚胎
はらわた〔腸〕百ひろ「—を斷つ」
はらん〔波瀾〕おほなみ
はらん〔破爛〕ひどくこはるゝこと
はり〔針〕布をぬふはり
はり〔鍼〕醫療に用ゐるはり
はり〔刺〕草木のとげ
はり〔螫〕毒蟲のはり
はり〔梁〕家のはり
はり〔玻璃〕ガラスの類
ばり〔罵詈〕のゝしること

はりあふ〔張合〕たてつく○拮抗 抵抗 扞挌 抗衡 對扞 對抗 對敵
はりつけ〔磔〕刑の名
はりん〔破倫〕人のみちにそむくこと
はる〔春〕季節の名 ○陽春 青春 芳春＝早春 初春 孟春（春のはじめ）＝仲春 盛春 酣春（春のなかば）＝晩春 季春 殘春（春のすゑ）
はる〔張〕おしのばず○皇張 擴張（ひろめはる）
はる〔貼〕ればしつく○粘着 粘貼
はる〔晴・霽〕空の曇たゆ ○開晴 牢晴 快晴
はる〔腫〕傷む所がふくれあがる ○掀腫 擁腫
はるか〔遥〕遠くはなれたること ○遼遥 迢遥 悠邈 悠遠 杳渺 杳邈 遼遠 遼邈 遥邈 迥遐 邈焉＝遼々 杳々 遥々 渺々 邈々 迢々 渺然 邈然 杳然 渺乎 邈乎（はるかなるさま）
はれつ〔破裂〕やぶれさくること
はれもの〔腫物〕できもの○瘡腫 腫瘍 瘡瘍

はれんち〔破廉恥〕はぢしらずのこと
はわう〔覇王〕大名のはたがしら
はをく〔破屋〕やぶれや
はん〔判〕㈠いんぎやう「印―」㈡さばき「歌を―ず」
はん〔藩〕大名のこと「―士」
はん〔版〕はんぎ「活―、石―」
ばん〔晩〕日ぐれ「今―、明―」
ばん〔番〕㈠あたりばん㈡物の順序をいふ語「五―、十―」
ばん〔盤〕だい「碁―」
ぱん〔麪包〕麥粉にて製したる菓子
はんあい〔汎愛〕ひろく愛すること
はんあう〔煩懊〕もだえわづらふこと
ばんい〔蠻夷〕えびす
はんいう〔煩憂〕もだえうれふること
ばんいう〔萬有〕天地間のすべてのもの
はんいく〔蕃育〕やしなひそだつること
はんいん〔汎淫〕をごりにふけること
ばんう〔盤紆・蟠紆〕わだかまりまつはること
はんうつ〔煩鬱〕心のふさぐこと

はんえい〔繁榮〕さかゆること
はんえい〔帆影〕ほかげ
はんえん〔繁衍〕ふえひろがること
はんえん〔煩厭〕いとひきらふこと
はんおう〔反應〕物にそむき應ふること「―作用」
はんか〔煩苛〕わづらはしきこと
ばんか〔晩霞〕ゆふばえ
ばんか〔晩夏〕夏のすゑ
はんかい〔半開〕なかばひらくこと
はんかう〔版行〕出版して世に行ふこと
はんかう〔頒行〕分ちくばること
ばんがう〔番號〕じゆんばんのしるし
はんがく〔半額〕半のたか
ばんがく〔晩學〕おそまなび
はんかん〔反間〕なかをへだつるてだて
はんぎ・〔版木〕版をほりたる木
ばんき〔萬機〕すべての政
はんきやう〔反響〕こだまのひゞき
はんぎやく〔叛逆〕そむくこと
ばんきよ〔盤踞〕はびこること
はんきよく〔反曲〕そりかへること

ばんきよく〔蟠曲〕わだかまること
はんきん〔絆緊〕しつかりまとひつくこと
はんきん〔繁勤〕しげきつとめ
ばんきん〔輓近〕ちかごろ
ばんくつ〔蟠屈〕わだかまること
はんくわ〔繁華〕にぎはしきこと
ばんくわ〔晩花〕おそざきの花
ばんくわい〔挽回〕ひきもどすこと
はんぐわん〔判官〕官の名
ばんくわん〔盤桓〕たちもとほること
はんけい〔半徑〕直徑の半分
ばんけい〔萬頃〕いくへにも重なるうれ「―の波」
ばんけい〔晩景〕ゆふげしき
はんげき〔反撃〕かへりうち
はんげき〔繁劇〕いそがはしきこと
はんけつ〔判決〕さばき
ばんけつ〔蟠結〕わだかまること
はんけん〔阪險〕さかのけはしき處
はんけん〔版權〕版行の權理
はんげん〔半減〕なかばをへらすこと
はんご〔反語〕意味の裏返る語

ばんこ〔萬古〕ながき世「――不易」
ばんこ〔萬戸〕よろづの家
ばんこく〔晩刻〕ゆふがた
はんこん〔瘢痕〕きずあと
ばんこん〔盤根〕わだかまる根「――錯節」
はんさ〔繁瑣〕わづらはしきこと
はんざい〔犯罪〕罪ををかすこと
ばんざい〔萬歳〕いはひ唱ふる語「帝國――」
はんさう〔煩躁〕もだゆること
はんざつ〔煩雜〕わづらはしきこと
ばんさく〔盤錯〕いりくむこと
ばんさん〔晩餐〕ゆふめし
はんし〔半死〕半ば命のなきこと「――半生」
はんじ〔判事〕官の名
ばんし〔萬死〕とてもたすからぬこと「――を犯す」
ばんしう〔晩秋〕秋のすゑ
はんしや〔反射〕てりかへり
はんしやう〔反掌〕手のひらをかへすこと「――の暇」
はんしやう〔帆檣〕ほばしら
はんしやう〔翻翔〕鳥が空をかけること

はんじやう〔繁昌〕にぎやかなること
ばんじやう〔萬狀〕いろ〳〵のかたち「千態――」
ばんしやく〔晩酌〕夕飯時の酒もり
ばんじやく〔磐石〕いはほ
はんじゆく〔半熟〕なまにえ
ばんしゆん〔晩春〕春のすゑ
はんしよう〔反證〕反對の證據
はんしよう〔半鐘〕小さき釣鐘
はんじよう〔繁冗〕わづらはしきこと
ばんしよう〔晩鐘〕くれのかね
ばんじよう〔萬乘〕天子の位「――の寶位」
はんしよく〔繁殖〕ふえひろがること
はんじよく〔煩縟〕わづらはしくいりくみてあること
ばんしよく〔伴食〕實權なくしてその職にあるもの「――大臣」
はんしん〔叛心〕そむく心
はんしん〔半信〕なかば信ずること「――半疑」
はんしん〔半身〕かたみ
ばんじん〔蕃人〕ひらけぬ人

はんす〔叛〕「そむく(叛)」を見よ
はんす〔反〕「たがふ(違)」を見よ
ばんすゐ〔晩炊〕夕飯をかしぐこと
はんせい〔反省〕かへりみること
はんせい〔半生〕一生のなかば「――の事業」
はんせい〔反正〕正しきにかへすこと「撥亂――」
はんせい〔繁盛〕にぎはふこと
ばんせい〔晩晴〕ゆふばれ
ばんせい〔萬世〕よろづ世
ばんせい〔晩成〕おそくできあがること「大器――」
はんせう〔半霄〕なかぞら
はんせう〔半宵〕夜なか
はんせう〔反照〕てりかへすこと
はんぜう〔煩擾〕わづらはしきこと
はんせき〔版籍〕土地と人民と「――を奉還す」
はんせき〔叛跡〕そむく形跡
はんせき〔燔炙〕あぶりやくこと
はんせつ〔汎說〕あまねき說
ばんせつ〔晩節〕年老いたる時「――を全うす」

はんせん〔半錢〕一錢の半分
はんせん〔帆船〕ほかけぶね
はんぜん〔判然〕はッきりせる貌「――せる道理」
はんぜん〔翻然〕ひるがへるさま「――大悟す」
ばんせん〔盤旋〕めぐること
ばんぜん〔萬全〕だいぢやうぶのこと「――の策」
ばんそう〔伴僧〕ともの僧
はんそく〔反側〕うらがへること
はんそく〔犯則〕規則ををかすこと
はんぞく〔反賊〕むほん人
ばんそつ〔萬卒〕多くの兵卒
はんた〔繁多〕いそがはしきこと
はんたい〔反對〕うらはら
ばんたい〔萬態〕いろ〳〵のかたち
ばんだい〔萬代〕よろづ代
ばんたう〔晩稻〕おく稻
はんだん〔判斷〕さばき
ばんたん〔萬端〕よろづのこと

はんちん〔藩鎭〕國のしづめ「國家の——」
はんてい〔判定〕さばきさだむること
はんてん〔半天〕なかぞら
はんてん〔反轉〕ころびまはること
はんと〔半途〕とちゆう
はんと〔版圖〕りやうぶん
はんどう〔反動〕ゆりかへし
ばんとう〔番頭〕商家の召使の長
ばんとう〔晩冬〕冬のすゑ
はんにや〔般若〕鬼女の名
はんねつ〔煩熱〕ほめき
ばんねん〔晩年〕年老いての時
はんばい〔販賣〕うりさばくこと
はんばう〔繁忙〕いそがはしきこと
ばんばう〔萬望〕ぜひにとのぞむこと
ばんぱう〔萬邦〕よろづの國
ばんぱう〔萬寶〕よろづのたから「七珍——」
はんばく〔絆縛〕つなぎしばること
はんばく〔斑駁〕種々の色のまじりたること
はんぱく〔斑白・頒白〕しらがまじり「——の老翁」
ばんぱく〔蠻貊〕えびす

はんばつ〔藩閥〕藩藩のものゝやから「——内閣」
はんぱつ〔斑髮〕しらがまじりのかみ
ばんばん〔萬萬〕けッして「——なし」
ばんぱん〔萬般〕よろづのこと「——の事業」
はんぴ〔反比〕反對にならぶこと
はんぶ〔繁蕪〕しげりあるゝこと
はんぷ〔頒布〕わかちくばること
はんぷく〔半腹〕山のなかほど
はんぷく〔反覆〕くりかへすこと
はんぷく〔叛服〕そむくとしたがふと「——常なし」
ばんぷく〔萬福〕幸多きこと
ばんぶつ〔萬物〕よろづのもの
はんぶん〔繁文〕わづらはしきかざり「——縟禮」
はんぺい〔藩屏〕かき、へい(國のまもりとなるべきものをいふ)
はんべつ〔判別〕見わくること
はんぽ〔反哺〕子鳥の親鳥を養ひかへすこと
ばんぽ〔晩暮〕ひぐれ
はんまい〔飯米〕めしにたく米

ばんみん〔萬民〕よろづの民
ばんみん〔蕃民〕ひらけぬ民
はんむ〔繁務〕しげきつとめ
はんめい〔反命〕かへりごとすること
はんめん〔半面〕かたおもて
はんも〔繁茂〕しげること
はんもく〔反目〕にらみあふこと
はんもん〔煩悶〕もだえくるしむこと
はんもん〔斑文〕とらふ
はんや〔半夜〕夜なか
はんよう〔繁用〕用事のしげきこと
はんらう〔煩勞〕ほねをり
はんらん〔叛亂〕みだれそむくこと
はんらん〔汎濫〕みなぎりあふるゝこと
はんり〔藩籬〕かきね
はんりふ〔飯粒〕こめつぶ
はんりよ〔煩慮〕おもひわづらふこと
はんりよ〔伴侶〕なかま、つれ
ばんりよう〔蟠龍〕わだかまる龍
はんるゐ〔煩累〕うるさきこと、わづらひ
はんれい〔反戻〕そむきもとること
はんれい〔凡例〕著書の始に編輯の大要を記するもの

はんれい〔半嶺〕山の中ほど
はんれつ〔班列〕つらなりならぶこと
はんろ〔販路〕品物のうれみち
はんろ〔坂路〕さかみち
はんろう〔牂篭〕ほださるゝこと
はんゐ〔範圍〕かこひのうち
ばんゑん〔蟠蜿〕わだかまるさま

ひ

ひ〔火〕もゆるひ ○猛火(マウクワ)烈火(レックワ)(はげしき火)=鬼火(キクワ)陰火(インクワ)(あやしき火)=篝火(コウクワ)燎火(レウクワ)(かゞり火)=漁火(ギヨクワ)(いさり火)=燈火(トウクワ)燭火(シヨククワ)(あかりの火)=炬火(キヨクワ)(たいまつの火)
ひ〔日〕空にかゞやくひ ○太陽(タイヤウ)金烏(キンウ)赤烏(セキウ)火輪(クワリン)日輪(ニチリン)白駒(ハクク)
ひ〔檜〕木の名
ひ〔梭〕はたをおる具
ひ〔樋〕水をながしやるとひ
ひ〔比〕たぐひ「彼が——にあらず」

ひ〔非〕よからぬこと「吾が—を悟る」
ひ〔婢〕めしつかひ女
ひ〔妃〕きさき「皇太子の—」
ひ〔緋〕色の名「—緘の鎧」
ひ〔碑〕いしぶみ「紀念—」
ひ〔鄙〕ゐなか「都—」
ひ〔脾〕內臟の一
び〔美〕うつくしきこと「自然の—」
び〔微〕かすか、わづか「勢—なり」
び〔尾〕魚を數ふる語「鯛一—」
ひあい〔悲哀〕かなしくあはれなること
ひあく〔鄙惡〕いやしく見にくきこと
びい〔微意〕わづかのこゝろざし
ひいう〔悲憂〕かなしみうれふること
ひいき〔贔負〕ひきたつること○愛顧蔭庇眷顧
ひいづ〔秀〕すぐれぬく○秀絕秀拔超出傑出卓出
ひいん〔庇蔭〕かばふこと
ひいん〔避隱〕さけかくるゝこと
ひいん〔秘隱〕秘密にかくすこと
びう〔眉宇〕まゆのあたり（顏付のことにもいふ）
びう〔微雨〕すこしの雨
びうげん〔謬言〕あやまりのことば
びうご〔謬誤〕あやまり
びうでん〔謬傳〕あやまりのつたへ
びうん〔微運〕ふしあはせ
ひえ〔稗〕草の名
ひえう〔秘要〕だいじの要
ひえき〔裨益〕おぎなひたすくること
ひえつ〔披閱〕ひらき見ること
ひえどり〔鵯〕鳥の名
ひか〔悲歌〕かなしみうたふと「慷慨——」
ひが〔彼我〕かれとわれと
ひが〔僻〕理にたがひたること「—目、—事」
びか〔微瑕〕すこしのきず
ひかい〔披開〕ひらくこと
ひがい〔被害〕害をかうむること
ひかう〔披講〕詩歌の會にその詩歌をよみあぐること
ひかう〔費耗〕つひやしへらすこと
びかう〔微行〕しのびあるき
びかう〔美好〕うつくしく好ましきこと

ひかく〔比較〕くらべみること
ひがく〔費額〕入費のたか
ひかげ〔日影・日蔭〕「かげ（影・蔭）」を見よ
ひがし〔東〕方角の名
ひかふ〔扣・控〕引きとゞむ「差—ふ」
ひがむ〔僻〕ねぢく、かたよる○偏僻頗僻
びがめ〔僻目〕見あやまり○僻見偏見
ひかり〔光〕かゞやくこと○光耀光輝光彩光芒光暉
ひかる〔光〕「かゞやく（輝）」又は「きらめく（輝）」を見よ
ひかん〔脾疳〕病の名
ひがん〔彼岸〕㊀かなたのきし（佛經にて涅槃を彼岸といふに起る）㊁仲春と仲秋とに佛供養をなす日のこと
ひき〔引〕助くること○援引
ひき〔蟇〕かへるの一種
ひき〔疋・匹〕鳥、蟲、獸、魚など數ふる語「馬一—、雀一—」
ひき〔誹毀〕そしること
ひき〔非器〕ちゑのなきこと
ひぎ〔比擬〕ひきくらぶること
ひぎ〔非義〕道理にはづれたること
ひぎ〔非議〕あしくそしること
ひきあはす〔引合〕㊀てりあはす○對照㊁對面せさす○紹介
ひきう〔貔貅〕つはもの、兵士
びきう〔彌久〕ひさしきにわたること
ひきうく〔引受〕○負擔擔當擔任
ひきうす〔碾〕石臼のこと
ひきたつ〔引立〕㊀つれゆく○引致拘引㊁はげます○奬勵勸奬㊂あげ用ゐる○登庸
ひきつつむ〔引裹〕○網羅包括包裹
ひきふ〔悲泣〕かなしみなくこと
ひきやう〔悲況〕かなしきありさま「——に沈む」
ひぎやう〔飛行〕とびゆくこと
ひきやく〔飛脚〕急事を報ずる使
ひきよ〔避去〕さけ去ること
ひきわり〔碾割〕麥をくだきたるもの
ひきゐる〔率・帥・將〕つれゆく（將はひきまはす意）○引率

ひきん〔卑近〕手近くやさしきこと
ひく〔引〕我が方へよす「息を—く」
ひく〔延〕ひろげのばす「幕を—く」
ひく〔牽〕つなをつけてひく「牛を—く」
ひく〔曳〕ひきづりゆく「杖を—く」
ひく〔彈〕樂器をかきならす「琴を—く」
ひく〔挽〕力づよくひきまはる「車を—く」
ひく〔碾〕臼にてする
ひく〔退〕「しりぞく（退）」を見よ
びく〔比丘〕僧のこと
びく〔槃〕土をもりて運ぶ具
びぐ〔備具〕そなはること
ひくし〔低〕高くなし「水は—きに流る」
ひくし〔矮〕身の丈ひくし○矮小
ひくし〔卑〕いやし「位—き人」
ひくつ〔卑屈〕いくぢのなきこと
ひぐらし〔茅蜩〕蟲の名
ひぐれ〔日暮〕「くれ（暮）」を見よ
びくわう〔備荒〕わざはひのときのそなへ「—貯蓄」
ひくわん〔被官〕したやく
びくわん〔美觀〕うつくしきみえ
びくわん〔微官〕いやしき官
ひげ〔鬚・髭・髯〕顔のひげ（鬚はうはひげ、髭は下ひげ、髯は頰ひげ）○鬚髯
ひげ〔卑下〕へりくだること
ひけい〔秘計〕秘密のはかりごと
ひげき〔飛檄〕いそぎのしらせぶみ
ひげき〔悲劇〕かなしき演劇
びげき〔尾擊〕おひうち
ひけつ〔否決〕否ときむること
ひけつ〔秘訣〕おくのて
ひけふ〔卑怯〕いくぢなし
ひけん〔披見〕ひらき見ること
ひけん〔庇脊〕めをかくること
ひけん〔鄙見〕己のいやしき見こみ
ひけん〔非儉〕てうずきこと
ひけん〔比肩〕かたをならぶること
ひけん〔疲倦〕うみつかるゝこと
ひけん〔避嫌〕きらひさくること
ひげん〔鄙諺〕いやしきことわざ
ひこ〔曾孫〕孫の子、ひいまご
ひご〔庇護〕かばふこと
ひご〔飛語・蜚語〕うはさ

ひご〔鄙語〕ゐなかことば
びこう〔微功〕いさゝかのてがら
びこう〔獼猴〕さる（獸の名）
ひこく〔被告〕訴へられたる方
ひこばえ〔蘖〕伐りたる木の株より生じたる芽
ひごふ〔非業〕定まりたる報いにあらぬこと「—の死」
ひごろ〔日頃〕この頃より○日來曏日
ひざ〔膝〕足のひざ
ひざい〔費財〕たからをつひやすこと
びさい〔微細〕こまかきこと
ひさう〔皮相〕うはべ「—の考」
ひさう〔悲壯〕かなしみにたへざること
ひざう〔秘藏〕だいじにかくすこと
ひさぐ〔鬻・販〕あきなふ○販賣鬻賣
ひさぐ〔提・挈〕手につるしさぐ○提攜提挈提携提帶
ひさご〔瓠・瓢・匏〕ふくべ、へうたん類の總名
ひさし〔久〕時ながし○恒久長久悠久永久彌久
ひさし〔庇・廂〕作り添へたる屋ののき
ひさつ〔飛札〕飛脚の持來る手紙
ひざまづく〔跪〕つくばふ○跪坐跪踞
ひさん〔飛散〕とびちること
ひし〔菱〕水草の名
ひし〔誹訾〕そしること
ひじ〔秘事〕かくしごと
ひじ〔非時〕時ならぬ時
びじ〔美辭〕うつくしきことば
ひしう〔悲愁〕かなしみうれふること
ひじき〔鹿尾菜〕海草の名
ひしぐ〔拉〕おしつぶす○壓碎挫敗
ひしこ〔鯷〕魚の名
ひしつ〔卑濕〕土地ひきくしめりたる所
ひしめく〔犇〕おしあふ「—めく人」
ひしやう〔悲傷〕かなしみいたむこと
ひしやう〔飛翔〕空をまひかけること
ひしやう〔裨將〕そへ大將
ひじやう〔非常〕常ならぬこと
ひじやう〔非情〕こゝろなきもの「—の動物」
びしやう〔微傷〕すこしのきず

ひしやく〔柄杓〕水をくむ具
ひじやく〔疲弱〕つかれよわること
びじやく〔微弱〕かよわきこと
ひしゆ〔匕首〕あいくち
びじゆう〔尾従〕後にしたがふこと
ひじゆつ〔秘術〕秘密の術
びじゆつ〔美術〕美をかざる術
ひじゆん〔批准〕可否を定めて許可すること
ひじゆん〔比準〕なづらふること
ひしよ〔避暑〕暑さをさくること
ひしよ〔秘書〕だいじの書きもの
びしよう〔美稱〕ほめたる名
ひしよく〔非職〕官にありてその職をつとめぬもの
ひじり〔聖〕すぐれたる人のこと○聖人(セイジン)
ひしん〔飛信〕いそぎのしらせ
ひじん〔鄙人〕ゐなかもの
びしん〔微臣〕いやしき臣
びしん〔微身〕いやしき身
ひす〔比〕「くらぶ(比)」を見よ
ひす〔秘〕「かくす(隠)」を見よ
ひずむ〔歪〕かたよる、いびつになる

びずゐ〔尾隨〕あとにしたがふこと
ひせい〔秕政〕わろき政事
ひせう〔卑小〕いやしくちひさきこと
ひぜう〔肥饒〕土地のこえたること
びせう〔微少〕すくなきこと
びせう〔微笑〕ほゝゑむこと
びせう〔微小〕ちひさきこと
ひせき〔丕績〕おほいなるいさをし
ひせき〔肥瘠〕こえたるとやせたると
ひせん〔卑賤〕いやしきこと
ひせん〔被選〕えらばるゝこと
ひぜん〔疥癬〕病の名
ひぜん〔靡然〕なびくさま
びせん〔微賤〕いやしきこと
ひそ〔砒素〕元素の一
びそ〔鼻祖〕せんぞ
ひそか〔窃・竊・密〕しのびて事をなすこと○隠密(インミツ)秘密(ヒミツ)内密(ナイミツ)
びそく〔鼻息〕はないき(「鼻息を伺ふ」といひて他人の機嫌をうかゞふことにいふ)
ひそむ〔潜〕しのびてゐる○潜伏(センプク)潜匿(セントク)潜蟄(センチツ)蟄伏(チツプク)

ひそむ〔顰〕顔をしかむ○顰蹙(ヒンシユク)
ひだ〔襞積〕袴などの折り目
ひだい〔肥大〕こえふとること
びだい〔尾大〕しりのおほきなること「――掉はず」
ひだう〔悲悼〕かなしみなげくこと
ひだう〔非道〕道ならぬこと
ひたす〔浸〕「うるほす(濡・潤・霑)」を見よ
ひたす〔漬〕「つく(漬)」を見よ
ひたすら〔只管〕ひとむきに、一途に「――願ふ」
ひたたれ〔直垂〕古の衣服の名
ひたひ〔額〕顔の上部の名
ひだり〔左〕方角の名
ひたる〔浸・漬〕「ひたす(浸・漬)」を見よ
ひだるし〔饑〕ひもじ○空腹(クウフク)
ひたん〔悲嘆〕かなしみなげくこと
ひぢ〔肘・臂・肱〕腕のまがる所
ひちう〔比儔〕なかま、たぐひ
びちゆう〔微衷〕わづかなるま心
ひちりき〔篳篥〕樂器の名
ひつ〔櫃〕ふたある箱の名

ひつい〔筆意〕ふでづかひ
ひつう〔悲痛〕かなしくいたましきこと
ひつえう〔必要〕なくてならぬこと
ひつか〔筆架〕ふでかけ
ひつかう〔筆耕〕書きものをうつすこと
ひつき〔筆記〕ふでにしるすこと
ひつぎ〔棺・柩〕死人を入るゝ桶○棺柩(クワンキウ)棺槨(クワンクワク)
ひつきやう〔畢竟〕つまり
ひつぐう〔匹偶〕つれあひ、夫婦
ひつさい〔筆才〕ふでさきの才智
ひつさぐ〔提・挈〕「ひさぐ(提・挈)」を見よ
ひつし〔筆紙〕ふでとかみ
ひつし〔必死〕死ぬるかくご
ひつじ〔羊〕獣の名
ひつじ〔未〕十二支の一
ひつしゆ〔必須〕なくてならぬこと
ひつじゆ〔必需〕なくてならぬこと
ひつじゆつ〔筆述〕筆にてのぶること
ひつすう〔苾蒭〕僧のこと
ひつせい〔畢生・畢世〕一生のこと
ひつせい〔筆勢〕ふでのいきほひ

ひつせき〔筆跡〕ふでのあと
ひつぜん〔必然〕きまりきッたること「——の勢」
ひつたん〔筆端〕ふてさき
ひつだん〔筆談〕文字をかきてはなすこと
ひつちう〔匹儔〕なかま、たぐひ
ひつぢやう〔必定〕たしか
ひつてき〔匹敵〕つりあふこと
ひつとう〔筆頭〕ふでがしら
ひつぱい〔匹配〕つれあひ、夫婦
ひつぱく〔逼迫〕さしせまること
ひつぷ〔匹夫〕常の男
ひつぷ〔匹婦〕常の婦
ひづめ〔蹄〕牛、馬、羊などの足の爪
ひつめい〔畢命〕死ぬること
ひつめつ〔必滅〕必ずほろぶること「生者——」
ひつよう〔必用〕かならず用ゐるべきこと
ひつりよく〔筆力〕ふてのいきほひ
ひでり〔旱〕雨ふらぬこと○旱天(カンテン)旱魃(カンバツ)
ひてん〔批點〕批評すべき點
ひでん〔秘傳〕かくして容易に傳へぬこと

ひと〔役途〕費用のみち
ひとう〔飛騰〕とびあがること
ひどう〔悲慟〕かなしみなげくこと
ひどう〔靡動〕なびきうごくこと
ひとがら〔人柄〕「ひとゝなり(爲人)」を見よ
ひとし〔均・齊・等〕不同なり(齊はそろふ意、等は相似たる意)○均一(キンイツ)均齊(キンセイ)均等(キントウ)平等(ヘイトウ)平均(ヘイキン)平衡(ヘイカウ)
ひとしほ〔一入〕ひときは「——の慰」
ひとゝなり〔爲人〕「うまれつき(生付)」を見よ
ひとゝほり〔一通〕ひとわたり○一應(イチオウ)
ひとへ〔單〕ひとへの衣○單衣(タンイ)
ひとへに〔偏〕ひたすら「——に希ふ」
ひとみ〔瞳・眸〕眼の中の黒き處 ○瞳子(トウシ)眸子(ボウシ)
ひとや〔獄〕「らうや(牢屋)」を見よ
ひとり〔獨〕吾一人のみのこと○孤獨(コドク)寡獨(クワドク)單獨(タンドク)獨身(ドクシン)
ひとん〔避遁〕さけのがるゝこと
ひな〔鄙〕ゐなか
ひな〔雛〕鳥などの小さき子供

ひなか〔日中〕まひる中○白晝(ハクチウ)
ひなた〔日向〕日のてる處
ひなん〔非難〕惡しきをなじること
ひにく〔皮肉〕人につらくあたること
ひにん〔非人〕こつじき
ひにん〔非認〕みとめざること
ひねもす〔終日・盡日〕朝から晩まで
ひねる〔拈・撚・捻〕指先にてねぢつく
ひねん〔比年〕うちつゞきての年、毎年
ひのえ〔丙〕十干の一
ひのき〔檜〕木の名
ひのと〔丁〕十干の一
びは〔琵琶〕樂器の名
びは〔枇杷〕木の名
ひばい〔疲憊〕つかるゝこと
ひはう〔飛報〕いそぎのしらせ
ひはう〔誹謗〕そしること
ひばう〔非望〕惡しきくはだて
びばう〔備忘〕わすれたる時の用意
びばう〔美貌〕うつくしきかたち
びばうじん〔未亡人〕やもめ、夫の死せる妻
ひはく〔非薄〕うすきこと

ひばく〔批駁〕非をうつこと
ひばく〔飛瀑〕たき
ひばり〔雲雀〕鳥の名
ひはん〔肥胖〕こえふとること
ひはん〔批判〕批評し判定すること
ひひ〔比比〕みな〳〵「——皆然り」
ひひ〔靡靡〕風になびくさま「楊柳——」
ひひ〔霏霏〕雪のふるさま「飛雪——」
ひひ〔披靡〕敵がまけしりぞくこと
ひひ〔狒狒〕獸の名
ひび〔疵〕「あかぎれ(皹)」を見よ
ひび〔罅〕われめ○罅痕(ヘキコン)
びび〔微微〕わづかなるさま「——たる勢」
びびう〔紕繆〕あやまり
ひびき〔響〕もの〻音のつたはり○音響(オンキヤウ)
ひびき〔韻〕音調の末のひゞき○音韻(オンヰン)
ひびく〔響〕音がつたはる○應響(オウキヤウ)反響(ハンキヤウ)
びびし〔美美〕「うつくし(美)」を見よ
ひひやう〔批評〕よしあしをいふこと
ひびる〔蛾〕蟲の名
ひふ〔皮膚〕はだへ
ひふ〔被覆〕おほふこと

ひふ〔庇蔭〕かばふこと
ひふ〔被風〕衣服の名
ひぶ〔日歩〕日々利子をそふること
びふう〔美風〕うつくしきならはし
ひふく〔被服〕きもの
びふく〔微服〕やつしたる衣
ひふん〔悲憤〕かなしみいきどほること
ひふん〔霏雰〕雪のふるさま
ひぶん〔非分〕分にかなはぬこと「——の望」
ひぶん〔碑文〕いしぶみ
びぶん〔美文〕うつくしき文章
ひへい〔疲弊〕つかれよわること
ひへい〔庇蔽〕おほはるゝこと
ひほ〔裨補〕おぎなひたすくること
びほう〔彌縫〕一時しのぎにとりつくろふこと
ひぼん〔非凡〕なみ〳〵ならぬこと「——の才」
ひま〔隙〕すきま○空隙(クウゲキ)隙間(ゲキカン)罅隙(カゲキ)孔隙(コウゲキ)
ひま〔間〕手すき○間暇(カンカ)虚日(キヨジツ)遑暇(クワウカ)餘暇(ヨカ)餘閑(ヨカン)

ひま〔釁〕交の中あしきこと○釁隙(キンゲキ)嫌隙(ケンゲキ)
ひまつ〔飛沫〕みづけむり
ひまん〔肥滿〕こえふとること
びまん〔瀰漫〕大水のみなぎること
びみ〔美味〕うまきもの
ひみつ〔秘密〕かくしごと
ひめ〔姫・媛〕貴女子の美稱
ひめい〔非命〕天命ならぬこと「——の死」
ひめい〔碑銘〕石碑の銘
ひめい〔悲鳴〕かなしみなくこと
びめい〔微明〕かすかに夜のあくること
びめう〔微妙〕かすかにたへなること
ひめん〔罷免〕官職などやむること
ひも〔紐〕ものを結ぶ太き絲
びもく〔眉目〕㈠まゆと目(かほかたちの意)㈡ほまれ「一家の——」
ひもじ〔饑〕うゑて居る○空腹(クウフク)
ひや〔鄙野〕いやしきこと
ひやう〔飛揚〕とびあがること
ひやう〔飛颺〕風に吹きあがること
ひやう〔評〕しなさだめ
びやう〔鋲〕釘の一種

びやうあ〔病痾〕やまひ
ひやうか〔評價〕ねづもり
ひやうぎ〔評議〕さうだん
びやうき〔病氣〕やまひ
びやうく〔病苦〕やまひのくるしみ
びやうくわん〔病患〕病のうれへ
ひやうけつ〔評決〕評議してとりきむること
びやうこん〔病根〕病のねもと
ひやうし〔拍子〕舞樂などの調子を合することと
びやうし〔病死〕やみて死ぬること
びやうしやう〔病症〕やまひ
びやうしやう〔病床〕やまひのとこ
びやうじやう〔病狀〕やまひのさま
ひやうす〔評〕品さだめをなす「善惡を—す」
びやうたい〔病體〕病のからだ
ひやうぢやう〔兵杖〕武器のこと
ひやうぢやう〔評定〕評議して定むること
びやうどう〔平等〕ひとしきこと「自由——」
ひやうばん〔評判〕うはさ
びやうぶ〔屏風〕室内に立つる襖の如きもの
びやうやく〔病厄〕病のわざはひ

ひやうらう〔兵粮〕いくさのかて
びやうらう〔病勞〕やみつかれ
ひやうりやう〔評量〕みつもること
ひやうろん〔評論〕評し論ずること
びやうゐん〔病院〕病人をおきて治療する所
ひやかす〔冷〕「なぶる(嬲)」を見よ
ひやく〔飛躍〕とびあがること
びやくえ〔白衣〕白き衣
ひやくゞき〔百揆〕百官のこと
ひやくき〔百鬼〕いろ〳〵のばけもの「——夜行」
ひやくけい〔百計〕いろ〳〵のはかりごと「——盡く」
ひやくしやう〔百姓〕天下の人民の總稱
ひやくたん〔百端〕事のしげきこと
ひやくぱん〔百般〕すべてのこと「——の事業」
ひやくれう〔百僚〕多くのつかさ
ひやす〔冷〕「ひゆ(冷)」を見よ
ひややか〔冷〕つめたきこと○寒冷(カンレイ)冷寒(レイカン)冷淡(レイタン)
ひゆ〔冷〕つめたくなる○冷却(レイキヤク)

ひゆ〔肥腴〕こえふとること
ひゆ〔莧〕草の名
ひゆ〔比喩・譬喩〕たとへ「――を設く」
ひよう〔日傭〕日やとひ
ひよう〔雹〕氷の雨
ひよう〔費用〕にふひ
びよう〔美容〕うつくしきかたち
ひよらい〔憑依〕よりつきたのむこと
ひようか〔憑河〕かちにて河を渡ること「暴虎――の勇」
ひようかい〔氷解〕氷の如くとくること
ひようきよ〔憑據〕よりどころ
ひようくわい〔氷塊〕氷のかたまり
ひようけつ〔氷結〕氷がむすぶこと
ひようじ〔憑恃〕たのみにすること
ひようたん〔氷炭〕互に親しまぬたとへにいふ「――相容れず」
ひやうちゆう〔氷柱〕ひばしら
ひようらい〔憑賴〕たのむこと
ひよく〔比翼〕つばさをならぶること
ひよく〔肥沃〕土地のこえたること
ひよどり〔鵯〕鳥の名

ひより〔日和〕そらあひ
ひら〔平〕たひらかなること「―地」
ひらう〔疲勞〕つかるゝこと
びらう〔檳榔〕木の名
ひらく〔開〕㊀あけはなつ○開放開發㊁世がすゝむ○開化開明
ひらく〔披〕あけひろぐ○披展
ひらく〔拓〕地をひろむ○開拓
ひらく〔啓〕智德などをひらく○啓發
ひらたし〔平〕たひらかなり○扁平平坦
ひらに〔平〕ひたすら「―に詫ぶ」
ひらめ〔平目〕魚の名
ひらめく〔閃〕ひらひらす ○閃々（ひらめくさま）
ひらん〔披覽〕ひらきみること
びらん〔糜爛〕やぶれたゞるゝこと
ひり〔非理〕理にあはぬこと
ひり〔鄙俚〕いやしきこと
ひりやう〔比量〕めかた
びりよく〔微力〕わづかの力
ひりん〔比隣〕のきならび
ひりん〔鄙吝〕しはきこと

ひりん〔比倫〕ともがら
ひる〔蒜〕草の名
ひる〔蛭〕蟲の名
ひる〔晝〕㊀日のある間○白晝㊁日のまん中○午時亭午正午
ひる〔簸〕箕にて穀の屑をさる
ひる〔干〕「かわく（乾）」を見よ
ひるがへる〔翻・飜〕うらがへる ○翻飜翩飜反飜＝翻然（ひるがへるさま）
ひるがへる〔飄〕風にひらひらとぶ○飄搖飄颻飄飆＝飄然飄々颻々（ひるがへるさま）
ひるむ〔痺〕㊀「しびる（痺）」を見よ㊁くじけちゞむ○萎縮退縮
ひるゐ〔比類〕たぐひ「――なき品」
ひれ〔鰭〕魚のひれ
ひれい〔比例〕てりあはせ
びれい〔美麗〕うつくしきこと
ひれう〔肥料〕こやし
ひれき〔披瀝〕心の中をうちあくること
ひれつ〔卑劣〕いやしきこと
ひろ〔尋〕はかりの名「一―の繩」

ひろう〔披露〕ひろめあらはすこと
ひろう〔卑陋〕いやしきこと
びろう〔尾籠〕ぶれい「――の振舞」
ひろがる〔弘〕「ひろむ（弘）」を見よ
ひろぐ〔弘〕「ひろぐ（弘）」を見よ
びろく〔微祿〕わづかの祿
ひろさ〔廣〕○廣袤延袤面積
ひろし〔廣・闊〕はゞひろし ○廣闊廣漠廣博闊大＝闊然闊如曠々（ひろきさま）
ひろし〔弘・宏〕廣く大なり ○宏大恢宏恢廓廣弘＝宏々恢々（廣大のさま）
ひろし〔博〕手びろし○該博精博洽博豐博浩博
ひろし〔寛〕ゆるやかなり○寛大寛洪寛潤寛容
ひろふ〔拾・摭〕おちたるものをとる ○採拾拾得拾取
ひろまる〔弘〕あまねく行きわたる ○流布流傳傳播
ひろむ〔弘〕あまねくなす ○布演敷衍

（意義をおしひろめていふ）＝皇張(クワウチヤウ)擴張(クワクチヤウ)
擴充(クワクジユウ)（事をおしひろむ）＝廣布(クワウフ)吹(フイ)
聽(チヤウ)披露(ヒロウ)（いひふらす）
ひわ〔鶸〕鳥の名
ひゐ〔非違〕法にたがふこと
ひを〔氷魚〕魚の名
びをん〔微温〕うすき熱
ひん〔品〕しな
ひん〔賓〕客人のこと
ひん〔貧〕まづしきこと
びん〔鬢〕髮の名どころ
びん〔瓶〕ガラスの器
びんいう〔憫遷〕うれへ
ひんかう〔品行〕おこなひ
ひんかく〔賓客〕きやく人
ひんかく〔品格〕しながら
ひんかん〔貧寒〕まづしきこと
ひんぎ〔稟議〕まをしあぐること
びんぎ〔便宜〕たよりよきこと
ひんきゆう〔貧窮〕まづしきこと
ひんく〔貧苦〕まづしきに苦しむこと
ひんけつ〔貧血〕血のすくなきこと

ひんこく〔稟告〕まをしあぐること
ひんこん〔貧困〕まづしきこと
ひんしゆく〔顰蹙〕かほをしかむること
ひんせい〔稟請〕こひまをすこと
ひんせい〔品性〕しながら
ひんせい〔稟性〕うまれつき
びんせう〔憫笑〕あはれみわらふこと
ひんせき〔擯斥〕しりぞくること
びんせふ〔敏捷〕すばやきこと
ひんせん〔貧賤〕まづしくいやしきこと
びんせん〔便船〕たよりのふね
びんぜん〔憫然〕あはれむべきさま「——に
堪へず」
びんそく〔敏速〕はやきこと
ひんちつ〔品秩〕しな
ひんとう〔品等〕しな、くらゐ
ひんぱん〔頻繁〕しげきこと
ひんぱん〔繽繙〕ひらくくするさま
ひんぴやう〔品評〕しなさだめ
ひんぴん〔彬彬〕うるはしく整ひたる貌「文
質——」
ひんぴん〔頻頻〕しきりに「——來る」

ひんぷ〔稟賦〕うまれつき
ひんぷ〔貧富〕まづしきととめると
ひんぷん〔繽紛〕花などのちるさま「落花—
—たり」
びんべん〔黽勉〕つとめはげむこと
びんぼふ〔貧乏〕まづしきこと
ひんみん〔貧民〕まづしき民
びんめつ〔泯滅〕ほろびつくること
びんらう〔檳榔〕木の名
ひんる〔貧窶〕まづしきこと
ひんるゐ〔品類〕たぐひ
びんわん〔敏腕〕さときてぎは
ひんゐ〔品位〕しながら

ふ

ふ〔府〕㊀やくしよ「幕—、國—」㊁行政區域
の稱「東京—」
ふ〔符〕しるしのふだ
ふ〔斑〕まだら、ぶち「虎—」
ふ〔腑〕ざうふ
ふ〔賦〕文の一體「赤壁の—」

ふ〔傅〕かしづき「太子の—」
ふ〔婦〕をんな
ふ〔麩〕食品の名
ふ〔經・歷〕すぎゆく〇經過(ケイクワ)經歷(ケイレキ)經由(ケイユ)
ぶ〔武〕たけきわざ
ぶ〔部〕㊀物の一方のところ「—分」㊁書籍を
數ふる語「五—の大乘經」
ぶ〔歩〕段別の名「五段六—」
ぶ〔分〕尺度の名「一寸二—」
ぶあひ〔歩合〕わりまへ「利益の——」
ぶあん〔撫按〕なですること
ふい〔布衣〕官位なき常の人
ふい〔不意〕思ひかけぬこと
ぶい〔無異〕かはりなきこと
ふいう〔富有〕ものもち「——の家」
ふいう〔蜉蝣〕かげろふ（蟲の名）
ふいう〔浮遊〕うかれあるくこと
ぶいく〔撫育〕いつくしみそだつること
ふいご〔鞴〕鍛冶屋の火を起す器
ふいちやう〔吹聽〕ひろめ知らすること
ふいん〔訃音〕死去のしらせ
ぶいん〔無音〕たよりをせぬこと

ふう〔封〕ふうじ「手紙の―」
ふう〔風〕㊀すがた「古人の―」㊁ならはせ「世俗の―」
ふういう〔風誘〕ほのめかすこと
ふうう〔風雨〕あめかぜ
ふううん〔風雲〕かぜとくもと
ふうが〔風雅〕みやび
ふうかん〔諷諫〕とほまはしにいさむること
ふうき〔富貴〕財多く位高きこと
ふうき〔風氣〕㊀引きかぜ㊁風俗氣候
ふうぎ〔風儀〕ならはし
ふうきん〔風琴〕樂器の名
ふうくわ〔風化〕よきならはしに化すること
ふうくわう〔風光〕けしき
ふうけい〔風景〕けしき
ふうけう〔風敎〕世のをしへ
ふうこつ〔風骨〕なりふり、すがた
ふうさい〔風采〕ひとがら、やうす
ふうし〔風姿〕なりふり、すがた
ふうし〔諷刺〕それとなく人をそしること
ふうし〔風師〕風の神
ふうし〔夫子〕賢者をたふとむ語
ふうしつ〔風疾〕リウマチス(病名)
ふうしふ〔風習〕ならはし
ふうじや〔風邪〕ひきかぜ
ふうしやう〔風尙〕このみ
ふうしよ〔封書〕ふうじたる書
ふうしよう〔諷誦〕よみとなふること
ふうしよく〔風色〕けしき
ふうす〔諷〕それとなくいふ「人の非を―す」
ふうず〔封〕ふうじこむ「蟲を―ず」
ふうせい〔風聲〕㊀風のこゑ㊁世間のひやうばん
ふうせつ〔風說〕うはさ
ふうせん〔風船〕空中にあがる機械
ふうぞく〔風俗〕ならはし
ふうたい〔封袋〕はかりにかくる時その物をつゝめる上包
ふうち〔風致〕みやびのおもむき
ふうぢん〔風塵〕㊀風にとぶ塵㊁世中の雜事
ふうてい〔諷誑〕人を諷しそしること
ふうてい〔風體〕なりぶり、すがた
ふうてう〔風調〕詩歌などのてうし
ふうてう〔風潮〕㊀風にしたがふ潮㊁世のなりゆき

ふうてん〔瘋癲〕氣ちがひ
ふうど〔風土〕土地のありさま
ふうとう〔封筒〕手紙を入るゝ袋
ふうは〔風波〕㊀なみかぜ㊁あらそひ
ふうはく〔風伯〕風の神
ふうび〔風靡〕風の草木をなびかす如くしたがひなびくこと
ふうひやう〔風評〕うはさ
ふうふ〔夫婦〕めをと○伉配(カウハイ)伉儷(カウレイ)配偶(ハイグウ)
ふうぶん〔風聞〕うはさ
ふうみ〔風味〕あぢはひ
ふうらい〔風來〕いづこよりとも知られず來たること「―人」
ふうりう〔風流〕みやび
ふうりん〔風鈴〕軒につるす鈴
ふうゐん〔風韻〕みやびのおもむき
ふうん〔浮雲〕うきくも（多くうき〳〵せる譬にいふ）
ふうん〔不運〕ふしあはせ
ぶうん〔武運〕いくさのうん
ふえ〔笛〕樂器の名
ふえい〔浮泳〕およぎうかぶこと
ふえき〔不易〕かはらぬこと「萬世―」
ふえき〔扶掖〕たすくること
ふえつ〔斧鉞〕をの、まさかり
ふえん〔布衍・敷衍〕のべひろぐること
ふか〔不可〕よからぬこと
ふか〔負荷〕おひになふこと
ふか〔附加〕つけくはふること
ぶか〔部下〕手した
ふかう〔不幸〕ふしあはせ
ふかう〔不孝〕孝行せぬこと
ふがう〔符號〕しるし名
ふがう〔富豪〕ものもち
ふかく〔不覺〕㊀心たしかならぬを「―の淚」㊁油斷して敵にまくるを「―を取る」
ぶがく〔舞樂〕まひ
ふかし〔深〕奥底遠し○幽深(イウシン)深邃(シンスヰ)深遠(シンエン)
ふかしぎ〔不可思議〕はかりがたきこと
ふかす〔更〕「ふく(更)」を見よ
ふかす〔蒸〕「むす(蒸)」を見よ
ふかで〔深手〕「おもて(重手)」を見よ
ふかふ〔普洽〕あまねきこと

ふがふ〔符合〕二の事のよくあふこと
ふかん〔不敢〕おもひきッてせざること「——の譏」
ふかん〔不堪〕藝の下手なること
ふき〔不羈〕ものにかゝはらぬこと
ふき〔怖悸〕おぢおそるゝこと
ふき〔誣欺〕しひあざむくこと
ふき〔不軌〕むほん「——を謀る」
ふき〔蕗・苳〕草の名
ふぎ〔不義〕あるまじき行
ぶき〔武器〕いくさ道具
ぶぎ〔舞妓〕まひひめ
ふきう〔不朽〕いつまでもすたれぬこと「——の名」
ふきう〔腐朽〕くさること
ふきつ〔不吉〕めでたくなきこと
ふきふ〔不急〕急ならざること「——の用」
ふきふ〔扶給〕ものをほどこすこと
ふきふ〔普及〕あまねくおよぶこと
ふきやう〔富强〕とみてつよきこと
ふぎやう〔俯仰〕うつむくとあふむくこと
ぶぎやう〔奉行〕命をうけてとり行ふこと
ふきよう〔不興〕㊀面白からぬこと㊁いかり
ぶきよく〔舞曲〕まひと音樂と
ふきん〔俘擒〕いけどりにすること
ふきん〔附近〕そのきんじよ
ふきん〔布巾〕塵をぬぐふ布
ふきん〔斧斤〕をの
ふく〔副〕そはるもの「—將軍」
ふく〔福〕さいはひ、しあはせ
ふく〔服〕きもの
ふく〔複〕二ッ以上のこと「—數」
ふく〔拭〕ぬぐふ○拂拭(フッショク)掃拭(サウショク)
ふく〔葺〕屋根をおほふ「屋を—く」
ふく〔吹〕風をつくる「笛を—く、風—く」
ふく〔噴〕口よりはき出す○噴出(フンシュツ)
ふぐ〔不虞〕思ひがけぬこと「——の災」
ふぐ〔不具〕かたは
ふぐ〔河豚〕魚の名
ふくあん〔腹案〕はらの中のかんがへ
ふくいく〔馥郁〕香のかんばしきさま「梅花——たり」
ふくいん〔福音〕さいはひなるおとづれ（耶蘇教の語）

ふぐう〔不遇〕ふしあはせ
ふくえき〔服役〕役をつとむること
ふくか〔伏夏〕三伏のなつ
ふくかう〔腹稿〕はらの中に構へたる詩文の稿
ふくき〔復歸〕かへること
ふくきう〔復舊〕むかしにかへること
ふくくわつ〔復活〕いきかへること
ふくこ〔復古〕古にかへること「王政——」
ふくこう〔復興〕ふたゝびおこること
ふくさ〔袱紗〕帛にてつくれる風呂しき
ふくざい〔服罪〕罪におつること
ふくざう〔腹藏〕はらのうちにかくすこと
ふくし〔副使〕つきそひの使
ふくじ〔服事〕したがひつかふること
ふくしう〔復讐〕かたきうち
ふくしや〔複寫〕うつしかふること
ふくしゆう〔輻聚〕よりあつまること
ふくじゆう〔服從〕したがふこと
ふくしよ〔副署〕姓名をかきそふること
ふくしよく〔復職〕もとの職にもどること
ふくしん〔腹心〕心の底までうちあかすこと「——の臣」
ふくしん〔復審〕しらべなほすこと
ふくす〔復〕もとにかへる「舊に—す」
ふくす〔服〕したがふ「皇軍に—す」
ふくす〔伏〕ひそむ「災下に—す」
ふくすう〔復數〕二以上の數
ふくせん〔伏線〕あらかじめ用意しておくこと「——を設く」
ふくそ〔福祚〕さいはひ
ふくそう〔輻輳・輻湊〕よりあつまること
ふぐたいてん〔不倶戴天〕彼我共に天を戴きて生きては居ぬとの意「——の讐」
ふくち〔福祉〕さいはひ
ふくつう〔腹痛〕はらいたみ
ふくてつ〔覆轍〕車のくつがへること
ふくとく〔福德〕しあはせ
ふくとく〔伏匿〕かくるゝこと
ふくどく〔復讀〕くりかへしよむこと
ふくはい〔覆敗〕くつがへりやぶるゝこと
ふくはい〔腹背〕まへうしろ
ふくべ〔瓠・匏〕へうたん
ふくへい〔伏兵〕ふせぜい

ふくぼつ〔覆沒〕くつがへりしづむこと
ふくぼん〔覆盆〕おほあめのふるさま「大雨——の如し」
ふくむ〔含・銜〕㊀口にくゝむ（銜は口にくはふる意）㊁中にまじる ○含有含畜包含
ふくむ〔服務〕務にしたがふこと
ふくめい〔復命〕かへりてへんじすること
ふくめつ〔覆滅〕くつがへりほろぶること
ふくめん〔覆面〕かほをつゝむこと
ふくやく〔服藥〕くすりをのむこと
ふくよう〔服膺〕よく心にとめて忘れぬこと
ふくよう〔服用〕身にもちゐること
ふくりん〔覆輪〕種々の器に細くへりをとりたるもの「金——の鞍」
ふくる〔脹〕内より外へ張る○膨脹
ふくろ〔袋・嚢〕物を入れて口をくゝるもの
ふくろふ〔梟〕鳥の名
ふくわ〔浮華〕はでやか
ふくわ〔賦課〕わりあて
ふくわ〔孵化〕卵がかへること
ふくわい〔不快〕おもしろからぬこと

ふくわい〔附會〕こじつけ「牽强——」
ふくゐん〔幅員〕ひろさ、はゞ
ふけ〔雲脂〕髮にたつあか
ふけい〔不敬〕うやまはぬこと
ふけい〔不稽〕よりどころなきこと
ふけい〔符契〕わり符「——を合するが如し」
ふげき〔拊擊〕うちたゝくこと
ふけつ〔不潔〕きたなきこと
ふける〔耽〕「おぼる（酒）」を見よ
ふけん〔符驗〕きゝめ
ふげん〔富源〕とみのもと
ふげん〔附言〕つけ加へたる言
ぶげん〔侮言〕あなどることば
ぶげん〔分限〕かねもちの人
ふこ〔不辜〕罪なきこと
ふご〔畚〕土などをもりて運ぶ具
ぶこ〔武庫〕武器を入るゝくら
ぶこう〔武功〕いくさの手がら
ふこく〔布告〕あまねくつげしらすること
ぶこく〔誣告〕しひうつたふること
ぶこつ〔無骨〕禮義をしらぬこと
ふさ〔總〕ひものさきを散らして飾とせるも

の
ふさ〔房〕花、果などの一つになりたるもの「藤花の——、葡萄の——」
ふさ〔扶佐〕たすくること
ふざ〔趺坐〕あぐらをかくこと
ふさい〔覆載〕天地の間（天の覆ひ地の載する意）
ふさい〔負債〕借りたる金
ふさい〔不才〕はたらきのなきこと
ふざい〔不在〕をらぬこと
ふさう〔扶桑〕日本國のこと
ふさう〔浮躁〕かるはづみ
ぶさう〔無雙〕ならびなきこと「忠勇——」
ぶさう〔武裝〕いくさのしたく
ふさがる〔塞〕「ふさぐ（塞）」を見よ
ふさく〔不作〕作物のよく實らぬこと
ふさぐ〔塞〕さへぎる○堰塞梗塞蔽塞障塞防塞杜塞掩塞塡塞壅塞充塞閉塞
ふさぐ〔鬱〕氣がはれず○鬱悒鬱屈鬱結鬱陶鬱閉煩鬱抑鬱＝鬱々怏々（氣のふさぐさま）

ぶざつ〔蕪雜〕入りみだるゝこと
ふさん〔不參〕まゐらぬこと
ふし〔節〕物のくぎりめ「歌の——」
ふし〔五倍子〕齒をそむるもの
ふじ〔不時〕時ならぬこと「——の災」
ふじ〔不次〕しだいのなきこと「——の拔擢」
ぶし〔侮視〕あなどりみること
ぶじ〔蕪辭〕蕪雜のことば
ぶじ〔無似〕おろかもの（自らの遜稱）
ふしあはせ〔不仕合〕○不運不幸不遇薄命逆遇
ふしう〔俘囚〕とりこ
ふしぎ〔不思議〕あやしきこと ○奇異奇妙奇怪怪異
ふじつ〔不日〕日ならず、やがて「——成らん」
ふじつ〔不實〕まことの深切なきこと
ふしやう〔負傷〕きずをおふこと
ふしやう〔不詳〕つまびらかならぬこと
ふしやう〔不祥〕不吉のこと
ふじやう〔不淨〕よごれ、けがれ
ぶしやう〔無性〕なまけがちのこと

ふじゆ〔腐儒〕やくに立たぬ學者
ぶじゆつ〔撫恤〕いたはりあはれむこと
ぶじゆつ〔武術〕武のわざ
ふじゆん〔不順〕順序なきこと「――の氣候」
ふじよ〔扶助〕たすくること
ぶしよ〔部署〕手くばり
ふしよう〔不勝〕こゝちのすぐれぬこと
ふしよう〔不承〕不承知の略
ふしよく〔腐蝕〕くさること
ふしよく〔扶植〕たすけしたつること「勢力を――す」
ぶじよく〔侮辱〕あなどりはづかしむること
ふしん〔不臣〕臣下のみちをつくさぬこと
ふしん〔不審〕うたがはしきこと
ふしん〔普請〕家など築造すること（佛家にて普く請ひて造營のことをなす意に起る）
ふしん〔負心〕㈠恩にそむく心㈡うぬぼれ
ふじん〔婦人〕をんな
ふじん〔夫人〕貴人の妻の尊稱
ふじん〔不仁〕なさけ心のなきこと
ふす〔臥〕横になりて寢ぬ○臥平(グワヘイ)横臥(ワウグワ)‖安臥(アングワ)閑臥(カングワ)（しづかに臥す）‖露臥(ログワ)（野原に臥す）

ふす〔俯・俛〕うつむく○俯伏(フフク)俯俛(フベン)
ふす〔伏〕かくしひそむ○隱伏(インプク)蟄伏(チツプク)伏匿(フクドク)
ふす〔附〕「つく（附）」を見よ
ふす〔賦〕㈠わりあつ「役を――す」㈡つくる「詩を――す」
ふすぶ〔燻〕「いぶす（燻）」を見よ
ふすま〔襖〕室のさかひに立つる唐紙
ふすま〔衾〕寢る時に身をおほふもの○寢衣(シンイ)
ふずゐ〔附隨〕つきしたがふこと
ふずゐ〔不隨〕おもふまゝにうごかぬこと「半身――」
ぶずゐ〔撫綏〕あはれみいたはること
ふせ〔布施〕僧にほどこす品
ふせい〔賦性〕うまれつき
ふせい〔不正〕正しからぬこと
ふせい〔賦税〕税をわりかくること
ぶせい〔無勢〕人數の少なきこと
ふせいしゆつ〔不世出〕世にまれなること「――の才」

ふせう〔不肖〕我が身をいやしめていふ語
ふせぐ〔防・禦〕防は豫め用意してさゝふる意、禦はさしあたりてさゝふる意○防止(バウシ)防遏(バウアツ)防禦(バウギヨ)禦遏(ギヨアツ)禦止(ギヨシ)
ふせぐ〔扞・拒〕さからひこばむ○拒扞(キヨカン)防扞(バウカン)扞禦(カンギヨ)扞格(カンカク)
ふせつ〔浮說〕ねなしごと
ふせつ〔敷設・布設〕しきまうくること
ふせつ〔符節〕わりふ
ふせふ〔怖慴〕おそるゝこと
ふせん〔附箋〕つけふだ
ぶぜん〔蕪然〕草などのしげるさま「雜草――たり」
ぶぜん〔憮然〕あてのはづれたるさま「――として嘆息す」
ふそ〔扶疎〕まばら
ふそく〔不足〕たらぬこと
ふぞく〔附屬〕つきそふこと
ふそく〔不測〕はかられぬこと「――の患」
ふぞろひ〔不揃〕とゝのはぬこと○不整(フセイ)不齊(フセイ)‖齪々(ソクソク)（そろはぬさま）
ふそん〔不遜〕たかぶること

ふた〔蓋〕ものゝおほひ
ふだ〔札〕ものかき記したる小板又は紙片○木札(モクサツ)木牌(モクハイ)木標(モクヘウ)標札(ヘウサツ)（木ふだ）‖紙札(シサツ)紙票(シヘウ)札牘(サツドク)簡牘(カンドク)（紙ふだ）
ふだ〔符〕神佛のまもりふだ○神符(シンプ)
ふだ〔牓〕道傍のたてふだ○牓標(バウヘウ)牓牌(バウハイ)
ぶた〔豚〕獸の名
ふたい〔不逮〕とゞきおよばぬこと
ふたい〔附帶〕つきそふこと
ふだい〔譜代〕世々仕ふる臣
ぶたい〔舞臺〕をどりば
ふたう〔不當〕理にあたらぬこと
ふたう〔仆倒〕たふるゝこと
ぶたう〔舞蹈〕をどり
ぶだう〔無道〕道ならぬこと
ぶだう〔葡萄〕植物の名
ふたうをう〔不倒翁〕だるま
ふたおや〔二親〕父と母と○兩親(リヤウシン)雙親(サウシン)
ふたぐ〔塞〕「ふさぐ（塞）」を見よ
ふたごころ〔貳心〕二樣の心○異心(イシン)貳心(ジシン)
ふたたび〔再〕二度め○再度(サイド)兩度(リヤウド)再應(サイオウ)

ふたつ 〔布達〕 あまねくふれ告ぐること
ふたつ 〔二〕 數の名○雙雨
ふたば 〔二葉〕 めばえの葉「栴檀は——より馨し」
ふたへ 〔二重〕 ふたかされ○二重二層
ふたん 〔負擔〕 おひになふこと
ふだん 〔不斷〕 ㊀たえざること㊁つれ
ぶだん 〔武斷〕 武力によりて事をさばくこと
ふち 〔緣〕 へり、めぐり○緣邊
ふち 〔淵・潭〕 水よどみて深きところ ○潭淵＝潫潭・邃淵 深淵（ふかき淵）＝碧潭・碧瀞・碧淵（あを淵）
ふち 〔扶持〕 たすくること
ふち 〔布置〕 手くばりすること
ふち 〔不治〕 病のなほらぬこと
ふぢ 〔藤〕 花の名
ぶち 〔斑〕 「まだら（斑）」を見よ
ふぢごろも 〔藤衣〕 喪の衣
ふぢやう 〔不定〕 定まらぬこと
ふちやく 〔附着〕 ひッつくこと
ふちん 〔浮沈〕 うきしづみ
ふちん 〔敷陳〕 しきならぶること

ぶつ 〔佛〕 ほとけ「—法、念—」
ふつう 〔不通〕 通ぜぬこと「言語——」
ふつう 〔普通〕 なみ／＼なること
ぶつか 〔物價〕 ものゝあたひ
ぶつかく 〔佛閣〕 てら
ぶつぎ 〔物議〕 世のうはさ
ふつきよ 〔拂去〕 はらひさること
ふつげう 〔拂曉〕 あけがた
ぶつけう 〔佛教〕 佛のをしへ
ぶつこ 〔物故〕 死ぬること
ぶつさう 〔物騷〕 ものさわがしきこと
ぶつさん 〔物產〕 その土地より產ずる物
ぶつし 〔佛師〕 佛像をつくる人
ぶつじ 〔佛事〕 佛法の祭
ぶつしつ 〔物質〕 ものゝたち
ぶつじやう 〔物情〕 世間のもやう
ふつしよく 〔拂拭〕 ぬぐふこと
ふつぜん 〔艴然〕 いかるさま「——として悅ばず」
ぶつだ 〔佛陀〕 ほとけ
ふつたう 〔沸湯〕 にえゆ
ふつてい 〔拂底〕 とぼしきこと

ふつとう 〔沸騰〕 わきあがること
ぶつぴん 〔物品〕 しなもの
ぶつもん 〔佛門〕 佛のみち
ぶつろん 〔物論〕 世のものいひ
ふで 〔筆〕 ㊀文字を書く具㊁文字かくこと○筆力・筆勢（筆のいきほひ）＝執筆・染筆（筆とりて記すこと）＝運筆（筆つかひ）＝筆端・毫端（筆さき）
ふてい 〔不逞・不庭〕 朝廷の命にしたがはざるものをいふ「——の臣」
ふてい 〔不貞〕 みさをのなきこと
ふてう 〔不調〕 とゝのはぬこと
ふてき 〔不敵〕 ものにおそれぬこと
ふてふ 〔符牒〕 しるし
ふてん 〔不腆〕 禮のうすきこと
ふてん 〔普天〕 あまねきそら「——の下率土の濱」
ふと 〔不圖〕 はからず「——思ひ出ず」
ふと 〔浮圖・浮屠〕 ほとけ、佛
ふとう 〔埠頭〕 船舶のとゞまる處、はとば
ふとう 〔不登〕 さくもつのみのらぬこと
ふとう 〔不等〕 ひとしからざること

ふどう 〔不動〕 うごかぬこと
ふどう 〔不同〕 ひとしからぬこと
ふところ 〔懷〕 衣と胸との間 ○懷中懷裏
ふとし 〔太〕 ほそくなし
ふともの 〔太物〕 衣服にする布帛の總稱
ふとる 〔太〕「こゆ（肥）」を見よ
ふとん 〔布團〕 坐下にしくもの○臥被寢褥（ねぶとん）＝坐褥（坐ぶとん）
ふな 〔鮒〕 魚の名
ぶな 〔橅〕 木の名
ぶなん 〔無難〕 さはりなきこと
ふによい 〔不如意〕 心のまゝならぬこと
ふにん 〔赴任〕 つとめにおもむくこと
ふにん 〔補任〕 官に補ひ任ずること
ふね 〔舟・船・舶・舸・艀・艇・艦〕 水上を物をのせて運ぶ具（舶・舸はおほぶれ、艀・艇は小ぶれ、艦はいくさぶれ）○船舶＝巨舶弘舸（大ぶれ）＝扁舟小艇短艇（小ぶれ）＝戰艦軍艦艨艟（軍ぶれ）＝輕舸走舸飛舟（はやふれ）＝釣艇漁舟漁舲（魚をとる舟）＝帆船（ほかけぶれ）

ふねい〔不佞〕おのれをいやしめていふ語
ふねう〔富饒〕とみてにぎはしきこと
ふのう〔不能〕なしあたはぬこと
ぶば〔侮罵〕あなどりのゝしること
ふはい〔腐敗〕くさること
ふはう〔訃報〕死亡のしらせ
ぶばう〔誣謗〕人をわるくいふこと
ふはく〔布帛〕ぬの
ふはく〔浮薄〕人情のうすきこと
ふばつ〔不拔〕ぬき去られぬこと「堅忍——の精神」
ふび〔浮靡〕うはつきたること
ふび〔不備〕そなはらぬこと
ぶび〔武備〕いくさぞなへ
ふびん〔不憫〕あはれ、かはゆさ
ふびん〔不敏〕さとからぬこと
ぶぶ〔撫拊〕なでさすること
ふぶき〔吹雪〕ふくゆき
ふふく〔仆伏〕たふれふすこと
ふふく〔不服〕したがはぬこと
ふふく〔俯伏〕うつむきふすこと
ふぶん〔不文〕學問のなきこと
ぶぶん〔部分〕一物の中のある箇處
ふへい〔不平〕平かならぬこと
ふへう〔浮漂〕うかびたゞよふこと
ぶべつ〔侮蔑〕あなどりみさぐること
ふへん〔普徧〕あまねくゆきわたること
ふへん〔不變〕かはらぬこと
ふへん〔不偏〕かたよらぬこと「——不黨」
ふへん〔浮泛〕水にうかぶこと
ふべん〔俯俛〕うつむくこと
ふべん〔不便〕たよりわるきこと
ふほふ〔不法〕道ならぬこと
ふぼん〔不犯〕をかさぬこと
ふぼん〔不凡〕なみ〳〵ならぬこと
ふま〔不磨〕みがゝずして光あること「千歳——の言」
ふまう〔不毛〕草木の生育せぬこと「——の地」
ぶまう〔誣妄〕なきことをあるとしふること
ふまん〔不滿〕滿足せぬこと
ぶまん〔侮慢〕あなどること
ふみ〔文・書〕かきもの○文書(ブンシヨ)書物(シヨモツ)
ふみにじる〔蹂躪〕ふみつけにじる○蹂躪(ジウリン)蹂踏(ジウタフ)

ふみん〔浮民〕何もせずなまけてをる民
ふむ〔踐・履・踏・蹈・蹤〕㈠足の下にす（履はふみ行く意、踏はふみつくる意、蹈は足拍子をとりてふむ意、蹤は人のあとをふむ意）○履踐(リセン)履蹈(リタウ)踐蹈(センタウ)踐踏(センタフ)蹴踏(シユクタフ)踏蹤(タフセフ) ㈡守りて行ふ○履行(リカウ)踐行(センカウ)
ふもと〔麓〕山のすそ○山麓(サンロク)山足(サンソク)山脚(サンキヤク)
ふもん〔不問〕・たづねぬこと「——に附す」
ぶもん〔武門〕武士の家がら
ぶやう〔撫養〕だいじにやしなふこと
ぶやく〔夫役〕民の公事に役せらるゝこと○徭役(エウエキ)丁役(テイエキ)課役(クワエキ)賦役(フヤク)
ふやす〔殖〕「ふゆ(殖)」を見よ
ふゆ〔冬〕季節の名○玄冬(ゲントウ)嚴冬(ゲントウ)=孟冬(マウトウ)初冬(シヨトウ)(冬のはじめ)=仲冬(チユウトウ)盛冬(セイトウ)(冬のなかば)=晩冬(バントウ)暮冬(ボトウ)季冬(キトウ)(冬のすゑ)
ふゆ〔殖〕數がます○增殖(ゾウシヨク)繁殖(ハンシヨク)蕃殖(ハンシヨク)滋殖(ジシヨク)
ぶゆう〔武勇〕たけくいさましきこと
ふよ〔不豫〕天子の御病氣
ふよ〔附與・賦與〕あたへさづくること
ふよう〔芙蓉〕花の名
ふよう〔不用〕やくにたゝぬこと
ふよく〔扶翼〕たすくること
ぶらい〔無賴〕あふれもの
ふらう〔浮浪〕さまよふこと
ぶらく〔部落〕人民のむれ
ふらす〔降〕「ふる(降)」を見よ
ふらち〔不埒〕ふとゞき
ふらん〔不亂〕みだれぬこと「一心——」
ふらん〔腐爛〕くされたゞるゝこと
ふり〔振〕人のすがた、なりふり○風姿(フウシ)風采(フウサイ)風骨(フウコツ)
ぶり〔鰤〕魚の名
ふりやう〔不良〕よからぬこと
ぶりやく〔武略〕いくさのはかりごと
ふりよ〔俘虜〕とりこ
ふりよ〔不慮〕思ひがけぬこと
ぶりよ〔無慮〕「むりよ(無慮)」を見よ
ぶりよく〔武力〕武のちから
ふりん〔不倫〕道ならぬこと
ふる〔降〕空よりおちくだる○降下(カウカ)

ふる〔振〕「ふるふ(振)」を見よ
ふる〔震〕「ふるふ(震)」を見よ
ふる〔觸〕㊀あたる、さはる○牴觸接觸・磨觸㊁「ふれ(觸)」を見よ
ふるさと〔故里〕吾が生れし里○故郷故山故園故國家山家郷
ふるし〔古〕久しき昔なり「—き世」
ふるし〔故・舊〕新しくなし「—き品」○陳舊
ふるひ〔羅斗〕米と糠とをふり分くる具
ふるふ〔振・揮〕ゆりうごかす(揮は手にてふりまはす意)○振揮、振盪
ふるふ〔震〕ゆるぎうごく○震動震撼震盪
ふるふ〔顫〕身がふるふ○戰慄顫動—戰戰(ふるふさま)
ふるふ〔奮〕勢をなす○奮發奮激
ふるふ〔篩〕かすをふり出す「羅斗にて—ふ」
ふるぶ〔舊〕ふるくなる○陳腐陳舊
ふるまひ〔振舞〕㊀おこなひ、しわざ○擧動行爲進退動止動作㊁もてなし○馳走饗應饗宴

ふるまふ〔振舞〕「ふるまひ(振舞)」を見よ
ぶるゐ〔部類〕類により部を立つること
ふれ〔觸〕官よりのつげしらせ○布告布達告示告達
ぶれい〔不例〕やまひ
ぶれい〔無禮〕禮なきこと
ぶれう〔無聊・無憀〕たいくつなること
ふれん〔不廉〕價のやすくなきこと
ふれん〔賦歛〕税金をわりつけとりたつること
ふろ〔風呂〕ゆあみする處
ぶろう〔侮弄〕あなどること
ふろく〔附錄〕つけがき
ふろしき〔風呂敷〕物をつゝむ布帛○包袱
ふわ〔不和〕むつまじからぬこと
ぶゐ〔無爲〕することなきこと「—にして治る」
ぶゐ〔武威〕武力のゐくわう
ふゑん〔扶援〕たすけすくふこと
ふをん〔不穩〕おだやかならざること「—の擧動」
ふん〔分〕はかりめの名「一匁五—、十—時間」

ふん〔糞〕くそ
ぶん〔分〕㊀みぶん、ぶんげん㊁わかち
ぶん〔文〕㊀ふみ㊁あや、もやう
ふんい〔忿恚〕いかり
ふんいく〔芬郁〕にほひよきこと
ふんうん〔紛紜〕事のもつれ
ぶんうん〔文運〕學問のさかゆる運
ふんえい〔墳塋〕はか、つか
ぶんが〔文雅〕みやびやか
ふんがい〔憤慨〕いきどほりなげくこと
ぶんかい〔分解〕ときわかつこと
ぶんがう〔文豪〕學問の達人
ぶんかつ〔分割〕わかちさばくこと
ふんき〔奮起〕氣をふるひてたつこと
ふんぎ〔紛議〕事のもつれ
ぶんき〔分岐〕えだは
ふんきう〔紛糾〕いりみだるゝこと
ふんくわ〔噴火〕火をふき出すこと「—山」
ぶんくわ〔文化〕世のひらくること
ぶんくわ〔文華〕文學のこと
ふんくわい〔粉潰〕こなにつぶるゝこと
ぶんくわい〔分潰〕わかれつひゆること

ぶんぐん〔蚊軍〕蚊のむれ
ふんけい〔刎頸〕「刎頸の交」といひて、交誼の親密なるにいふ(頭をはねらるゝもいとはぬ意)
ぶんげい〔文藝〕文學上の藝
ぶんけう〔文教〕がくもんのをしへ
ふんげき〔奮激〕ふるひはげむこと
ぶんけん〔文獻〕文章のこと
ぶんけん〔聞見〕きいたりみたりすること
ぶんげん〔分限〕身のほど
ぶんこ〔文庫〕文のくら
ふんこつ〔粉骨〕力をつくすこと(骨をくだく意)「—碎身」
ふんこん〔忿恨〕いかりうらむること
ふんさい〔粉碎〕こなみぢんにくだくこと
ぶんさい〔文彩〕いろどり、あやもやう
ぶんさい〔文才〕文章の才
ぶんざい〔分際〕みのほど
ふんさう〔紛爭〕もつれあらそふこと
ふんさう〔扮裝〕いでたち
ふんさう〔粉裝〕よそほひ
ふんさう〔紛騷〕みだれさわぐこと

ふんさく〔紛錯〕いりみだるゝこと
ぶんさん〔分散〕ちり〴〵になること
ふんしつ〔紛失〕うしなふこと
ぶんしやう〔文章〕文字によりて言語を記したるもの
ぶんじやく〔文弱〕文事に流れてよわ〴〵しきこと
ふんしゆ〔刎首〕首をはぬること
ふんじよ〔紛絮〕いりみだれたること
ふんしよく〔扮飾〕身なりをかざること
ぶんしよく〔文飾〕かざり
ふんしん〔奮進〕ふるひすゝむこと
ぶんしん〔文身〕身體にほり物すること
ふんす〔扮〕みづくろひす「義經に―す」
ふんすゐ〔噴水〕ふきだし
ふんせう〔焚燒〕もゆること
ふんせう〔紛擾〕もつれみだるゝこと
ぶんせき〔分析〕こまかにわかつこと
ふんせん〔奮戰〕ふるひたゝかふこと
ふんぜん〔忿然〕いかるさま
ふんぜん〔憤然〕いきどほるさま
ふんぜん〔紛然〕とりみださるゝさま

ぶんそ〔分疏〕いひわけすること
ふんたい〔粉黛〕婦人のけしやう
ぶんたつ〔聞達〕きこえ、ほまれ
ぶんたん〔分擔〕わかちになふこと
ぶんだん〔文壇〕文章をもてあそぶ社會
ぶんち〔聞知〕きゝしること
ぶんちん〔文鎭〕書物、紙などのおさへ
ぶんつう〔文通〕文のとりやり
ぶんてん〔文典〕文章の法則を說ける書
ふんど〔忿怒〕いかること
ふんとう〔奮鬪〕ふるひたゝかふこと
ふんとう〔紛鬪〕みだれたゝかふこと
ふんどう〔分銅〕はかりのおもり
ぶんどり〔分捕〕わけどり
ふんぬん〔紛紜〕もつれ、みだれ
ぶんぱ〔分派〕えだは
ぶんぱい〔分配〕わかつこと
ふんぱう〔芬芳〕よきにほひ
ぶんばう〔文房〕文よむ室「―具」
ふんぱつ〔奮發〕ふるひおこること
ふんぱん〔噴飯〕笑ふに堪へざること
ぶんぴ〔分泌〕液汁のにじみ出づること

ぶんぴつ〔文筆〕文章をかくこと
ふんぷ〔吩咐〕いひつくること
ぶんぶ〔文武〕文事と武事と
ぶんぷ〔分賦〕ふりわくること
ぶんぶつ〔文物〕學問のことがら
ふんぷん〔紛紛〕いりみだれたるさま「議論―」
ふんぷん〔雰雰〕雪のふるさま「六花―」
ふんぷん〔芬芬〕香のかをるさま「香氣―」
ふんべい〔分袂〕たもとをわかつこと
ふんぺき〔粉壁〕しらかべ
ふんべつ〔分別〕わきまへ考ふること
ぶんべつ〔分別〕わかつこと
ぶんべん〔分娩〕子をうむこと
ふんぼ〔墳墓〕はか
ぶんぼく〔文墨〕詩文書畫などをいふ
ふんまつ〔粉末〕こな
ふんまん〔忿懣〕いかること
ぶんみやう〔分明〕あきらか
ぶんめい〔文明〕世のひらけたること
ぶんめん〔文面〕文のおもて
ふんもん〔忿悶〕いかりもだゆること

ふんやく〔奮躍〕ふるひをどること
ふんゆう〔賁勇〕つよきいきほひ
ぶんよ〔分與〕わかちあたふること
ふんらん〔紛亂〕いりみだるゝこと
ぶんり〔分離〕わかれはなるゝこと
ぶんりう〔分流〕えだは
ぶんりやう〔分量〕物のかさ
ぶんるゐ〔分類〕類をわかつこと
ふんれい〔奮勵〕ふるひはげむこと
ぶんれつ〔分裂〕さけわかるゝこと
ふんゑん〔憤怨〕いきどほりうらむること
ふんゑん〔忿怨〕いかりうらむること

へ

へ〔舳〕船のへさき
へい〔幣〕神に供ふるぬさ
へい〔弊〕あしきならはし
へい〔屛〕かき「板―」
へい〔丙〕ひのえ(十干の一)
へいあん〔平安〕やすらか
へいい〔敝衣〕やぶれごろも

へいい〔平易〕たやすきこと
へいい〔平夷〕たひらか
へいいう〔併有〕あはせもつこと
へいいう〔炳靈〕大いなるうれへ
へいいふ〔弊邑〕わが村の謙稱
へいえい〔兵營〕兵士のたむろば
へいえう〔炳燿〕ひかりかゞやくこと
へいえき〔兵役〕兵士にめさるゝこと
へいか〔陛下〕天皇、皇后の尊稱
へいか〔弊家〕わがいへの謙稱
へいがい〔弊害〕あしきならはせ
へいかう〔平衡〕つりあひ
へいかう〔並行〕ならびゆくこと
へいかう〔嬖幸〕氣にいりのもの
へいかく〔兵革〕いくさ「——の患」
へいがふ〔並合〕あはすること
へいき〔兵機〕いくさのはづみ
へいき〔平氣〕心のおちつきたること◯自若ジジャク従容シヨウヨウ＝平然ヘイゼン恬然テンゼン（平氣の貌）
へいきよ〔屏居〕家にこもりゐること
へいきよ〔閉居〕家にとぢこもること
へいきん〔平均〕たひらかにひとしきこと

へいくわ〔兵火〕いくさ火
へいぐわ〔平臥〕ふせること
へいくわつ〔平濶〕たひらかにひろきこと
へいくわん〔炳煥〕あきらかにかゞやくこと
へいけい〔炳烱〕かゞやくこと
へいげい〔睥睨〕にらみくだすこと
へいげき〔兵戟〕いくさに用ゐる刄物
へいけん〔柄權〕おほもとの權力
へいけん〔兵權〕兵馬の權
へいげん〔平原〕たひらかなる野原
へいこ〔兵庫〕武器のくら
へいこう〔閉口〕へこむこと
へいこう〔幣貢〕みつぎもの
へいこく〔弊國〕わがくにの謙稱
べいこく〔米穀〕米やこくもつ
へいし〔兵士〕いくさびと
へいし〔駢死〕ならびて死すること
へいし〔斃死〕たふれ死すること
へいし〔睥視〕にらみ見ること
へいし〔瓶子〕酒をもる器
へいじ〔平時〕つねのとき
へいじつ〔平日〕つねの日

へいしふ〔弊習〕あしきならはし
へいしや〔蔽遮〕おほひさへぎること
へいしやう〔屏障〕さゝへとなるもの
へいじやう〔平常〕つねへいぜい
へいしゆ〔並取〕あはせとること
へいじゆつ〔兵術〕いくさの術
へいしん〔平信〕つねの音づれ
へいしん〔平心〕おちつきたる心
へいしん〔嬖臣〕氣に入りの臣
へいじん〔兵刄〕はもの
へいじん〔嬖人〕氣に入りの人
へいす〔聘〕禮を以てむかふ「師を—す」
へいせい〔平靜〕おだやか
へいせい〔兵勢〕いくさのいきほひ
へいせい〔平生〕ふだん
へいせう〔聘招〕禮を以てまねくこと
へいせき〔屏斥〕しりぞくること
へいせふ〔嬖妾〕きに入りのめかけ
へいせん〔兵燹〕いくさ火
へいぜん〔平然〕平氣のさま「——として驚かず」
へいぜん〔炳然〕あきらかなるさま「——として火を見るが如し」

へいそ〔平素〕ふだん
へいそく〔幣束〕神に奉るぬさ
へいそく〔屏息〕いきをころすこと
へいそく〔閉塞〕とぢふさぐこと
へいぞく〔弊俗〕あしきならはし
べいぞく〔米粟〕こくもつ
へいそつ〔兵卒〕いくさびと
へいたい〔兵隊〕兵士のくみ
へいたく〔弊宅〕わがいへの謙稱
へいたん〔兵端〕いくさのはじめ「——を開く」
へいたん〔平坦〕たひらか
へいたんぶ〔兵站部〕軍用品をそなふる所
へいち〔平地〕ひらち
へいぢ〔秉持〕とりもつこと
へいぢ〔平治〕平かにをさまること
へいちつ〔閉窒〕ふさがること
へいぢやう〔兵仗〕兵器のこと
へいぢやう〔閉塲〕興行の塲をとづること
へいぢよ〔屏除〕しりぞけのぞくこと
へいてい〔平定〕平かにしづまること

へいてい〔閉廷〕法廷をとづること
へいてん〔閉店〕みせをとづること
へいどん〔併呑〕あはせのむこと
へいねん〔平年〕つねのとし
へいば〔兵馬〕いくさのこと
へいはい〔敝敗〕やぶるゝこと
へいはく〔幣帛〕神に供ふるぬさ
べいばく〔米麥〕こめとむぎ
へいはつ〔併發〕あはせおこること
へいはつ〔迸發〕ほとばしりいづること
へいび〔兵備〕いくさぞなへ
へいふ〔斃仆〕たふれ死ぬること
へいふう〔弊風〕あしきならはし
へいふく〔平伏〕ひれふすこと
へいふく〔平復〕病がなほること
へいふく〔平服〕つねの衣服
へいぶつ〔幣物〕おくりもの
へいぶん〔平分〕ひとしく分つこと
へいほう〔兵鋒〕兵のいきほひ
へいぼん〔平凡〕なみ〳〵なること
へいもく〔閉目〕目をとづること
へいもつ〔聘物〕おくりもの

へいもん〔閉門〕門をとぢて出入せしめぬこと
へいもん〔聘問〕他人をみまふこと
へいやく〔兵厄〕いくさのさいなん
へいよう〔閉壅〕ふさがること
へいゆ〔平癒〕病がなほること
へいらん〔兵亂〕いくさのみだれ
べいりん〔米廩〕こめぐら
へいれい〔聘禮〕婚禮のおくりもの
へいれつ〔並列・駢列〕ゐならぶこと
へいろう〔閉籠〕家にとぢこもること
へいわ〔平話〕つねのはなし
へいわ〔平和〕おだやかなること
へいゐ〔兵威〕兵のゐせい
へいゐん〔兵員〕兵のかず
へいをく〔弊屋〕わが家の謙稱
へいをん〔平穩〕おだやか
へう〔表〕㊀官へ奉る書㊁一目にあらはすかきもの
へう〔豹〕獸の名
べう〔廟〕みたまや「孔子の——」
べう〔眇〕すがめ

べう〔秒〕時又は度のわかちの名
べうう〔廟宇〕みたまや
べうえい〔苗裔〕ちすぢ
へうえう〔飄搖・飄颻〕風にひるがへること
へうかう〔剽狡〕わるがしこきこと
へうがう〔表號〕めじるし
へうかく〔嫖客〕あそび人
へうかん〔剽悍〕わるづよきこと
へうき〔表記〕おもてにかきしるすこと
へうき〔標旗〕しるしのはた
へうきよ〔憑據〕よりどころ
へうぐ〔表具〕掛物、襖など糊にてはること
へうけい〔剽輕〕かるはづみ
へうけふ〔剽劫〕むりどりをすること
へうけん〔表顯〕あらはすこと
へうさう〔表裝〕「へうぐ(表具)」におなじ
へうさつ〔表札〕かどふだ
へうし〔表紙〕おもての紙
へうしゆ〔表示〕あらはししめすこと
へうしき〔標識〕めじるし
へうしき〔表式〕ひながた
へうしつ〔剽疾〕すばやきこと

べうしや〔廟社〕みたまや
べうしや〔描寫〕ゑがきうつすこと
へうしやう〔表彰〕あらはすこと
へうじゆん〔標準〕めあて
へうせい〔表旌〕あらはすこと
へうせつ〔剽竊〕他人の文章詩歌などをぬすむこと
へうぜん〔飄然〕ひら〳〵と動きて定まらぬさま「——たる孤客」
べうぜん〔渺然〕ひろ〴〵したるさま
へうだい〔表題〕おもての題號
へうたう〔剽盗〕ぬすびと
へうたう〔漂蕩〕水にたゞよふこと
べうだう〔廟堂〕てうてい
へうたん〔瓢簞〕つる草
へうちやく〔漂着〕たゞよひつくこと
へうちゆう〔標柱〕しるしのくひ
へうちゆう〔標註〕書物のかしらがき
へうてき〔標的〕めじるし
へうでき〔漂溺〕たゞよひおぼるゝこと
へうばう〔標榜〕しるしのくひ
べうばう〔渺茫〕ひろ〴〵したるさま「海水

―たり」
へうはく〔漂泊〕たゞよふこと
へうはく〔表白〕あらはに申すこと
べうばく〔渺邈〕はるかなること
へうふう〔猋風・飈風〕大あらしの風
へうへう〔飄飄〕ひらひらとひるがへるさま「輕風に―たり」
へうべう〔縹緲〕はッきりみえぬこと
べうべう〔淼淼〕水のみちあふるゝさま「―たる大洋」
べうべう〔渺渺〕ひろびろしたるさま「―たる海水」
へうへん〔豹變〕にはかにかはること
へうほん〔標本〕みほん
べうまん〔渺漫〕ひろびろしたること
へうめい〔表明〕あきらかにあらはすこと
へうめん〔表面〕うはべ
へうもく〔標目〕めじるし
べうもく〔眇目〕すがめ
へうやう〔飄颺〕風にまひあがること
へうらく〔漂落〕おちぶるゝこと
へうり〔表裏〕おもてとうら

へうりう〔漂流〕水にたゞよふこと
へうりやく〔剽掠〕かすめうばふこと
へうれい〔漂零〕おちぶるゝこと
へき〔癖〕くせ
へきいふ〔僻邑〕かたゐなかの村
へきえき〔辟易〕他の勢におそれてたじろぐこと
へきかい〔碧海〕あをうみ
へきかい〔劈開〕ひきさくこと
へききやう〔僻鄕〕かたゐなかの村
へききよ〔僻居〕ゐなかずまひ
へきくう〔碧空〕あをそら
へきぐう〔僻隅〕かたすみ
へきざい〔僻在〕ゐなかずまひ
へきしふ〔癖習〕くせ
へきじや〔僻邪〕よこしまなること
へきしやう〔碧嶂〕あをきやま
へきじん〔碧潯・碧潭〕あをぶち
へきす〔僻〕かたよる「古に―す」
へきすう〔僻陬〕かたゐなか
へきせう〔碧霄〕あをそら
へきせつ〔僻說〕かたよりたる說

へきそん〔僻村〕かたゐなかの村
へきち〔僻地〕かたゐなか
へきてん〔碧天〕あをぞら
へきでん〔霹電〕いなびかり
へきとう〔劈頭〕はじめ「―第一」
へきらく〔碧落〕あをそら
へきれき〔霹靂〕かみなり
へきろう〔僻陋〕ゐなかじみたること
へきろん〔僻論〕かたよりたる論
へきゑん〔僻遠〕とほく都をはなれたること
へきゑん〔碧淵〕あをぶち
へさき〔舳〕船のかしら○船首(センシユ)舳頭(ヂクトウ)
へそ〔臍〕「ほぞ（臍）」を見よ
へた〔下手〕しわざのまづきこと○拙工(セツコウ)拙手(セツシユ)劣手(レツシユ)不堪(フカン)
へだたり〔隔〕相さる間○距離(キヨリ)間隔(カンカク)懸隔(ケンカク)
へだたる〔隔〕とほくなる○離隔(リカク)隔離(カクリ)隔絕(カクゼツ)隔遠(カクエン)懸絕(ケンゼツ)
へだつ〔隔〕「へだたる（隔）」を見よ
へだて〔隔〕さかひ、しきり「―なき友」
へちま〔糸瓜〕つる草の名

べつ〔別〕㊀わかち㊁ことなること「―の物」
べつえん〔別宴〕わかれのさかもり
べつかふ〔鼈甲〕たいまい
べつきよ〔別居〕わかれてをること
べつくわん〔別館〕しもやしき、別莊
べつげふ〔別業〕しもやしき、別莊
べつけん〔瞥見〕ちらとみること
べつこん〔別懇〕とりわけしたしきこと
べつさう〔別莊〕しもやしき、別宅
べつし〔蔑視〕さげすむこと
べつしよ〔別墅〕しもやしき、別莊
べつじよ〔蔑如〕さげすむこと
べつだん〔別段〕とりわけ
べつてい〔別邸〕しもやしき
べつでう〔別條〕かはりたること
べつと〔別途〕用方のちがふこと
べつべつ〔別別〕それぞれ○個々(ココ)各自(カクジ)
へつらふ〔諂・諛〕こぶ○面從(メンジユウ)阿諂(アテン)阿諛(アユ)阿附(アフ)追從(ツイシヨウ)佞諂(ネイテン)佞諛(ネイユ)佞媚(ネイビ)
べつり〔別離〕わかれはなるゝこと
へど〔反吐〕ゑづくこと○嘔吐(オウト)
べに〔紅〕色の名

べに〔臙脂・輕粉〕唇にぬりてかざるもの
へび〔蛇〕動物の名
へや〔部屋〕家内にしきりたる室〇曹司(ザウシ)
へら〔篦〕竹片を細長く平くそぎたるもの
へらす〔減〕少くなす〇減殺(ゲンサイ)低減(テイゲン)輕減(ケイゲン)削減(サクゲン)
へり〔緣〕ふち〇緣邊(エンペン)
へりくだる〔謙〕己の身を卑下す〇謙遜(ケンソン)謙恭(ケンキヨウ)謙退(ケンタイ)謙讓(ケンジヤウ)
へる〔減〕少くなる〇消減(セウゲン)減耗(ゲンカウ)減少(ゲンセウ)
へん〔變〕かはり「―に備ふ」
へん〔篇〕㊀書物の一くぎり「上―下―」㊁詩文を敷ふる語「一―の文」
へん〔邊〕あたり、ほとり「長崎の―」
べん〔辯〕しやべること「―を振ふ」
べん〔便〕たより、つがふ「―を計る」
べん〔瓣〕はなびら
へんあい〔偏愛〕一方のみを愛すること
へんい〔變異〕かはりごと
へんい〔變移〕うつりかはること
へんい〔偏倚〕かたよること
へんい〔偏意〕かたいぢ

へんい〔邊夷〕遠き夷狄
へんいつ〔泛溢〕水のあふるゝこと
へんいふ〔邊邑〕かたゐなか
へんうん〔片雲〕一片の雲
へんえう〔邊要〕國ざかひの要害
へんえき〔變易〕かはること
べんえき〔便益〕つがふよきこと
へんかい〔邊海〕國ざかひの海
へんかい〔變改〕あらためかふること
べんかい〔辯解〕いひわけ
へんかう〔偏向〕かたむき
へんかう〔變更〕かふること
へんかう〔偏好〕かたいぢとなりたるこのみ
へんかく〔變革〕かはりあらたむること
へんがく〔扁額〕かけがく
べんがく〔勉學〕學びをつとむること
へんかん〔返簡〕かへりの文
へんき〔騙欺〕だますこと
べんき〔抃喜〕手をうちてよろこぶこと
べんぎ〔便宜〕たより、つがふ
へんきやう〔邊境〕國ざかひ
べんきやう〔勉強〕つとむること

へんきやく〔返却〕かへすこと
へんぐう〔邊隅〕國のかたすみ
へんくつ〔偏屈〕かたいぢ
へんくわ〔變化〕かはること
へんくわん〔變換〕とりかふること
へんげ〔變化〕ばけもの
へんけい〔邊警〕くにざかひのようじん
へんけい〔變形〕かはりたる形
へんけふ〔褊狹〕せまきこと
へんけん〔偏見〕かたよりたる見識
へんげん〔片言〕かたこと
へんこ〔變故〕かはりたることがら
へんこ〔偏固〕かたいぢ
べんご〔辯護〕いひたすくること
へんこう〔邊寇〕國ざかひのあた
べんこう〔辯口〕口つき、いひぶり
へんさい〔返濟〕かへしすますこと
へんさい〔片碎〕こまぐ〵にくだくること
べんさい〔辯才〕口がしこきこと
へんざい〔遍在〕あまねくあること
へんざう〔變造〕つくりかふること
べんさく〔鞭策〕むち

へんさん〔編纂〕書物をあつめあむこと
へんざん〔貶竄〕おとしめしりぞくること
へんし〔變死〕思ひがけぬ死
へんし〔駢死〕ならびて死すること
へんし〔偏私〕かたびいき
へんじ〔片時〕かたとき
へんじ〔返事〕かへりごと〇返報(ヘンポウ)返酬(ヘンシウ)
へんじ〔變事〕かはりごと
べんし〔辯士〕しやべる人
べんし〔俛視〕うつむきてみること
へんしう〔扁舟〕小ぶね
へんしう〔返酬〕へんじ、むくい
へんしふ〔偏執〕かたいぢ
へんしふ〔編輯〕書物をあつめあむこと
へんしやう〔返章〕かへりぶみ
へんじやう〔返上〕かへしたてまつること
べんしやう〔辨償〕つくなひかへすこと
へんしゆ〔騙取〕かたりてとること
へんしん〔變心〕心がかはること
へんしん〔偏心〕かたいぢ
へんしん〔返信〕かへりのたより
へんしん〔徧身〕からだぢゆう

へんず〔變〕「かはる（變）」を見よ
べんず〔辨〕「わきまふ（辨）」を見よ
べんず〔辯〕「のぶ（辯）」を見よ
へんする〔邊帥〕國ざかひを守る大將
へんする〔邊陲〕國ざかひの地
へんせい〔編成〕あみなすこと
へんせい〔編制〕あみさだむること
へんせう〔返照〕ゆふ日かげ
へんせう〔褊少〕㈠せまきこと㈡少さきこと
べんせつ〔辯折〕いひやぶること
べんせつ〔辯舌〕ものいひかた
へんせん〔貶遷〕身分のおちて他にうつさるゝこと
へんせん〔變遷〕うつりかはり
へんせん〔蹁躚〕たちめぐること
へんそく〔變則〕かはりたるきそく
べんたう〔辨當〕外出する時もちゆく食物○行厨(カウチユウ)
へんたく〔貶謫〕罪人を官をやめて島ながしにすること
べんたつ〔鞭撻〕むちうつこと
へんたふ〔返答〕こたへ

へんたん〔偏袒〕片はだぬき
べんち〔鞭笞〕むちうつこと
へんちつ〔貶黜〕官をしりぞけおとすこと
へんぢゆう〔偏重〕かたおもり
へんてい〔貶詆〕人をおとしめそしること
へんてふ〔返牒〕かへりてがみ
へんど〔邊土〕國ざかひの土地
へんどう〔變動〕かはりうごくこと
へんなふ〔返納〕かへしをさむること
へんにふ〔編入〕あみこむこと
べんねい〔便佞〕おもねりへつらふこと
へんぱ〔偏頗〕かたよること
べんぱい〔抃拜〕手をうちてをがむこと
へんぱう〔邊防〕國ざかひのふせぎ
へんぱう〔返報〕かへりしらせ
べんぱく〔辯駁〕他の說をいひやぶること
べんぱつ〔辮髮〕毛をあみさげたる髮
へんぴ〔邊鄙〕ゐなか
べんぶ〔抃舞〕手をうちてまふこと
へんぷく〔邊幅〕身のまはり「――を飾る」
へんぶつ〔偏物〕かはりもの
べんぺい〔便嬖〕おもねりへつらふこと

へんぺき〔偏僻〕かたいぢ
べんべつ〔辨別〕わきまへわかつこと
へんべん〔返辨〕かへすこと
へんぺん〔翩翩〕ひら〳〵まふさま「旌旗――」
へんぺん〔片片〕きれ〴〵なるさま「――たる暮雲」
べんべん〔便便〕はらのこえふくれたるさま「腹――」
へんぽん〔翩翻〕ひるがへるさま「――たる蛺蝶」
べんまう〔辯妄〕妄なることをいひ破ること
へんまん〔騙瞞〕だましあざむくこと
べんめい〔辨明〕あかりをたつること
べんもう〔便蒙〕はやわかり
へんやく〔變約〕約束をかふること
べんやく〔抃躍〕よろこびをどること
へんらん〔變亂〕みだれ
べんらん〔便覽〕便利に見らるゝこと
べんり〔辨理〕事務をとりあつかふこと「――公使」
べんり〔便利〕つがふよきこと

べんれい〔勉勵〕つとめはげむこと
へんれき〔遍歷〕あまねくへめぐること
へんろう〔褊陋〕せまくいやしきこと
べんろん〔辯論〕いひあらそふこと

ほ

ほ〔帆〕風をつゝみて船をやるもの
ほ〔穗〕稻麥などの實のなる處
ほ〔步〕あゆみ「――を移す」
ほ〔補〕おぎなひ
ほい〔布衣〕いやしき身分のこと（白布の衣をきる意）
ほいう〔補佑〕たすけ
ほいろ〔焙爐〕茶又は藥などを火に乾す具
ほいん〔逋隱〕のがれかくるゝこと
ほう〔俸〕ふち米
ほう〔封〕りやう地
ほう〔鵬〕鳥の名
ほう〔棒〕木竹などの細長きもの
ほういう〔朋友〕ともだち
ほうえう〔蜂腰〕くびれたるこし

ほうえき〔縫腋〕古の衣服の名
ぼうえき〔貿易〕あきなひ
ほうえん〔豐衍〕ゆたかなること
ほうえん〔豐艷〕ゆたかにうるはしきこと
ほうかう〔蓬蒿〕悪草の茂れるにいふ「——の間」
ほうがふ〔縫合〕ぬひあはすること
ほうかん〔幇間〕たいこもち
ほうき〔蜂起〕さわぎ立つこと
ぼうぎ〔謀議〕はかること
ほうきふ〔俸給〕てあて
ほうぎよ〔崩御〕天子の死すること
ほうきやう〔封疆〕領地のさかひ
ほうきよう〔豐凶〕作物のできふでき
ほうくわ〔烽火〕のろし
ほうくわい〔剖壞〕さけやぶるゝこと
ほうくわい〔崩潰〕くづるゝこと
ほうくわん〔奉還〕かへしたてまつること
ほうげい〔奉迎〕むかへたてまつること
ぼうけい〔謀計〕はかりごと
ほうけつ〔鳳闕〕天子の居所
ほうけん〔豐歉〕年のできふでき

ほうけん〔奉獻〕さゝげたてまつること
ほうけん〔封建〕諸侯に領地を與へて治めしむる政體
ほうこ〔封戸〕封土の民戸
ほうこう〔奉公〕君につかふること
ほうこう〔封侯〕封ぜられし諸侯
ほうさく〔豐作〕穀物のゆたかにみのること
ぼうさく〔謀策〕はかりごと
ほうさう〔逢遭〕出であふこと
ぼうさつ〔謀殺〕はかりてころすこと
ほうし〔奉仕〕つかへたてまつること
ほうじ〔奉事〕つかへたてまつること
ぼうし〔謀士〕はかりごとをなす人
ぼうし〔眸子〕眼のひとみ
ぼうしゆ〔謀主〕はかりごとのかしら
ほうじゆく〔豐熟〕ゆたかにみのること
ほうしよ〔奉書〕紙の名
ほうじよ〔幇助〕たすくること
ほうしよく〔奉職〕職につくこと
ぼうしん〔謀臣〕はかりごとにあづかる臣
ほうず〔奉〕おしいたゞく「教を—ず」
ほうず〔崩〕天子の死すること

ほうせう〔奉詔〕みことのりをうけたまはること
ほうぜう〔豐饒〕ゆたかにみのること
ほうせん〔奉饌〕神に奉る食物
ほうせん〔鋒尖〕ほこさき
ほうせんくわ〔鳳仙花〕花の名
ほうたい〔奉戴〕いたゞきたてまつること
ほうだい〔封内〕領地の内
ほうたう〔朋黨〕同志をむすぶこと
ほうたふ〔奉答〕こたへたてまつること
ほうぢ〔捧持〕さゝげもつこと
ほうちつ〔封秩〕ろく高
ほうちよく〔奉勅〕みことのりをうけたまはること
ほうてい〔捧呈〕さゝぐること
ほうど〔封土〕封ぜられし土地
ぼうと〔謀圖〕はかりごと
ほうどく〔捧讀〕さゝげよむこと
ほうなふ〔奉納〕をさめたてまつること
ほうねん〔豐年〕ゆたかなる年
ほうばい〔朋輩〕ともだち
ほうばう〔蜂虻〕はちとあぶ

ほうばう〔鋒鋩〕ほこさき
ぼうはつ〔蓬髮〕みだれたるかみの毛
ぼうはん〔謀判〕にせいん
ぼうはん〔謀叛〕君主にそむくこと
ほうひ〔豐肥〕ゆたかにこえふとること
ほうび〔豐美〕ゆたかにうるはしきこと
ほうふ〔豐富〕とみさかゆること
ほうふく〔捧腹〕はらをかゝへて笑ふこと「——絶倒」
ほうへい〔奉幣〕ぬさをたてまつること
ぼうぼ〔謀謨〕はかりごと
ぼうぼう〔蓬蓬〕㊀髮のみだれたるさま㊁草木の盛なるさま
ほうもん〔蓬門〕あれたる門
ほうやう〔奉養〕親をやしなふこと
ほうよ〔鳳輿〕天子のみこし
ほうらい〔蓬萊〕神人の居所
ほうらん〔峰巒〕みね〳〵、山々
ぼうり〔牟利〕利をむさぼること
ぼうりやく〔謀略〕はかりごと
ほうりゆう〔豐隆〕むつくりともちあがれること

ほうれん〔鳳輦〕天子のみ車
ほうろく〔俸祿〕ふち
ほうゐき〔封域〕封土の區域
ほえき〔補益〕おぎなひたすくること
ほか〔外〕㊀よそ「—の人」㊁そと「家の—」
ほかう〔歩行〕あるき
ほかく〔逋客〕にげかくるゝ人
ほがらか〔朗〕はれ〴〵しきこと○清朗=朝朗明朗=朗々(ほがらかなるさま)
ぼき〔簿記〕帳面づけ
ほきふ〔補給〕おぎなひあたふること
ほきん〔捕擒〕とらふること
ほぐ〔反古〕書きけがしの紙
ぼく〔惚〕ぼんやりになる○恍惚=恍乎惚焉(ぼけたるさま)
ぼく〔僕〕㊀やつこ㊁われ
ぼくかく〔墨客〕文事をもてあそぶ人
ぼくぎう〔牧牛〕まきばの牛
ぼくきやうかん〔木强漢〕ぶこつもの
ぼくきよ〔卜居〕居をうらなふこと
ぼくぐう〔木偶〕でく人形
ぼくけい〔墨刑〕入ずみの刑

ぼくげき〔木屐〕木のはきもの
ほくけつ〔北闕〕宮中のこと
ぼくさう〔牧草〕まきばの草
ぼくさつ〔撲殺〕うちころすこと
ぼくし〔牧師〕傳教者
ぼくじつ〔卜日〕日をうらなふこと
ぼくじつ〔樸實〕かざりのなきこと
ぼくしゆ〔墨守〕それのみを固く守ること「舊説を——す」
ぼくじん〔卜人〕うらなふ人
ほぐす〔解〕「とく(解)」を見よ
ぼくす〔卜〕「うらなふ(卜)」を見よ
ぼくぜい〔卜筮〕うらなひ
ぼくせき〔木石〕木と石(情のなきものにたとふ)
ぼくせき〔墨蹟〕かきたる筆のあと
ぼくそ〔朴素〕かざらぬこと
ほくだう〔北堂〕母のこと
ぼくたう〔木刀〕木だち
ぼくたく〔木鐸〕世をみちびく人
ぼくちく〔牧畜〕畜類を養ふこと
ぼくぢやう〔牧場〕まきば

ぼくちよく〔樸直〕しやうぢき
ほくてき〔北狄〕北のえびす
ぼくてき〔牧笛〕牛かひのふくふえ
ぼくてふ〔墨帖〕石ずり
ほくと〔北斗〕星の名
ぼくどう〔牧童〕牛かひわらは
ぼくどう〔僕僮〕しもべ
ぼくとつ〔木訥〕ぶこつ
ほくばう〔北邙〕死人のやきば
ぼくひ〔僕婢〕めしつかひ
ぼくふ〔踣趺〕たふるゝこと
ぼくぼく〔穆穆〕つゝしみぶかきさま
ぼくみん〔牧民〕民ををさむること
ぼくめつ〔撲滅〕うちたやすこと
ぼくやう〔牧養〕まきばにてやしなふこと
ぼくり〔木履〕げた
ぼくれい〔僕隷〕めしつかひ
ほくろ〔黑子〕皮膚の上の黑き點
ほくわく〔捕獲〕とらふること
ほくん〔誤訓〕をしへ、いましめ
ほけつ〔補缺〕かけたるをおぎなふこと
ほけん〔保險〕損亡を豫め請合ふこと

ほこ〔矛・戈・鋒〕兵器の名
ほご〔反故〕「ほぐ(反故)」を見よ
ほご〔保護〕たすけまもること
ほこさき〔鋒先〕鋒のきッさき○戟鋩鋒鋩戈鋒
ほこら〔祠〕神のやしろ○祠宮祠社祠廟
ほこり〔埃〕こまかき塵○塵埃纖塵
ほこる〔矜・誇・伐〕矜は氣位を高くする意、誇は口にじまんをいふ意、伐はてがらを高ぶる意○矜慢矜大誇稱誇大
ほころぶ〔綻〕とけほぐる○破綻
ほさ〔輔佐〕たすくること
ほさき〔鋩〕刄物のきッさき○劍鋩刄鋩
ぼさつ〔菩薩〕佛の位の名
ほざん〔逋竄〕にげかくるゝこと
ぼさん〔墓參〕はかまゐり
ほし〔星〕天にかゞやく小さきひかり○恒星列星(天につらなる星)=曉星晨星殘星(夜あけ方の星)=流星飛星奔星(とぶ星)=瑞星景星(めでたきしらせの星)

ほし〔點〕小さきてん○圏點(まるぼし)＝點々(ほしぐ)
ほし〔欲〕得たし「後生大事や金―しや」
ほじ〔晡時〕ゆふ方
ぼし〔拇指〕おやゆび
ぼし〔墓誌〕はかじるし
ほしいまま〔恣・縱・肆・擅〕「わがまゝ（我儘）」を見よ
ほしう〔補修〕つくろふこと
ぼしう〔暮秋〕秋のくれ
ほじし〔脯〕日にほしたる肉
ほしひ〔糒〕かわかしたる飯
ほしふ〔補習〕おぎなひならふこと
ぼしふ〔募集〕つのりあつむること
ほしや〔輔車〕ほゝ骨とあごと（はなるべからざる關係あるものにいふ）「脣齒―の關係」
ほしやく〔保釋〕未決罪人に歸宅をゆるすこと
ほしゆ〔保守〕古きを守ること「―黨」
ほじゆう〔補充〕おぎなひみたすこと
ぼしゆん〔暮春〕春のくれ

ほじよ〔補助〕おぎなひたすくること
ぼしよ〔墓所〕死人をうづむる所
ぼしよ〔濺書〕ちやうめん
ほしよう〔保證〕うけあふこと
ぼしよく〔暮色〕ゆふぐれのけしき
ほす〔干・乾〕「かわかす（乾）」を見よ
ほせい〔輔成〕傍よりたすけなすこと
ぼせき〔晡夕〕日ぐれ
ほせつ〔餔歠〕のみくらふこと
ほぞ〔臍〕腹の中ほどにあるくぼみ
ほぞ〔蔕〕瓜、菓物などのへた
ほそく〔捕捉〕とらふること
ほそく〔補足〕おぎなひたすこと
ほそし〔細〕せまくながし○細長
ほそつ〔步卒〕かち立の兵卒
ほそる〔細〕ほそくなる「腰―る」
ほぞん〔保存〕たもちおくこと「國粹―」
ほだ〔捕拿〕からめとること
ぼだい〔菩提〕佛の道
ほたう〔逋逃〕にぐること
ぼだう〔母堂〕はゝ
ほだし〔絆〕手足まとひ○係累羈絆

ほだす〔絆〕つなぎ止む○羈束拘束束縛絆縻
ほたる〔螢〕蟲の名
ぼたん〔牡丹〕花の名
ほつい〔發意〕思ひたち
ほつき〔發起〕思ひたつこと
ほつぎ〔發議〕評議をもちいだすこと
ぼつき〔勃起〕おこりたつこと
ぼつきやく〔沒却〕とりすつること
ほつく〔發句〕歌の一種
ぼつくわん〔沒官〕官にとりあぐること
ほつけ〔法華〕佛教の宗派の名
ぼつこう〔勃興〕おこりたつこと
ぼつしう〔沒收〕官にとりあぐること
ぼつじよ〔勃如〕むッといかるさま「―として怒る」
ほつしん〔發心〕思ひ立つこと
ほつす〔拂子〕佛具の名
ほつす〔欲〕ほしく思ふ
ぼつす〔沒〕㊀入る、しづむ㊁死ぬ
ぼつせい〔沒世〕死ぬること
ぼつぜん〔勃然〕むッとすること「―として奮起す」

ほつそく〔發足〕いで立つこと
ほつたん〔發端〕はじめ
ぼつでき〔沒溺〕水におぼるゝこと
ほつとう〔發頭〕發起のかしら
ぼつにふ〔沒入〕水におちいること
はつねつ〔發熱〕熱がおこること
ぼつぼつ〔勃勃〕いきほひのさかんなるさま「野心―」
ぼつめつ〔沒滅〕ほろびなくなること
ぼつらく〔沒落〕ほろぶること
ほつる〔紕〕とけほぐる「―るゝ紐」
ほてい〔補綴〕おぎなひつくろふこと
ほてう〔步調〕足なみ
ほど〔程〕㊀ばかり「百圓―の金」㊁ころ、をり「宵の―」
ほどあひ〔程合〕ぶんげん○分限分際
ほどく〔解〕「とく（解）」を見よ
ほとけ〔佛〕佛教にて尊ぶ神○佛陀浮圖
ほどとし〔施〕「ほどこす（施）」を見よ
ほどこす〔施〕㊀あまねくしく「政を―す」○施行施設㊁あまれくめぐみあたふ○施

輿惡施布施喜捨喜捐
ほととぎす〔時鳥〕鳥の名○霍公 郭公 杜鵑子規杜宇
ほとばしる〔迸〕とびちる○迸發迸出
ほとぶ〔潤〕ふやく「米を―ばす」○潤浸
ほとり〔邊・頭・上〕「あたり(邊)」を見よ
ほとる〔熱〕あつさほとぼる
ほとんど〔殆・幾〕すんでのことに「―危し」
ほにん〔補任〕「ふにん(補任)」を見よ
ほね〔骨〕「こつ(骨)」を見よ
ほねをる〔骨折〕つとめはげむ○苦勞勤勞勤勉粉骨碎身
ほねん〔甫年〕一年のこと
ぼねん〔暮年〕年老いての年
ほのか〔仄・側〕かすかなること「―に聞く」
ほのほ〔炎〕火のもえさき○炎焰火焰
ほのめく〔仄〕ほのかに見ゆ○髣髴彷彿
ほばう〔逋亡〕にぐること
ほばう〔捕亡〕にげたる人をとらふること
ほばく〔捕縛〕とらへしばること
ほばしら〔帆柱・檣〕帆を卷きあぐる柱 ○帆檣

ぼひ〔墓碑〕はかの石碑
ほひつ〔輔弼〕傍よりたすくること「―の臣」
ほぶ〔步武〕あしなみ「―を揃ふ」
ほふいん〔法印〕僧位の名
ほふき〔法規〕おきて
ほふく〔匍匐〕かふこと
ほふげん〔法眼〕僧位の名
ほふし〔法師〕僧のこと
ほふせい〔法制〕おきて
ほふそく〔法則〕おきて
ほふてい〔法廷〕さいばん所
ほふでふ〔法帖〕すり本
ほふど〔法度〕おきて
ほふまう〔法網〕法律のあみ
ほふらく〔法樂〕神佛のたむけになすこと
ほふり〔法理〕法律の理論
ほふりつ〔法律〕國のおきて
ほふる〔屠〕きりさき殺す○屠殺屠戮
ほふれい〔法令〕おきて
ほふわう〔法皇〕上皇の佛門に入らせられし稱

ほふゑ〔法會〕佛法のまつり
ぼへう〔墓標〕はかのしるし
ぼへう〔墓表〕死人の履歷を記して墓にほりつけたるもの
ほほ〔頰〕かほのほゝ
ほほ〔朴〕木の名
ほぼ〔略・粗〕あらまし「―成る」
ほぼ〔保姆〕母にかはりて兒童を教育する人
ほほづき〔酸漿〕草の名
ほほゑむ〔微笑〕にっこりわらふ ○微笑含笑‖莞爾莞然(ほゝゑむさま)
ほまれ〔譽〕よき名 ○名譽榮譽光榮面目‖聲望名望聲聞聞達名聞名聲令聞令望(ほまれあるきこえ)
ほむ〔譽・褒〕ほめはやす○褒揚稱揚賞揚賞美賞讚賞譽 讚稱讚賞讚美讚譽 褒賞 褒美 褒頌‖感嘆歎賞感賞(感じほむ)
ほめそやす「ほむ(譽・褒)」を見よ
ほめん〔逋免〕にげのぶること
ほや〔寄生〕やどり木
ほや〔保夜〕海の動物の名

ほやう〔保養〕身のやしなふこと
ほゆ〔吠〕犬がなく
ほゆ〔吼・咆・哮〕猛獸がなく○咆哮
ほよく〔補翼〕たすくること
ほら〔洞〕うつろの岩あな○石洞岩洞岩窟石窟
ほら〔法螺〕㈠大きなるそらごと○虛聲大言壯語夸言㈡貝の名
ほり〔捕吏〕罪人をとらふる人
ほり〔補理〕つくらふこと
ほり〔堀・渠〕ほりわりて水を通すところ(渠は灌漑運送の便につくれるほり)○溝渠
ほり〔壕・塹・隍〕城のまはりのほり(隍は水なきほり)○壕塹城壕 城隍
ほりう〔蒲柳〕かよわきことを示す語「―の質」
ほりよ〔捕虜〕とりこ
ほる〔堀〕地をうがつ○發掘
ほる〔鑿〕「うがつ(穿・鑿)」を見よ
ほる〔彫〕ゑりきざむ○彫刻彫琢篆刻
ほる〔惚〕心まどふ○心醉惑溺
ほろ〔縨〕車の屋とするおほひ

ほろ【母衣】鎧の背に負ひて矢をふせぐもの
ぼろ【襤褸】ふるき布きれ〇襤布(ランプ)襤褸(ランル)
ほろぶ【亡・滅】形なくなる 〇夷滅(イメツ)殫滅(タンメツ)灰滅(クワイメツ)泯滅(ビンメツ)湮滅(インメツ)殄滅(テンメツ)破滅(ハメツ)殫亡(タンバウ)敗亡(ハイバウ)滅亡(メツバウ)喪亡(サウバウ)湮沒(インボツ)滅沒(メツボツ)
ほろぼす【亡・滅】形をなくす〇剿誅(サウチユウ)討滅(タウメツ)剿滅(サウメツ)殄戮(テンリク)(敵をほろぼす)‖蕩盡(タウジン)破産(ハサン)(家産をほろぼす)
ほゐ【補遺】のこりたるをひろふこと(著書などにいふ)
ほん【本】㊀書物のこと㊁長きものを數ふる語「五―の指」㊂もと「―國の人」㊃其のものを指していふ語「―年、―人」
ぼん【盆】㊀茶碗などをのする具㊁盂蘭盆の略
ぼん【凡】常なみのこと「筆勢―ならず」
ぼん【梵】天竺のものにかぶらする語「―字、―語」
ほんあん【飜案】小說などのつくりかへ
ほんい【本意】まことの心
ほんいつ【奔逸】はしりだすこと
ぼんう【盆雨】おほあめ

ほんえい【本營】ほんぢん
ぼんかく【梵閣】寺のこと
ほんぎ【本義】まことのいみ
ほんぎやく【叛逆】そむきさからふこと
ほんくわい【本懷】まことのおもひ
ほんくわん【本貫】もとの戶籍
ほんげん【本源】みなもと
ほんこく【飜刻】版木を再び出版すること
ぼんさい【盆栽】うゑ木のはち
ほんしやう【本性】うまれつき
ぼんじやう【凡常】よのつね
ぼんしよう【梵鐘】寺のつりがね
ほんしよく【本色】もちまへ
ぼんじん【凡人】なみの人
ほんせき【本籍】もとの戶籍
ぼんせつ【梵刹】寺院のこと
ほんぜん【本然】もとのまゝ「―の性質」
ほんぜん【飜然】ひるがへるさま「―大悟す」
ほんそう【奔走】はしりまはること
ぼんぞく【凡俗】世間なみのこと
ほんち【奔馳】かけまはること

ほんぢん【本陣】いくさにて大將の居る所〇牙營(ガエイ)
ほんてう【奔潮】はやしほ
ほんとう【奔騰】はれあがること
ほんとく【奔匿】にげかくるゝこと
ぼんなう【煩惱】心のわづらひ
ほんのう【本能】うまれつき
ぼんばい【梵唄】佛を讚するうたひ
ぼんぷ【凡夫】たゞ人
ほんぷく【本復】もとにかへること
ほんぶん【本分】もとのつとめ「身の―を全うす」
ほんまう【本望】もとよりののぞみ
ほんまつ【本末】もとすゑ
ほんまる【本丸】本城のこと
ほんめい【奔命】かけまはること
ほんやく【飜譯】外國語を自國語にやくすこと
ぼんやり【朦朧】㊀曇りて明ならぬこと〇朦朧(モウロウ)曖昧(アイマイ)糢糊(モコ)㊁心のたしかならぬこと〇恍然(クワウゼン)惘然(マウゼン)㊂事件のたしかならぬこと〇漠然(バクゼン)漫然(マンゼン)
ぼんよう【凡庸】なみ〳〵なること

ほんらい【本來】もとより
ほんりやう【本領】もちまへ
ぼんりよ【凡慮】なみ〳〵のかんがへ

ま

ま【眞】ほめことば「―赤、―夜中」
ま【間】あひだ「人の見ぬ―」
ま【魔】あしき神
まい【毎】ことごと「―朝、―日」
まい【枚】ひら「着物一―」
まいあん【昧暗】くらきこと
まいきよ【枚擧】一々かぞへあぐること「―に遑あらず」
まいぐわん【昧頑】ものがわからず頑固なること
まいさう【埋葬】死人をはうむること
まいさう【昧爽】よのあけがた
まいたん【昧旦】よのあけがた
まいとく【埋匿】うづめかくすこと
まいふく【埋伏】うづもれふすこと
まいぼつ【埋沒】うづもれて見えぬこと

まいめい〔昧冥〕くらきこと
まいめい〔昧明〕かすかにあかるきこと
まうあ〔盲啞〕めくらとおふし
まうあく〔猛惡〕いたりて惡しきこと
まうか〔孟夏〕夏の初
まうく〔設〕そなへおく○設置 設備 設爲 敷設
まうく〔儲〕こしらふ「見をーく」
まうく〔利〕「まうけ(利)」を見よ
まうけ〔利〕得となること ○利益 利潤 利得＝巨利(大まうけ)＝暴利 (法外の利)
まうご〔妄語〕うそ、いつはり
まうざう〔妄想〕みだりなるかんがへ
まうし〔猛士〕たけき人
まうじう〔猛獸〕たけきけだもの
まうしふ〔妄執〕みだりなる執心
まうじや〔亡者〕死人のこと
まうしやう〔猛將〕たけき大將
まうしやう〔猛省〕ふかく自らかへり見ること
まうしゆん〔孟春〕春のはじめ
まうじん〔盲人〕めくら

まうす〔申・白〕「まをす(申・白)」を見よ
まうせい〔猛勢〕たけきいきほひ
まうせん〔毛氈〕毛おりもの
まうぜん〔猛然〕たけくいさましきさま「—として進む」
まうたん〔妄誕〕いつはり
まうづ〔詣〕まゐる○參詣
まうとう〔毛頭〕すこしも「——僞なし」
まうとう〔孟冬〕冬のはじめ
まうねん〔妄念〕みだりなるおもひ
まうはつ〔毛髮〕かみのけ
まうふ〔罔誣〕なきことをありとしふること
まうまう〔莽莽〕おひしげるさま「榛草——たり」
まうまく〔網膜〕めのたまのうすきまく
まうもく〔盲目〕めくら
まうゆう〔猛勇〕たけくいさましきこと
まうら〔網羅〕ひきつゝむこと
まうらう〔孟浪〕「まんらん(孟浪)」を見よ
まうりやう〔亡魂〕死人のたましひ
まうりやう〔魍魎〕ばけもの
まうれつ〔猛烈〕はげしきこと

まうろく〔耄碌〕老いぼるゝこと
まうわく〔罔惑〕まよふこと
まうゐ〔猛威〕たけきゐせい
まかい〔魔界〕まものゝすむ所
まがき〔籬〕かきね○籬落 籬藩 垣籬
まかす〔負〕まけさす○壓服 屈服 威服
まかす〔委・任〕ゆだぬ ○委任 委囑 委託 依託 依賴
まかなふ〔賄〕㊀てあてをなす○支給 供給 ㊁食物をあたふ
まがふ〔紛〕「まぎる(紛)」を見よ
まがりがね〔矩〕ものさしの名
まかる〔罷〕退出すること○退出 辭退
まがる〔曲〕ゆがみたわむ○曲紆 曲折 彎曲 屈曲 迂曲 屈紆 屈曲 屈折 屈撓 卷屈
まき〔槇〕木の名
まきぞへ〔卷添〕かゝりあひ○連及 連坐 連累 緣坐 累坐
まきば〔牧場〕牛馬を飼ふ場所
まきもの〔卷物〕書畫などまきたるもの○卷軸

まぎらはし〔紛〕まぎるゝこと ○疑似 類似 酷似
まぎる〔紛〕㊀いりみだる○紛亂 紛雜 混亂 混雜 ㊁みまがふ
まく〔膜〕うすかは
まく〔幕〕とばり○幔幕 帷幔 帷幄 帷帳
まく〔卷〕㊀まろくまく「旋をーく」㊁からみつく○繯絡 纏絡
まく〔負〕おとる○劣敗
まく〔蒔〕たねを植う○蒔種 播種
まく〔撒〕「そゝぐ(撒)」を見よ
まぐ〔曲〕「まがる(曲)」を見よ
まぐさ〔秣〕馬をかふ枯草
まくら〔枕〕頭をのせて寐る具
まくる〔捲〕まきあぐ「袖をーく」
まぐろ〔鮪〕魚の名
まげ〔髷〕髮のわがね
まげて〔枉〕しひて、むりに「ーて許し給へ」
まけん〔磨研〕とぎみがくこと
まご〔孫〕子の子
まご〔馬子〕馬かた○馬夫 馬丁

まごころ〔眞心〕まことの心○赤心 眞心 丹心 精衷 衷情 誠意 誠心 眞情

まこと〔眞・實〕ほんたう ○眞實 眞正 正實

まこと〔信・誠〕信は言にいつはりなきこと、誠は心にいつはりなきこと ○誠實 款誠 忠誠 悃誠 至誠

まさかり〔眞盛〕まつさかり○全盛

まさかり〔鉞〕をの○斧鉞

まさご〔眞砂〕まなご

まさし〔正〕「たゞし(正)」を見よ

まさつ〔摩擦〕こすること

まさに〔正〕たしかに「―に承知せり」

まさに〔當〕そのはずの意にて終をべしにて結ぶ「―に然るべし」

まさに〔將〕いま少しの意にて終をとすにて結ぶ「―に死なんとす」

まさに〔方〕さしあたりて「天―に晴る」

まさりおとり〔優劣〕かちまけ○優劣 勝敗 甲乙

まさる〔優・勝〕「すぐる(勝)」を見よ

まざる〔雜〕「いりまじろ(入交)」を見よ

まして〔況・矧〕「冬は―て寒し」

まじなひ〔呪〕禍をはらふ術○禁厭 呪禁

まじなふ〔呪〕「まじなひ(呪)」を見よ

まじはり〔交〕つきあひ○交際 交誼 交情 交詢 情交

まじはる〔交〕「まじはり(交)」を見よ

まじふ〔交〕いりちがふ○交錯 參差

まじふ〔雜〕「まざる(雜)」を見よ

まじめ〔眞面目〕本氣のこと「――顏」○眞摯 眞率 率直

まじゆつ〔魔術〕まほふ

ましら〔猿〕「さる(猿)」を見よ

まじる〔交・錯・雜〕「いりまじる(入交)」を見よ

まじろく〔瞬〕「またゝぐ(瞬)」を見よ

ましん〔痲疹〕はしか

ます〔鱒〕魚の名

ます〔枡〕物のかさを計る具

ます〔增・益〕多くなる ○增加 增益 倍加

まず〔雜〕「まじふ(雜)」を見よ

ますます〔益・增〕いよ〳〵

ますらを〔增荒男〕たけき男○丈夫 武夫 勇士 健男

ますゐ〔痲醉〕全く身のおぼえなくなること

ませ〔籬〕「まがき(籬)」を見よ

また〔叉〕木一にて末二に分れたるところ

また〔胯〕足と足との間

また〔又〕そのうへに「山―山」

また〔亦〕ひとしく「吾も―眠る」

また〔復〕ふたゝび「今日―行かん」

まだう〔魔道〕あしき道

またがる〔跨〕二方にわたる「二國に―る」

またぐ〔跨〕足にてふみまたぐ

またげらい〔又家來〕家來の家來○陪臣

またゝぐ〔瞬〕目ばたきをなす

まだら〔斑〕ぶち○斑點 斑文（まだらのふ）

まち〔町〕商家の軒を並ぶる地○市街 街衢 市井 坊間

まち〔襠〕衣服のまち

まぢかし〔間近〕程ちかし○接近

まちがひ〔間違〕㊀「ちがひ(差・違)」を見よ ㊁「あやまち(過)」を見よ

まちがふ〔間違〕「まちがひ(間違)」を見よ

まちまち〔區區〕さま〴〵「――に別る」

まつ〔松〕木の名

まつ〔待・俟・竢〕待は此方へ來るものをまちうくる意、俟・竢は自然に來らんことをまちのぞむ意○期待

まづ〔先〕㊀さきに「君の方に―行く」㊁しばらく「―そのまゝにせん」

まつえい〔末裔〕すゑの血筋

まつえふ〔末葉〕子孫のすゑ

まつかう〔抹香〕香の名

まつぎ〔末技〕すゑのわざ

まつげ〔睫〕目ぶちの毛

まつご〔末期〕死にぎは

まつざ〔末座〕座のすゑ

まつさつ〔抹殺〕ぬりけしとること

まつじ〔末寺〕本山の支配をうくる寺

まづし〔貧〕くらしむきの物足らぬこと○赤貧 貧寠 貧困 貧乏 貧窮 貧寒

まづし〔不味〕うまくなし○不味

まつしぐら〔驀地〕はげしく進みかゝるさま

「——に驅け行く」
まつすぐ〔眞直〕少しもまがらぬこと○眞直一直線眞一文字
まつせ〔末世〕おとろへたる末代の世
まつせき〔末席〕末の坐席
まつだい〔末代〕死しての後の世
まつたく〔全〕すべて○全然
まつたし〔全・完〕全はのこるところなき意、完はかくることなき意○完全完備＝完然(まツたきさま)
まつたん〔末端〕すゑのはし
まつちや〔抹茶〕ひき茶
まつぱ〔末派〕すゑの派
まつはる〔纏〕「まとふ(纏)」を見よ
まつび〔末尾〕をはり
まつり〔祭・祀〕神のまつり○祭典祭禮祭祀禋祭禋祀
まつりう〔末流〕すゑのながれ
まつりごと〔政〕世を治むるみち○政事政治政道
まつる〔祭・祀〕「まつり(祭・祀)」を見よ
まつろ〔末路〕行くすゑ「人生の——」

まと〔的〕「めあて(目當)」を見よ
まど〔牖〕すかしまど
まど〔窓〕あかりまど
まとはす〔纏〕「まとふ(纏)」を見よ
まどはす〔惑〕まよはす○蠱賊蠱惑誘惑
まとふ〔纏・絡〕からまる、まきつく○纏綿纏縛纏著纏絡綢繆羅絡蟠紆
まどふ〔惑〕思ひまよふ○當惑迷惑狂惑惑亂罔惑溺惑
まとまる〔纏〕一に集る○團結聚結結束
まとむ〔纏〕一にすべあつむ○聚收結收
まとゐ〔圓居〕輪に居ならぶこと○團欒圓居圜坐
まなこ〔眼〕めだま○眼球
まなじり〔眦〕めじり○眼尾眼角
まなぶ〔學〕まねならふ○學問講學修學講習倣習
まにあはせ〔間合〕一時の用にあつること○姑息
まぬ〔眞似〕まねをなす○摸倣摸倣摸擬

擬似
まぬかる〔免〕のがる○免除免脱
まね〔眞似〕「まぬ(眞似)」を見よ
まねく〔招〕よぶ○招請招待請待聘招
まのあたり〔面〕めのまへ○目前面前現前眼前
まはしもの〔廻者〕しのびのもの○間者諜者間諜
まはす〔廻〕「まはる(廻)」を見よ
まばゆし〔目映〕まぶし○羞明怕明
まばら〔疎〕しげからぬこと○稀疎蕭疏疎薄疎離
まはり〔廻〕めぐり○周圍周邊
まはりどほし〔廻遠〕○紆餘迂濶迂遠
まはる〔廻〕㈠遠き路をとる○迂回㈡圓くめぐる○囘轉囘旋旋轉旋囘㈢めぐりあるく○巡廻
まひ〔舞〕をどりの一種
まひ〔痲痺〕しびるゝこと
まひなひ〔賂〕そでのした○行貨苞苴賍賄賄賂貨賄賄賍

まひなふ〔賄〕「まひなひ(賄)」を見よ
まひる〔眞晝〕日のまなか○正午亭午
まふ〔舞〕かけりめぐる○跳舞舞踏
まぶし〔翳〕「まばゆし(目映)」を見よ
まぶた〔瞼〕眼の上を被ふ皮○眼瞼
まぶち〔眶〕目のふち○眼眶
まへ〔前〕㈠おもて○前面㈡「さき(先)」を見よ
まほふ〔魔法〕よこしまの法
まぼろし〔幻〕無き姿のあるが如く目に映るもの○幻影
まま〔繼〕まことの親子ならぬもの「——母、——子」
まま〔間間〕をりふし○往々
まみゆ〔見〕目上の者にあふ○謁見拜謁見參
まみえさす〔見〕ひきて對面せさす○引見延見
まみる〔塗〕ぬれけがる「泥に——る」
まむし〔蝮〕へびの一種
まめ〔豆〕穀物の一
まめつ〔磨滅〕すれつぶるゝこと

まめやか〔實〕まじめ、まこと○信實忠實篤實忠貞忠惇忠直實著律義
まもる〔守〕見はる○固守堅守(かたく守る)=警守(いましめ守る)
まもる〔護〕大切になす○愛護戒護保護擁護=警護(いましめ護る)
まもる〔衞〕ふせぎをなす○防衞扞衞護衞守衞=警衞(いましめ衞る)
まゆ〔眉〕まゆ毛○蛾眉柳眉(美人の眉)
まゆ〔繭〕蠶の巢
まゆずみ〔黛〕かきまゆ毛
まよはす〔迷〕「まよふ(迷)」を見よ
まよひ〔迷〕まよふこと○迷信(心のまよひ)
まよふ〔迷〕思ひまぎる○昏迷沈迷
まり〔鞠・毬〕玩具の名(鞠は革にて作りたるもの、毬は毛にて作りたるもの)
まる〔丸〕㈠圓き形「日の—」㈡完きこと「—呑、—裸」
まるた〔丸太〕材木の丸木
まるむ〔丸〕「まろむ(丸)」を見よ
まれい〔磨礪〕とぎみがくこと

まれに〔稀・希・罕〕たまさかに「—に見る」
まろし〔圓〕角のなきこと○團圓圓々
まろぶ〔轉〕「ころぶ(轉)」を見よ
まろむ〔丸〕固め圓くなす
まわた〔眞綿〕蠶のわた
まゐらす〔進〕「たてまつる(奉)」を見よ
まゐる〔參〕行くの敬語○參上推參=參詣(神佛にまゐる)
まを〔眞麻〕からむしの一名
まをしわけ〔申譯〕「いひわけ(言譯)」を見よ
まをしわたす〔申渡〕いひわたす○宣告
まをす〔申〕くはしくのべいふ○具申稟申
まをす〔白〕あきらかにいふ○敬白謹白
まをす〔啓〕皇后陛下に言上すること○啓白
まをす〔奏〕天皇陛下に言上すること○奏上
まん〔萬〕數の名
まん〔滿〕みつること「—十才」
まんいう〔漫遊〕たびをしてあるくこと
まんいつ〔滿溢〕みちあふるゝこと

まんえい〔滿盈〕みちてあふるゝこと
まんえつ〔滿悅〕十分のよろこび
まんえん〔蔓延・蔓衍〕ひろがること
まんかい〔滿開〕花がみなさくこと
まんがん〔滿俺〕鑛物の名
まんき〔滿期〕期のみつること
まんき〔謾欺〕あざむくこと
まんき〔慢氣〕たかぶる氣
まんぐわ〔漫畫〕そゞろがきのゑ
まんぐわん〔滿願〕ぐわんがけのをはること
まんげつ〔滿月〕もちづき
まんげん〔慢言〕ほこることば
まんげん〔漫言〕みだりなることば
まんこう〔滿腔〕はらいッぱい「—の熱血」
まんごふ〔萬刧〕かぎりなき世
まんざ〔滿座〕座にをるすべての人々
まんざい〔滿載〕一ぱいにのすること
まんさう〔蔓草〕つるくさ
まんさく〔滿作〕五穀のよくみのること
まんさん〔蹣跚〕足のよろめくこと
まんさん〔漫散〕しまりのなきこと
まんざん〔滿山〕山ぢゆう

まんし〔慢視〕あなどりみること
まんしん〔滿身〕からだいッぱい
まんしん〔慢心〕たかぶるこゝろ
まんせい〔蔓生〕つるをだして生ずること
まんせい〔慢性〕病のながびくたち「—病」
まんぜん〔漫然〕とりとめもなきさま「—たる話」
まんぞく〔滿足〕かけたることなきこと
まんちやく〔瞞着〕ごまかすこと
まんぢゆう〔饅頭〕食物の名
まんてう〔滿潮〕さししほ
まんてう〔滿朝〕朝廷ぢゆう
まんてん〔滿天〕そらいッぱい「—の暗雲」
まんてんか〔滿天下〕世の中のこらず
まんなか〔眞中〕たゞなか○正中
まんのう〔萬能〕よろづの藝能
まんば〔慢罵〕あなどりのゝしること
まんぴつ〔漫筆〕そゞろがき
まんぴやう〔漫評〕そゞろなる批評
まんぶ〔慢侮〕たかぶりあなどること
まんぷく〔滿腹〕はらいッぱい
まんぷく〔萬福〕多くのさいはひ「—を祈

ろ」
まんぼう〔滿眸〕目にみゆるかぎり「——只砲烟を見るのみ」
まんまく〔幔幕〕たれまく
まんまる〔眞圓〕眞のまる
まんまん〔漫漫〕水のはてしのなきこと「——たる大海」
まんまん〔蔓蔓〕草のはひひろがるさま「——たる榛草」
まんめん〔滿面〕かほぢゅう「——の喜色」
まんもく〔滿目〕目に見ゆるかぎり「——皚々たる雪」
まんらく〔蔓絡〕はひまつはること
まんらん〔孟浪〕ぼんやりしたること「——の言」
まんりき〔萬力〕器械の名
まんろう〔謾弄〕あなどりもてあそぶこと
まんろく〔漫錄〕そゞろがき

み、

み〔身〕㈠からだ「吾が——」㈡にく「刺——」

み〔實〕草木のみ○果實
み〔箕〕穀物のあらを去る具
み〔巳〕十二支の一
みあはす〔見合〕㈠みくらぶ○照合對照㈡さしひかふ
みえ〔見〕みばえ○外見外觀
みえがくれ〔見隱〕見えつかくれつ○隱顯隱見出沒
みおとす〔見落〕○看過
みおろす〔見下〕○瞰視俯臨
みかい〔未開〕いまだひらけぬこと
みがく〔磨・研・琢〕ときみがく○研磨琢磨研磋研鑽
みかけ〔見掛〕「みえ（見）」を見よ
みかた〔味方〕我がかたうど
みかど〔御門〕「てんわう（天皇）」を見よ
みかん〔蜜柑〕菓物の名
みき〔幹〕木の體をなすところ
みき〔御酒〕酒の敬語
みぎ〔右〕方角の名
みぎは〔汀〕水のきは○汀渚
みぎり〔砌〕軒又は階の下の石疊の處

みけつ〔未決〕いまだ決定せぬこと
みけん〔眉間〕兩眉のあはひ
みこ〔神子〕「いちこ（巫女）」を見よ
みご〔稈心〕藁のくき
みことのり〔勅・詔〕天子のおほせ（勅は尋常の小事のみことのり、詔は臨時の大事のみことのり）○詔勅大詔聖勅勅諭勅令詔令勅語綸旨綸言宣旨
みこみ〔見込〕おもひつき○見解胸算臆測
みこん〔未婚〕まだよめいりせぬこと
みさい〔未濟〕いまだすまぬこと
みさき〔岬〕海中につき出でたる陸地○海角地嘴
みささぎ〔陵〕天皇后妃の御墓○山陵陵墓
みさを〔操〕心のみだれぬこと○節義節操操節貞操貞節
みじかし〔短〕長くなし○短簡
みじゆく〔未熟〕いまだ熟せぬこと
みしる〔見知〕㈠見て知る○見得認識認知㈡交りて知る○相識面識

みす〔御簾〕すだれの敬語○玉簾翠簾
みす〔見・看〕「みる（見・看）」を見よ
みすゐ〔未遂〕いまだしとげぬこと「謀殺——」
みせ〔店・廛〕みせだな○廛舖肆廛商店
みせかけ〔見掛〕うはべのかざり○假裝外見外飾
みせしめ〔懲戒〕こらしめ○膺懲懲戒懲罰
みせびらかす 示しほこる○誇示衒示
みせもの〔見世物〕珍奇の物を錢をとりて衆人に見するもの
みぜん〔未然〕いまだ然らざること「禍を——に防ぐ」
みそ〔味噌〕食物の名
みぞ〔溝・渠〕どぶ○溝渠
みぞう〔未曾有〕未だかつてなきこと「——の珍事」
みそか〔晦日〕月末の三十日の日のこと○晦日盡日
みそぎ〔禊〕水にて身を淨むること

みぞれ〔霙〕雨まじりの雪

みだ〔彌陀〕佛の名「――の淨土」

みだいどころ〔御臺所〕貴人のおく方

みたす〔滿〕「みつ(滿)」を見よ

みだす〔亂〕「みだる(亂)」を見よ

みたまや〔廟〕死者の靈をまつる所○靈廟靈屋廟宇

みだら〔猥〕みだりなること○淫猥猥褻狎褻

みだりがはし〔濫〕おごそかならず○濫妄

みだりに〔妄・猥・漫〕むざと「―に出入すべからず」

みだる〔亂・紊・擾・撹〕入りまざる(紊はもつるゝ意、擾はみだれまぎるゝ意、撹はかきみだる意)○紊亂錯亂紛亂擾亂撹亂

みだれ〔亂〕世のみだれ○危亂變亂亂離

みち〔途・路・道〕人の通行するみち(道は人の行ふべきすぢみちにも用ゐ、路は人の世わたりのすぢみちにも用ゐる)○道路道途行路＝徑路(小みち)＝岐路(えだみち)＝街路衢路(ちまた)

みちのり〔道程〕道のへだゝり○行程里程路程道程

みちびく〔導〕道の案内をなす○誘導引導嚮導啓導指導

みぢん〔微塵〕きはめてこまかきこと「粉―に碎く」

みつ〔蜜〕蜂の畜ふるみつ

みつ〔盈・滿・充〕實・盈・滿は一杯になる意、充・實は足りとゝのふ意○盈滿充實充盈充滿

みづ〔水〕液體の名

みづうみ〔湖〕陸の中の大なる水たまり○湖水

みつうん〔密雲〕こきくも

みづがき〔瑞籬〕神社のまはりの垣

みづから〔自・躬〕われから「―招く罪」

みつぎ〔貢〕民より官に奉る租税の總稱○貢租貢賦朝貢調斂調賦

みつぎ〔密議〕ないくの評議

みつく〔見付〕見出だす○發見發覺

みつぐ〔見繼〕仕おくりをなす○給資扶助

みづぐき〔水莖〕筆のこと「――の跡」

みつくわい〔密會〕ないくの會合

みつけい〔密計〕ひそかのはかりごと

みつけう〔密教〕眞言宗のこと

みつご〔密語〕さゝやき

みつこく〔密告〕ないくつぐること

みつざう〔密造〕ないくにつくること

みつし〔密旨〕ないくのおほせ

みつし〔密使〕ないくの使

みつじ〔密事〕ないくごと

みつしつ〔密室〕とぢかためしへや

みつしやう〔密商〕ないくのあきうど

みつじゆ〔密樹〕こみたる木立

みつしよ〔密書〕ないくのかきつけ

みつせう〔密詔〕ないくのみことのり

みつせつ〔密接〕ひたとつくこと

みつそう〔密奏〕ないく天子に奏上すること

みつだん〔密談〕ないくばなし

みづち〔蛟〕龍の一種なりといふ

みつちよく〔密勅〕ないくのみことのり

みづつく〔水付〕水にしめる○浸潤

みづのえ〔壬〕十干の一

みづのと〔癸〕十干の一

みつばい〔密賣〕ないしよにてうること

みつぷう〔密封〕ひたと封ずること

みつぺい〔密閉〕ひたととぢこむること

みつぼう〔密謀〕ないくのはかりごと

みつみつ〔密密〕ないく

みつむ〔見詰〕目をこらし見る ○凝視諦視注視熟視

みつもる〔見積〕見はかる○概算概計目算胸算心算

みつわ〔密話〕ないしよばなし

みてい〔未定〕いまだ定まらぬこと

みとほす〔見透〕みすかす○洞見洞察

みとむ〔認〕みさだむ○認定認知識認

みどり〔綠・翠〕綠はもえぎ色、翠はるり色

みどりご〔嬰兒〕「おさなご(幼兒)」を見よ

みな〔皆・咸〕のこらず、ことぐく○皆式悉皆一切總體

みなぎる〔漲〕水のみちあふるゝばかりなること○漲溢汎濫汎漲＝澎湃渺漫

渺漫渺々洋々漫々(みなぎるさま)

みなごろし〔鏖〕一人のこらず殺すこと○鏖殺 鏖盡

みなしご〔孤〕親のなき子○孤兒

みなと〔湊・港〕舟のとまる處 ○港灣 海港 海門

みなふ〔未納〕いまだをさめぬこと

みなみ〔南〕方角の名

みなもと〔源〕川の流のもと○本源 根源 源流

みなり〔身形〕「よそほひ(裝)」を見よ

みにくし〔醜〕みめわるし○醜惡 麤醜 陋醜

みぬく〔見拔〕みとほす○洞見 看破

みね〔峰・岑・嶺〕山のいたゞきの尖りたる所○峯巒 巒嶺 嶺嶂＝秀峯 喬峯(高き峯)＝危峯 絶巘 峻峯 斷崖 峻嶺(けはしき峯)

みね〔刀背〕刀の刃の背

みの〔蓑〕雨著の名

みのる〔實・熟・稔〕實をむすぶ○結實＝豐熟 豐穰 豐稔 滿作(穀物がゆたかにみのる)

みはからふ〔見計〕みつくらふ○斟酌

みはつ〔未發〕いまだおこらぬこと

みはらす〔見晴〕四方をながむ ○極目 四顧 眺望 瞻望 觀望

みはる〔見張〕㊀みまもる○監視 ㊁目を張りて見る○瞪視 諦視

みぶるひ〔身震〕恐れ或は寒さにて身のふるふこと○戰慄 震慄 寒戰

みぶん〔身分〕身のほど

みほん〔見本〕ひながた

みまはる〔見廻〕みあるく○巡視 巡見 巡邏 巡檢 巡察

みまふ〔見舞〕「とぶらふ(訪・弔)」を見よ

みまん〔未滿〕その數にみたぬこと「丁年——」

みみ〔耳〕音をきくみゝ○耳朶

みみず〔蚯蚓〕蟲の名

みみづく〔木兎〕鳥の名

みめ〔見目〕きりやう ○容貌 顏貌 相貌 容色 眉目

みめい〔未明〕夜のいまだあけぬ時

みめぐる〔見廻〕「みまはる(見廻)」を見よ

みもち〔身持〕「おこなひ(行)」を見よ

みもと〔身許〕おひ立ちたる所 ○素性 種姓

みや〔宮〕帝王の族の住まるゝ家 ○宮殿・宮居

みやうが〔冥加〕神佛のめぐみ

みやうじよ〔冥助〕神佛のたすけ

みやうせき〔名跡〕家名のあと

みやうだい〔名代〕人の代りに立つこと

みやうばつ〔冥罰〕神佛のばつ

みやうばん〔明礬〕礦物の名

みやうもく〔名目〕なまへ

みやうもん〔名聞〕世のきこえ

みやうり〔名利〕名譽と利欲

みやうり〔冥利〕神佛のめぐみ

みやうりよ〔冥慮〕神佛のおぼしめし

みやく〔脉・脈〕ちのみち

みやくくわん〔脈管〕みやくのくだ

みやくはく〔脉搏〕みやくうち

みやくらく〔脈絡〕みやくすぢ

みやげ〔土産〕家づと○苞苴 餽物

みやこ〔都〕帝王の住まるゝ地 ○王城 京師 京都 帝都 都會 花洛 都城 都府 京洛

みやすどころ〔御息所〕東宮親王などの妃の稱

みやび〔雅〕あてやかなること○風流 風雅 都雅 文雅 典雅 閑雅

みやびやか〔雅〕「みやび(雅)」を見よ

みやぶ〔雅〕「みやび(雅)」を見よ

みゆ〔見〕「みる(見)」を見よ

みゆき〔御幸〕天子のいでまし ○行幸＝行啓(皇后、東宮のみゆき)

みより〔身寄〕身うち○親族 親類 親緣 親眷 眷族 緣類 近親

みらい〔未來〕未だ來らぬ時

みりん〔味淋〕酒の一種

みる〔海松〕海草の名

みる〔見・視・看・觀・覽〕目にかゝる(視は心にとめて見る意、看は久しく見つむる意、觀は見まはる意、覽は目を通して見る意)○目擊 閱見 瞻視 觀視 觀覽＝瞥見

眄視瞑視(ながしめに見る)‖傍視傍觀側視(わきめに見る)‖周覽洽覽博覽(あまねく見る)‖詳視詳覽審覽照覽細覽熟覽 諦視(くはしく見る)

みれん〔未練〕心のこりすること

みわく〔見分〕○識別鑒別判別

みを〔水脈〕船みち

みをつくし〔澪標〕水脈じらせのくひ

みんいう〔民有〕たみのもちもの(官有に對して)

みんかん〔民間〕人民の間

みんさつ〔愍察〕あはれみ察すること

みんじやう〔民情〕人民のこゝろ

みんじゆつ〔愍恤〕あはれみいたはること

みんしよ〔民庶〕おほくのたみ

みんせん〔民選〕民よりえらぶこと

みんばう〔民望〕民ののぞみ

みんばう〔泯亡〕ほろぶること

みんぼつ〔泯沒〕ほろびうすること

みんめつ〔泯滅〕ほろびつくること

みんらん〔泯亂〕ほろびみだるゝこと

む

む〔無〕むなしきこと「―人の島」

むい〔無意〕心づかぬこと

むいしき〔無意識〕かんがへのなきこと

むえき〔無益〕やくに立たぬこと

むが〔無我〕我をわするゝこと「―夢中」

むがい〔無涯〕はてのなきこと

むかう〔無効〕効のなきこと

むがく〔無學〕學問なきこと「―文盲」

むかし〔昔〕年久しき前○遙昔往昔舊昔在昔宿昔古昔往時曩時 昔時往古往代往年昔年

むかで〔百足〕蟲の名

むかばき〔行縢〕騎馬に用ゐる具

むかふ〔向〕目あての方へむく「西に―ひて行く」

むかふ〔對〕互にさしむかふ「さし―ひて坐る」

むかふ〔迎〕まちうく○迎迓

むき〔向〕むかふかた○方角方向方位

むき〔無期〕期限のなきこと「―徒刑」

むきやう〔夢境〕ゆめをみてをるうち

むきやう〔無疆〕はてしなきこと

むきゆう〔無窮〕きはまりなきこと「皇統―」

むきよく〔無極〕はてしなきこと「天地―」

むく〔向〕「むかふ(向)」を見よ

むく〔椋〕木の名

むく〔剝〕「はぐ(剝)」を見よ

むく〔無垢〕まじりものなきこと「白―、銀―」

むくい〔報・酬〕こたふること○返報報酬應酬果報應報宿業(前世のむくい)

むくげ〔毳〕うぶ毛

むくち〔無口〕口すくなきこと○寡言

むくどり〔椋鳥〕鳥の名

むくゆ〔報・酬〕「むくい(報・酬)」を見よ

むぐら〔葎〕草の名

むぐらもち〔土龍〕獸の名

むくろ〔軀〕からだ

むけい〔無稽〕れもはもなきこと「荒唐―の言」

むげん〔無限〕かぎりなきこと「―の感慨」

むげん〔夢幻〕ゆめまぼろし

むこ〔無辜〕つみなきこと「―の民」

むこ〔聟・婿〕女子の夫○女婿

むこく〔無告〕うったふるところなきこと「―の民」

むごたらし〔苛〕手ひどし○苛虐苛酷慘酷慘惻慘毒殘忍殘虐殘酷酷虐

むこん〔無根〕よりどころのなきこと「―の事實」

むこん〔夢魂〕ゆめのこと

むごん〔無言〕少しもいはぬこと

むさう〔無雙〕二つとなきこと「忠勇―」

むさう〔夢想〕ゆめ見

むざうさ〔無造作〕やさしきこと

むさくろしきたならし○陋苦穢陋汚穢

むささび〔鼯鼠〕獸の名

むさぼる〔貪〕よくばる○貪婪貪吝慳貪

むさん〔無算〕かぞへきれぬこと
むさん〔霧散〕きりの如くちること
むざん〔無慙〕なさけなきこと
むし〔蟲〕小動物の總稱
むし〔無視〕みとめぬこと「法令を―す」
むしき〔無識〕ものをしらぬこと
むじつ〔無實〕事實のなきこと「―の罪」
むじな〔貉・貈〕獸の名
むしふ〔霧集〕きりのごとくあつまること
むしや〔武者〕いくさ人〇介士 戰士
むじやう〔無常〕つれなきこと
むじやう〔無上〕この上なきこと「―の樂」
むじやう〔無情〕なさけなきこと
むじやう〔無狀〕らんばうなること
むしゆく〔無宿〕やどのなきこと
むじゆん〔矛盾〕前後の言のそろはぬこと
むしる〔捲〕引きつかみぬく「毛を―る」
むしろ〔席・筵〕しきもの〇筵席 薦席
むしろ〔寧〕いつそ「―死するにしかず」
むしん〔無心〕心なきこと「―の草木」
むじん〔無盡〕つくることなきこと
むじんざう〔無盡藏〕萬物のつきはてぬこと

むす〔蒸〕㈠ふかす「粟を―す」㈡暑さこもる〇炎蒸
むす〔噎〕「むせぶ（咽・噎）」を見よ
むすう〔無數〕數へられぬこと「―の小蟲」
むすこ〔息子〕男の子〇子息 息男 息子‖愚息 豚兒（吾が息子の遜稱）‖令息 賢息（他人の息子の尊稱）
むすぶ〔結〕ゆはへしばる〇締結 結緊
むすぶ〔掬〕掌にて水をすくふ
むすめ〔娘〕女の子〇息女 少女 女兒‖令愛 令孃（他人の娘の尊稱）‖拙女（吾が娘の遜稱）
むせう〔霧消〕きりの如くきゆること「雲散―」
むせぶ〔咽・噎〕のんどに物のこだはる〇嗚咽 硬咽 嘔咽 噫噎‖慘咽 悲咽（かなしみむせぶ）
むだ〔徒〕いたづらごと〇無益 冗長
むたい〔無體〕むりをいひかくること「―の雜言」
むだう〔無道〕道ならぬこと
むだづかひ〔徒費〕益なき費〇浪費 濫費 徒費 冗費

むだくち〔徒口〕よけいの口〇間言 浪言 贅言 空言
むだばなし〔空話〕よけいの話〇空談 閑話
むち〔笞〕人をうちこらす竹むち
むち〔鞭〕馬をうちはげます革むち
むち〔策〕馬をうちはげます竹むち
むち〔無智〕智惠のなきこと「―蒙昧」
むち〔無恥〕はぢをしらぬこと
むぢ〔無地〕もやうのなき染色
むちうつ〔鞭〕鞭にてうつ〇鞭撻 楚撻 鞭笞
むちゆう〔夢中〕うはのそら
むつかし ㈠「わづらはし（煩）」を見よ ㈡解しにくし〇聱牙 佶屈 難解 難澁
むつかる〔憤〕小兒がじれて泣く〇鬱悶
むつき〔襁褓〕赤子のうぶ衣〇襁褓
むつぶ〔睦〕「したしむ（親）」を見よ
むつまし〔睦〕なかよし〇親昵 親睦 親密
むて〔無手〕からて〇徒手 赤手

むながひ〔鞅〕馬具の名
むなし〔空・虛〕何ものもなし〇空虛
むに〔無二〕二つとなきこと
むね〔胸〕㈠體の前面の名〇胸膈 胸間 胸宇 胸襟 胸中 胸裡 ㈡こゝろのうち、おもひ〇胸腔 胸臆
むね〔旨〕わけ〇旨趣 趣意 旨意‖綸旨 勅旨（天子の御旨）
むね〔宗〕おもなること「―との大將」
むね〔棟〕家のやのむね
むねん〔無念〕くやしきこと
むのう〔無能〕のうなし「―の識」
むひ〔無比〕くらべもの丶なきこと
むび〔夢寐〕ねてゆめみること
むひつ〔無筆〕文字の書かれぬこと
むべ〔宜〕「うべ（宜）」を見よ
むへん〔無邊〕はてしなきこと「宏大―」
むほう〔無法〕むやみ「―の振舞」
むほう〔無謀〕かんがへなし
むほん〔謀叛〕君にそむくこと〇叛逆 不軌 非望 簒逆 謀叛
むみ〔無味〕おもしろみのなきこと「乾燥―」

―」
むめい〔無銘〕刀劍などの作者の名をしろさぬもの
むもん〔無文・無紋〕もやうのなきこと
むやく〔無益〕やく立たぬこと
むやく〔無役〕役目のなきこと
むよう〔無用〕用事のなきこと
むら〔村・邑〕人家のむらがる所 ○村邑(ソンイフ)村里(ソンリ)村落(ソンラク)里落(リラク)里閭(リリヨ)邑里(イフリ)閭閻(リヨエン)
むら〔叢・群〕むらがること「―雲、―鳥」
むら〔斑〕「まだら(斑)」を見よ
むらがる〔群〕多く一所にあつまる ○群集(グンシフ)鱗集(リンシフ)蟻集(ギシフ)雲集(ウンシフ)蝟集(ヰシフ)霧集(ムシフ)
むらさき〔紫〕色の名
むらざと〔村里〕「むら(村・邑)」を見よ
むらさめ〔村雨〕ゆふだち
むり〔無理〕道理ならぬこと
むり〔夢裡〕ゆめのうち
むりやう〔無量〕かぎりしられぬこと
むりよ〔無慮〕おもひがけぬこと
むりよく〔無力〕いきほひなきこと
むる〔群〕「むらがる(群)」を見よ
むるゐ〔無類〕たぐひなきこと
むれう〔無聊・無憀〕ものさびしきこと
むろ〔室〕土にて塗りこめたるへや
むろん〔無論〕いふまでもなきこと
むゐ〔無位〕位のなきこと
むゐ〔無爲〕おだやかなること「天下――なり」

め

め〔目〕物を見るめ
め〔芽〕草木のめ ○萌芽(ハウガ)嫩芽(ドンガ)
め〔牝〕めす(鳥獸などの女をいふ)
めあて〔目當〕あてど ○目的(モクテキ)目途(モクト)標準(ヘウジユン)標的(ヘウテキ)＝正鵠(セイコウ)(矢を射るまと)
めあはす〔妻〕嫁入をせさす ○配嫁(ハイカ)＝降嫁(カウカ)(皇女を臣下に嫁すること)
めい〔命〕㊀おほせ㊁いのち㊂めぐりあはせ
めい〔銘〕㊀漢文にて功績を稱する文の名㊁製造物につけたる名
めいあん〔名案〕よきかんがへ
めいあん〔冥闇〕くらやみ

めいうん〔命運〕めぐりあはせ
めいか〔名家〕名高き家
めいかく〔明瞭〕あきらか
めいかん〔明鑑〕あきらかなる見わけ
めいかん〔銘肝〕心にきざみて忘れぬこと
めいぎ〔名義〕なまへ
めいきやう〔明鏡〕明かなるかゞみ
めいきやう〔鳴響〕なりひゞくこと
めいくわく〔明確〕はッきりして居ること
めいげん〔瞑眩〕目のくらむこと
めいげん〔明言〕明かにいひきること
めいご〔冥護〕神佛のかげながらたすけまもること
めいこく〔銘刻〕心にきざみつくること
めいさい〔明細〕くはしきこと
めいさう〔鳴噪〕なりさわぐこと
めいさつ〔明察〕あきらかにみとほすこと
めいし〔名刺〕なふだ
めいしふ〔迷執〕まよひ
めいしや〔鳴謝〕禮をのぶること
めいしやう〔名匠〕一の藝術にすぐれたる人
めいじやう〔名狀〕ありさまをいひあらはすこと
めいしゆ〔盟主〕ちかひぬし
めいしゆ〔銘酒〕銘をうちたる酒
めいしよ〔名所〕名高き所
めいじよ〔冥助〕神佛のかげながらたすくること
めいしよう〔名稱〕なまへ、となへ
めいしよう〔名勝〕名高き勝地
めいしん〔迷信〕まようて信ずること
めいじん〔名人〕一藝に名高き人
めいず〔命〕「おほす(仰)」を見よ
めいすう〔命數〕いのちのかぎり
めいせき〔明晰〕あきらか
めいせつ〔明晰〕あきらか
めいする〔酩酔〕酒にいたくゑふこと
めいだい〔命題〕おほせたる名題
めいたつ〔明達〕萬事にさときこと
めいだん〔明斷〕明かなる斷定
めいち〔明智〕明かなる智識
めいちや〔銘茶〕銘をつけたる茶
めいちゆう〔命中〕ねらひたがはずあたること「彈丸――す」

めいちよう〔明澄〕あきらかにすむこと
めいてい〔酩酊〕甚しく酒にゑふこと
めいてき〔鳴鏑〕なりかぶら
めいてつ〔明哲〕智のさときこと
めいど〔冥途〕よみぢ○幽界陰府冥府黃泉九泉九原
めいどう・〔鳴動〕なりとゞろくこと
めいとく〔明德〕明かなる德
めいにち〔命日〕いみ日
めいばう〔名望〕名高きほまれ
めいはく〔明白〕あきらかなること
めいび〔明媚〕山水などのうつくしきこと
めいひつ〔名筆〕たくみの筆
めいびん〔明敏〕さときこと
めいふ〔冥府〕めいど
めいふく〔冥福〕死後の功德のために佛事を營むこと
めいぶつ〔名物〕名高きもの
めいぶん〔名聞〕名のきこえ
めいぶん〔名分〕名義の分際
めいぼ〔名簿〕名まへをしるす帳面
めいまう〔迷妄〕まよひ

めいみやく〔命脈〕いのち
めいめい〔命名〕名をつくること
めいめい〔冥冥〕くらきありさま
めいもう〔冥濛〕うすぐらきこと
めいもく〔瞑目〕めをつむること
めいもく〔名目〕なまへ
めいやく〔盟約〕ちかふこと
めいよ〔名譽〕ほまれ
めいらう〔明朗〕あきらかなること
めいらん〔迷亂〕まよひみだるゝこと
めいり〔名利〕「みやうり(名利)」を見よ
めいりやう〔明亮〕あきらか
めいりやう〔明眞〕心明かにして正しきこと
めいれい〔命令〕おほせつけ
めいれう〔明瞭〕あきらかなること
めいれん〔明廉〕心のいさぎよきこと
めいわう〔明王〕賢明の王
めいわく〔迷惑〕まよひまどふこと
めいゑん〔冥遠〕くらくとほきこと
めう〔妙〕甚だたくみなること
めうが〔茗荷〕草の名
めうけい〔妙計〕よきはかりごと

めうきん〔妙算〕よきはかりごと
めうじ〔苗字〕うぢ
めうほふ〔妙法〕よきしかた
めうみ〔妙味〕おもむき、おもしろみ
めうやく〔妙藥〕よきくすり
めうよう〔妙用〕よくつかふこと
めうりやく〔妙略〕よきはかりごと
めうれい〔妙齡〕としわかきこと「——の少女」
めかけ〔妾〕てかけ
めかた〔目方〕はかりめ○量目量積比量重量
めがね〔眼鏡〕物を明に見る具○眼鏡
めきき〔目利〕刀劍書畫器物などの眞僞を見ること○鑑定鑑識鑑別鑑査
めぐみ〔惠〕なさけ○恩惠恩澤恩寵恩德恩賚慈惠仁惠愛惠德澤‖冥加冥利利生(神佛のめぐみ)
めぐむ〔惠〕いたはりて物を與ふ○給恤惠恤憐恤愍恤矜恤賜惠惠賜惠與賑給贍給
めぐむ〔萌〕芽ざす○萌芽發芽

めくら〔盲〕目の見えぬもの○盲人盲者盲目瞽者
めぐらす〔廻〕「めぐる(廻)」を見よ
めぐり〔廻〕「まはり(廻)」を見よ
めぐる〔廻〕まはる○廻轉旋廻
めぐる〔巡〕見あるく○巡廻巡巡周
めぐる〔繞〕物のまはりをとりまく○圍繞匝繞
めぐる〔旋〕ぐるぐるめぐる○旋轉旋囘循環
めぐる〔運〕めぐりゆく○運轉幹運
めぐる〔周〕もののまはりをめぐる○周廻周匝
めざす〔目指〕「ねらふ(狙)」を見よ
めざまし〔目醒〕目をおどろかす○驚目
めし〔召〕「めす(召)」を見よ
めし〔飯〕食物の名○餐飯
めしあつむ〔召集〕よびよす○召集徵集
めしうど〔召人〕とが人○累囚罪囚囚人囚徒
めしつかひ〔召使〕しもべ○奴僕奴隷下

隷 皁隷 僕隷 廝徒 使价

めしとる〔召捕〕罪人をとらふ○追捕 逮捕
執捕

めしひ〔盲〕「めくら（盲）」を見よ

めじるし〔目標〕めあて○標識 標目 目標

めす〔召〕よびまねく ○召致 召喚 召呼

めす〔徵〕官の命にてよびいだす ○徵發
徵募

めす〔聘〕禮をそなへてよびむかふ○招聘
徵聘

めす〔雌〕動物の女

めづ〔愛〕「かはゆがる（可愛）」を見よ

めつき〔滅金〕金銀などを他の金屬にやきつ
くること○鍍金

めつきやく〔滅却〕ほろぼすこと

めつじん〔滅盡〕ほろびつくること

めつす〔滅〕「ほろぶ（滅）」を見よ

めつぜつ〔滅絕〕ほろびなくなること

めつばう〔滅亡〕ほろぶること

めつぼつ〔滅沒〕ほろぶること

めづらし〔珍〕まれにして貴きこと○珍異
珍奇

めつれつ〔滅裂〕はなれ〳〵になりてとゝの
はぬこと

めて〔馬手〕右の手

めでたし〔愛〕㈠「かはゆらし（可愛）」を見よ
㈡よろこばし○可慶 可祝

めとる〔娶〕妻にむかへとる

めなう〔瑪瑙〕礦物の名

めぬき〔目拔〕めぼしきもの○眼目 主眼

めぬき〔目貫〕刀のめぬき

めのと〔乳母〕「うば（乳母）」を見よ

めひ〔姪〕兄弟の者の女子○從女

めまひ〔眩暈〕目のくらむこと○眩暈 眩眃
暝眩 昏瞑

めめし〔女女〕女のごとし

めん〔面〕おもて、つら○假面（舞に用ゐる
顏の形）

めん〔雌〕めす「―鳥」

めんえき〔免役〕役をゆるすこと

めんえつ〔面謁〕おめにかゝること

めんきよ〔免許〕官よりゆるさるゝこと

めんくわい〔面會〕相見ること

めんくわん〔免官〕官をやめさすること

めんご〔面晤〕相見ること

めんこう〔綿亙〕ながくひきつゞくこと

めんさう〔面相〕かほつき

めんしき〔面識〕しりあひ

めんしや〔面謝〕まのあたりれいをのぶるこ
と

めんしや〔免赦〕ゆるすこと

めんじやう〔免狀〕ゆるしのかきつけ

めんじやう〔面讓〕目の前にてせむること

めんじゆう〔面從〕おもねりしたがふこと

めんしよく〔免職〕職を免ずること

めんず〔免〕㈠ゆるす㈡やめさす

めんせき〔面積〕おもてのひろさ

めんせき〔面責〕まのあたりせむること

めんせつ〔面折〕まのあたりいさむること

めんせつ〔面接〕まのあたりあふこと

めんそ〔免訴〕訴をゆるすこと

めんそ〔免租〕租稅をゆるすこと

めんだう〔面倒〕むづかしきこと

めんだん〔面談〕まのあたりかたること

めんちつ〔免黜〕官をやめて退かすること

めんぢよ〔免除〕ゆるしのぞくこと

めんちん〔面陳〕まのあたりいふこと

めんてい〔面體〕かほかたち

めんばう〔面貌〕かほつき

めんばく〔面縛〕顏をむきだしにして後手に
しばること

めんばく〔緬邈〕はるかなるさま

めんばん〔綿蠻〕鳥のさへづる聲

めんぴ〔面皮〕つらの皮

めんぴ〔免避〕まぬかれさくること

めんぷ〔綿布〕木綿おりもの

めんぷく〔綿服〕もめんぎもの

めんぼく〔面目〕ほまれ、人に合はする顏

めんみつ〔綿密〕くはしきこと

めんめん〔面面〕おの〳〵

めんめん〔綿綿〕つらなりつゞくさま

めんもく〔面目〕「めんぼく（面目）」を見よ

めんやう〔綿羊〕獸の名

めんゆ〔面諭〕まのあたりさとすこと

めんゆ〔面諛〕おもねりへつらふこと

めんよう〔面容〕かほかたち

めんわ〔面話〕まのあたりはなすこと

も

も〔藻〕水草の名
も〔喪〕人死してものおもひにこもること
もうえい〔蒙翳〕おほひかくすこと
もうらつ〔朦鬱〕㈠氣のふさぐこと㈡樹木のしげること
もうぐ〔蒙愚〕おろか
もうぢん〔蒙塵〕天子の亂をさけて他へうつること
もうどう〔艨艟〕いくさぶね
もうまい〔朦昧〕うすぐらきこと
もうまい〔蒙昧〕おろか
もうへい〔蒙蔽〕おほひかぶさること
もうむ〔朦霧〕ふかききり
もうもう〔朦朦〕雨霧などにてうすぐらきさま「暮雨――」
もうろう〔朦朧〕おぼろげなること「月色――」
もえぎ〔萌黄〕色の名

もがく〔跳〕「あがく(跳)」を見よ
もぎ〔摸擬〕まねすること
もぐ〔捥〕ねぢりとる「柿を――ぐ」
もくか〔目下〕さしあたり、たゞ今
もくきよ〔默許〕しらぬふりしてゆるすこと
もくぎよ〔木魚〕僧家にて讀經の時うつ具
もくぐう〔木偶〕木の人形
もくくわ〔默過〕だまッてすごすこと
もくげ〔木槿〕木の名
もくけい〔默契〕いはずしてあふこと
もくげき〔目擊〕まのあたり見ること
もくこう〔沐猴〕さる「――にして冠するもの」
もくこん〔目今〕さしあたり、たゞ今
もくざ〔默坐〕だまッてすわること
もぐさ〔艾〕草の名
もくざう〔木造〕木づくり
もくさん〔目算〕みはからひ
もくし〔默止〕だまること
もくし〔目眦〕まなじり
もくし〔默視〕だまッてみてゐること
もくじ〔目次〕みだし

もくじゆう〔默從〕だまッてしたがふこと
もくす〔默〕だまる
もくせい〔木犀〕木の名
もくせう〔目笑〕めつきにてわらふこと
もくぜん〔目前〕めのまへ
もくそう〔目送〕目にてみおくること
もくづ〔藻屑〕水中にある藻のくづ
もくてき〔目的〕めあて
もくど〔目途〕めあて
もくねん〔默然〕だまッてゐるさま「――としていはず」
もくへう〔目標〕めじるし
もくもく〔默默〕だまッて居るさま「衆――たり」
もくよく〔沐浴〕ゆあみ
もぐら〔葎〕草の名
もぐらもち〔田鼠〕獸の名
もくらん〔木蘭〕「もくれん(木蓮)」を見よ
もくれい〔目禮〕めつきにて禮すること
もくれん〔木蓮〕木の名
もくろく〔目錄〕かてうがき
もくろみ〔目論〕「くはだて(企)」を見よ

もけい〔模型〕いがた
もこ〔糢糊〕ぼんやりしたること「曖昧――」
もざう〔摸造〕まねてつくること
もさく〔摸索〕手さぐりにさぐること
もし〔若〕さもあらば「―吾を救ふものあらば」
もしほ〔藻汐〕海藻の汐水より採る鹽
もしや〔摸寫〕うつすこと
もず〔鵙〕鳥の名
もせい〔茂盛〕しげりてさかんなること
もせい〔茂生〕しげりおふること
もたぐ〔擡〕もちあぐ○擡擧[タイキヨ]
もだす〔默〕「だまる(默)」を見よ
もだゆ〔悶〕わづらひ苦しむ○煩悶[ハンモン]煩懊[ハンアウ]煩憂[ハンイウ]煩躁[ハンサウ]憂悶[イウモン]悶躁[モンサウ]
もたらす〔齎〕もちて行く
もたる〔凭〕よりかゝる「机に―る」
もち〔餅〕食物の名
もち〔糯〕もち米
もち〔黐〕鳥もち
もちづき〔望月〕十五日の夜の月
もちふ〔用〕「もちゐる(用)」を見よ

もちまへ〔持前〕身に生れつきたること○本色・本分・本能・本領
もぢる〔捩〕ねぢよぢる
もちろん〔勿論〕いふまでもなきこと
もちゐる〔用〕つかふ○使用＝收用・採用（とり用ゐる）＝任用・登用（官にすゝめ用ゐる）＝應用・適用（あてはめて用ゐる）＝流用・利用（他に役立て用ゐる）
もつ〔持〕手にとる○把持
もつくわん〔沒官〕官にとりあぐること
もつけ〔勿怪〕思ひがけぬこと「――の幸」
もつこ〔畚〕土石など運ぶ具
もつしう〔沒收〕官にとりあぐること
もつたい〔勿體〕ぎやうさんなること「――ぶる」
もつとも〔最〕第一にすぐれて「―大なり」
もつとも〔尤〕たゞし「―、こは内密の事に候」
もつぱら〔專〕一づに、主として
もつる〔縺〕入りみだる○紛擾・紛糾・紛雜・紛錯・紛亂
もてあそぶ〔弄〕なぶりものにす○愚弄・嫚弄・侮弄

もてあそぶ〔翫・玩〕なぐさみものにす○玩弄・玩好・愛玩
もてなす〔持成〕あしらふ、とりなす○引接・應接・接待・應待・待遇・接遇＝禮遇・殊遇・厚遇・款遇・優待・款待（手厚く持成す）
もてはやす〔持映〕ほめそやす○珍重
もと〔本〕根もと○根本・原本・基本・素本
もと〔元・原〕元ははじめの意、原はおこりの意○原始・元始・根原・根元
もと〔許〕ところ「人の―」
もと〔素〕したぢ「學問の―を作る」
もと〔基〕「もとゐ（基）」を見よ。
もと〔舊・故〕まへかた、むかし○舊故・舊昔・故昔
もどかしがる はがゆがる ○焦躁
もどす〔戻〕「かへす（返・還）」を見よ
もとづく〔基〕はじまる○歸因・基因・起原
もとで〔元手〕もとがね○資本・資金・資財

もとどり〔髻〕たぶさ
もとほる 行きめぐる ○徜徉・徘徊・低徊・彷徨・躑躅
もとむ〔求・索・需〕たづねもとむ（需は欲し請ふ意）○求索・要求・需求・需要
もとる〔悖・戻〕「さからふ（逆）」を見よ
もどる〔戻〕「かへる（歸・還）」を見よ
もとゐ〔基〕どだい○基礎・基本・基址・根基
もなか〔最中〕まんなか○中央・中心・正中
もぬけ〔蛻〕ぬけがら「蟬の―、蛇の―」
もの〔物〕しなもの○物品・物體
もの〔者〕人にのみいふ
ものいみ〔物忌〕身をきよめいましむること○齋戒・齋忌・潔齋・精進
ものうし〔懶・慵〕ものぐさし○懶惰・疎懶
ものさし〔物差〕物の長短をはかる具○尺度・裁尺
ものじり〔物識〕博く物事に明かなる人○有識・博識・明哲

もののふ〔武夫〕いくさ人○武士・武夫・武人
ものみ〔物見〕㊀見物すること○遊觀・遊覽㊁敵の樣子をうかゞふもの○斥候・哨兵
もはや〔最早〕今となりては「――及ばず」
もはん〔模範〕てほん
もみ〔籾〕米のからを去らぬもの
もみ〔紅絹〕紅色の無地の絹布
もみ〔樅〕木の名
もみぢ〔紅葉〕木葉の紅に染みたるもの○丹葉・黄葉・紅葉
もむ〔揉〕兩手にてこする
もむ〔鑽〕錐にて穴をもむ
もめん〔木綿〕草の名
もも〔桃〕木の名
もも〔股〕脚の上部
もや〔靄〕霧の深きもの○烟靄・朦霧
もやう〔模樣〕ありさま
もやす〔萌〕「もゆ（萌）」を見よ
もやす〔燃〕「もゆ（燃）」を見よ
もやひ〔催合〕共々になすこと ○共同合

同協同

もゆ〔萌〕草木の芽がふく○萌生萌牙發芽

もゆ〔燃〕火にもゆ○燃燒

もよほす〔催〕㊀うながす○催促督促㊁もうけおこす○擧行興行㊂きざす「春色—す」

もより〔最寄〕近きあたり○近傍近邊附近

もらす〔漏〕「もる(漏)」を見よ

もらふ〔貰〕贈物をうく○受領拜領

もり〔森〕木立のしげりたる處○森林茂林密林

もり〔銛〕鯨を刺す具

もる〔盛〕器に入る「水を—る」

もる〔漏〕㊀こぼれいづ○漏洩泄漏漏泄㊁ぬけおつ○遺漏脫漏

もろし〔脆〕こはれやすし○脆弱

もろて〔諸手〕兩の手

もろびと〔諸人〕多くの人

もろみ〔諸味〕にごり酒

もろもろ〔諸〕みな〳〵○諸般百般

もん〔門〕かど

もん〔紋〕かた「桐の—」

もんか〔門下〕弟子

もんきう〔問究〕とひつむること

もんぐわい〔門外〕門の外(あづかり知らぬこともにいふ)「—漢」

もんこ〔門戶〕かどぐち

もんごん〔文言〕文のことば

もんざい〔問罪〕罪をせめ問ふこと「—の師」

もんさう〔悶躁〕もだえさわぐこと

もんじん〔門人〕弟子

もんじん〔問訊〕とひたゞすこと

もんせい〔門生〕弟子

もんぜき〔門跡〕皇族にて僧となられしものゝ稱

もんぜつ〔悶絕〕もだえ死ぬること

もんだい〔問題〕問ひかくることの題目

もんだふ〔問答〕とひこたへ

もんち〔門地〕家がら

もんちやく〔悶著〕もめあひ

もんてい〔門弟〕弟子

もんと〔門徒〕信者

もんばう〔門牓〕かどふだ

もんばう〔門望〕家のほまれ

もんばつ〔門閥〕いへがら

もんまう〔文盲〕文字のわからぬ人

もんめ〔匁〕めかた「一—五分」

もんりう〔門流〕一家のわかれ

や

や〔矢・箭〕弓のや

や〔屋〕「いへ(屋)」を見よ

やいと〔灸〕きう

やいば〔刃〕つるぎのは○白刃露刃

やいん〔夜陰〕よる

やう〔瘍〕はれものゝ名

やう〔洋〕㊀うみ「東—、西—」㊁重に西洋の意に用ゐる「—紙、—學」

やうい〔洋夷〕洋人をいやしんていふこと

やういく〔養育〕やしなひそだつること

やういつ〔洋溢〕水のあふるゝこと

やうえう〔颻颻〕風にひるがへること

やうかう〔洋行〕西洋の國へ行くこと

やうかん〔羊羹〕菓子の名

やうき〔陽氣〕心のはれぐしきこと

やうきゆう〔楊弓〕もてあそびの弓

やうぎん〔洋銀〕金屬の名

やうげん〔佯言〕いつはりのことば

やうげん〔揚言・颺言〕いひふらすこと

やうご〔佯語〕いつはり

やうさ〔佯詐〕いつはること

やうさん〔養蠶〕かひこをかふこと

やうじ〔楊枝〕齒をみがくもの

やうじやう〔養生〕やしなひ

やうしゆん〔陽春〕春のこと

やうしよう〔揚稱〕ほめはやすこと

やうしよく〔佯飾〕いつはりてかざること

やうす〔樣子〕「ありさま(有樣)」を見よ

やうせい〔養成〕やしなひなすこと

やうせき〔煬炙〕あぶりやくこと

やうたい〔樣體〕なりふり

やうちやう〔羊腸〕うねりくねりの路「崎嶇—」

やうふう〔洋風〕西洋のふり

やらぶん〔養分〕やしなひとなるもの
やらへい〔恙病〕やまひ
やらぼく〔養牧〕家畜をやしなふこと
やうやう〔洋洋・瀁瀁〕水のみなぎるさま「—
—たる大海」
やうやう〔揚揚〕得意のさま「意氣——」
やうやく〔漸〕やう／＼○漸々漸次
やうよ〔揚譽〕ほめあぐること
やうらう〔養老〕老をやしなふこと
やうらく〔瓔珞〕くびにかくるかざり
やうれき〔陽曆〕太陽曆
やかう〔夜行〕よるゆくこと
やかう〔夜更〕よふけ
やかた〔屋形〕やれのかたち「——船」
やがて〔軈〕はどなく「—來るべし」
やかまし〔喧〕「かしまし（喧）」を見よ
やから〔族〕㊀一族のもの○一族親族戚族脊族㊁なかま「盜賊の—」
やぎ〔山羊〕獸の名
やきもの〔燒物〕「せともの（瀬戸物）」を見よ
やく〔役〕つとめ、やくめ
やく〔厄〕さいなん、わざはひ

やく〔約〕ちぎり、やくそく
やく〔譯〕ほんやく
やく〔焚・燒〕火にもやす ○焚灼燔灼燒灼燬燒
やく〔炙〕「あぶる（炙）」を見よ
やぐ〔夜具〕かいまきの類
やくかい〔厄介〕せわ、めんだう
やくかい〔譯解〕やくしてときあかすこと
やくき〔躍起〕はねおくること
やくぎ〔役儀〕つとめ
やくぎ〔譯義〕いみをやくすこと
やくざい〔藥劑〕くすり「——師」
やくし〔藥師〕佛の名
やくじ〔藥餌〕くすりになるもの
やくしや〔役者〕芝居をなどる人○俳優
やくしゆ〔扼取〕おさへとること
やくじゆつ〔譯述〕譯してのぶること
やくしよ〔役所〕つかさ ○公衙官衙官廳官府
やくじよ〔躍如〕をどりはねるさま
やくしん〔躍進〕をどりすゝむこと
やくせい〔約省〕つゞめはぶくこと

やくせい〔約誓〕やくそくすること
やくせき〔藥石〕くすり
やくせつ〔譯說〕やくして說くこと
やくそう〔躍走〕をどりはしること
やくそく〔約束〕ちぎり
やくそく〔扼塞〕ふさぐこと
やくだく〔約諾〕しようちすること
やくぢ〔扼持〕おさへてたもつこと
やくぢやう〔約定〕やくそく
やくてう〔躍跳〕をどりはぬること
やくどく〔譯讀〕外國語をやくしてよむこと
やくなん〔厄難〕わざはひ
やくにん〔役人〕役ある人 ○有司官人吏人官員官吏
やくびやう〔疫病〕はやり病○瘟疫疫癘疫疾時疫
やくみ〔藥味〕食物の香料
やぐら〔櫓〕ものみやぐら○望樓戍樓
やくれう〔藥療〕くすりにて療治すること
やくろう〔藥籠〕くすりばこ
やくわん〔扼腕〕うでをとりしばること「切齒——」

やくわん〔藥鑵〕湯をわかす具
やくゐん〔役員〕やくにん
やけど〔火傷〕火又熱湯にてたゞれたる所○火傷（火のやけど）＝湯傷（湯のやけど）
やげん〔藥研〕くすりをくだく具
やとう〔夜攻〕ようち
やさい〔野菜〕あをもの○疏菜
やさし〔優〕㊀みやびたり○優美優麗㊁「おとなし」を見よ
やし〔野史〕一箇人の私に作れる歷史
やし〔椰子〕木の名
やしき〔屋敷〕家のかまへの內○居邸居第邸舍邸第邸宅
やしなふ〔養〕おほし立つ○育養鞠養愛養撫養抱養哺養（子供を養ふ）＝牧養飼養畜養豢養（鳥獸を養ふ）＝培養滋養涵養（草木を養ふ）＝保養養生攝養攝生加養加餐利養（吾が身を養ふ）
やしふ〔夜襲〕よるおそひうつこと
やしや〔夜叉〕あしき鬼

やしよく〔夜色〕夜のけしき
やしよく〔野色〕野のけしき
やじり〔鏃〕矢の根
やしろ〔社〕神をまつる處○神社神祠神殿
やしん〔野心〕道ならぬ心
やじん〔野人〕ゐなかもの
やす〔瘦・瘠〕瘦は身がほそる意、瘠はやせつかるゝ意○羸瘦瘠瘦衰瘦疲瘦枯瘦瘦羸＝磽瘠磽确（土地がやす）
やすし〔安〕やすらかなること○安康安靖安靜安逸安綏安寧安泰安穩綏安綏泰寧安平安無事＝晏然晏如（やすきさま）
やすし〔易〕やさしきこと○容易簡易易易
やすね〔安直〕ひくき價○廉價低價低廉
やすみ〔休〕「やすむ（休）」を見よ
やすむ〔休〕いこふ○偃息休息休憩
やすらか〔安〕「やすし（安）」を見よ
やすり〔鑢〕鋸の目を立つるもの

やすんず〔安〕安くなす○安心安堵安意（心を安んず）
やせい〔野生〕野ばえ
やせつ〔野拙〕いやしきこと
やせん〔野戰〕のいくさ
やぜん〔夜前〕よべ
やたけに〔彌猛〕いさみ〳〵て「心は――にはやる」
やたて〔矢立〕腰にはさむ墨入
やちよ〔野猪〕獸の名
やつか〔矢束〕矢のつか
やつき〔躍起〕せきこむこと
やつこ〔奴〕しもべ
やつす〔窶〕形を粗末になす○俏扮微服（姿をやつす）
やつばら〔奴原〕人をのゝしる語
やつる〔窶〕見るかげもなく衰ふ○憔悴枯槁
やど〔宿〕㊀すみか㊁「やどや（宿屋）」を見よ
やどす〔宿〕「やどる（宿）」を見よ
やとひにん〔雇人〕雇ひたる人○雇人傭夫

やとふ〔雇・傭〕たのみて使ふ○雇傭傭役雇役
やどや〔宿屋〕旅やどりの家、はたごや○旅宿旅館旅舍旅寓旅店驛舍驛舘驛亭客舍客亭客舘宿舘宿舍逆旅
やどり〔宿〕「やどや（宿屋）」を見よ
やどる〔宿〕夜とまる○宿泊止宿投宿寄宿
やな〔梁〕魚を捕ふる場
やなぎ〔柳〕木の名○楊柳
やなぐひ〔胡籙〕矢をもる具
やに〔脂〕樹木の皮より出づる粘液
やには〔矢場〕たちどころに「――に射殺さる」
やね〔屋根〕家のおほひ
やはぎ〔矢矧〕矢をつくる人
やはず〔矢筈〕矢のはず
やはら〔柔術〕素手にて人を捕ふる術
やはらか〔柔〕かたからぬこと○柔軟柔嫩軟弱
やはらかし〔柔〕「やはらか（柔）」を見よ

やはらぐ〔和〕㊀人心がおだやかになる○和睦和穆和諧＝㊁ほどよくなる○和熟調和
やばん〔野蠻〕ひらけぬこと
やひ〔野鄙〕いやしきこと
やひん〔野品〕いやしきしな
やぶ〔藪〕雑草のしげる所
やぶさか〔吝〕けち○吝嗇鄙吝慳吝慳貪
やぶる〔破〕こはす、くだく○破壞破潰破損破毀破滅破碎摧破
やぶる〔敗〕物事が成らず○損敗退敗敗散敗殘頽敗朽敗弊敗
やぶる〔壞〕みだれくづる○壞潰壞決壞頽壞敗壞崩壞滅壞裂壞爛廢壞敗壞殘壞弊壞朽壞
やへ〔八重〕いくへにも重ること○重疊重複
やま〔山〕陸の高き處○山嶽山巒峯巒＝峻嶺喬嶽峭嶽絶峯危峯（高くけはしき山）

やまがつ〔山賤〕山ずみのいやしき人
やまがら〔山雀〕鳥の名
やまし〔疚〕苦にやむこと
やまぢ〔山路〕やまみち○山徑山路
やまひ〔疾・病・痾〕なやみわづらふこと〔痾は病の深く根に入りたるもの〕○病氣病症疾病恙病疾疫疾癘二竪＝痼疾宿痾（ぢびやうの病）
やまぶき〔山吹〕花の名
やまぶし〔山伏〕修驗者のこと
やみ〔闇〕夜のくらきこと ○闇冥闇晦闇黑晦冥晦闇
やみうち〔闇打〕闇にまぎれて人を殺すこと○暗殺暗刺
やみぢ〔闇路〕くらきみち
やむ〔病・疾・痾〕「やまひ(病・疾・痾)」を見よ
やむ〔止〕「とゞまる(止)」を見よ
やむ〔已〕をはる「死して後—む」
やむ〔歇〕とぎる「雨少しく—む」
やむ〔罷〕なし果つ「官を—む」
やむ〔病〕「なやむ(惱)」を見よ
やもめ〔孀〕夫なき女○寡婦孀婦嫠婦

やもり〔守宮〕蟲の名
やもを〔鰥〕妻なき男○鰥夫
やや〔稍〕やう〱「雨—やむ」
やよひ〔彌生〕三月のこと
やらい〔夜來〕よべより「——の雨」
やらい〔柵〕らち、さく
やり〔槍・鎗〕武器の名
やる〔行〕前へすゝむ、行かす「舟を—る」
やる〔遣〕おくる、つかはす「使を—る」○差遣發遣派遣

ゆ

ゆ〔湯〕あたゝかき水○溫湯(ぬるま湯)＝熱湯(あつき湯)＝沸湯(にえ湯)＝白湯(しら湯)
ゆあみ〔湯浴〕湯に身を入るゝこと○入湯入浴湯沐沐浴
ゆいつ〔愉逸〕たのしくやすらかなること
ゆいつ〔逾溢〕こえあふるゝこと
ゆう〔勇〕いさましきこと
ゆうかい〔融解〕ゆるくとくること

ゆうがう〔勇剛〕勇ましくつよきこと
ゆうがう〔雄豪〕つよく猛々しきこと
ゆうかん〔勇敢〕極めて勇ましきこと
ゆうかん〔勇悍〕たけく勇ましきこと
ゆうき〔雄毅〕いさましくつよきこと
ゆうき〔勇氣〕いさましき氣性
ゆうくわ〔融和〕とけあふこと
ゆうけん〔雄健・勇健〕いさましくすこやかなること
ゆうさう〔勇壯〕いさましくさかんなること
ゆうし〔勇士〕ますらを
ゆうし〔雄視〕勢をはること
ゆうしゆん〔雄俊〕いさましくすぐれたること
ゆうずゐ〔雄蘂〕花のをしべ
ゆうせん〔勇戰〕勇ましく戰ふこと
ゆうたい〔勇退〕いさみてしりぞくこと
ゆうだい〔雄大〕おほいなること
ゆうだん〔勇斷〕勇しく決斷すること
ゆうちん〔雄鎭〕大藩のこと
ゆうづう〔融通〕やりくり
ゆうと〔雄圖〕大いなる志

ゆうとう〔勇鬪〕いさましくたゝかふこと
ゆうひ〔雄飛〕いさましきしわざをすること
ゆうぶ〔勇武〕勇ましくたけきこと
ゆうふく〔裕福〕富みてゆたかなること
ゆうふん〔勇憤〕たけくいきどほること
ゆうべん〔雄辯〕じやうずの辯舌
ゆうまう〔勇猛〕いさましくたけきこと
ゆうゆう〔融融〕のどかなる貌「春光——」
ゆうりやく〔雄略〕いさましきはかりごと
ゆうゐ〔雄偉〕心のたくましきこと
ゆうゐ〔勇威〕いさましきゐせい
ゆえい〔輸贏〕かちまけ
ゆえん〔由緣〕ゆかり
ゆえん〔油烟〕あかりの油の烟
ゆか〔床〕「とこ(床)」を見よ
ゆかし〔懷〕「したはし(慕)」を見よ
ゆがむ〔歪〕まがりひづむ
ゆかり〔緣〕よるべ、えん○由緣因緣
ゆき〔雪〕天よりふるゆき○六花
ゆき〔裄〕衣の脊ぬひより袖口までの長さ
ゆぎ〔靫〕矢をもる器
ゆきき〔往來〕ゆくとくること○往復往返

往來

ゆきとどく〔行屆〕ゆきわたる○周到周密周徧普及

ゆく〔行〕「あるく(歩)」を見よ

ゆく〔往〕㊀さきを目ざしてゆく㊁すぎさる

ゆく〔逝〕死にゆく○逝去長逝永逝逝徂

ゆくさき〔行先〕ゆくすゑ○前途前程前路

ゆくへ〔行方〕「ゆくさき(行先)」を見よ

ゆくわい〔愉快〕おもしろきこと

ゆくわん〔湯灌〕死體にゆあみせさすること

ゆげつ〔踰月〕つきをこゆること

ゆげん〔諛言〕へつらひことは

ゆこく〔諭告〕さとしつぐること

ゆさん〔遊山〕あそび

ゆじ〔諛辭〕へつらひことば

ゆしゆつ〔輸出〕國産を外國に送り出すこと

ゆず〔柚子〕菓物の名

ゆする〔搖〕「ゆる(搖)」を見よ

ゆそう〔輸送〕荷をおくること

ゆたか〔豐・饒〕みち足らふこと○豐饒豐富豐衍

ゆたか〔寛・裕〕ゆるやかなること○寛裕優裕

ゆたつ〔諭達〕さとし達すること

ゆだぬ〔委〕まかす○委任委囑委託囑託

ゆだん〔油斷〕心のゆるみ

ゆち〔癒治〕病のなほること

ゆづ〔煠〕湯の中に入れて暫し漬ること

ゆづる〔讓〕己を捨てゝ他にさづく○讓歩退讓推讓遜讓揖讓謙讓＝讓與(ゆづりあたふ)

ゆにふ〔輸入〕外國品をかひ入るゝこと

ゆねい〔諛佞〕こびへつらふこと

ゆび〔指〕手足のゆび

ゆびさす〔指〕さし示す○指點指示

ゆひなふ〔結納〕結婚のしるしのいひいれ○結采納幣

ゆふ〔結〕「むすぶ(結)」を見よ

ゆふ〔夕〕「ゆふがた(夕方)」を見よ

ゆふがた〔夕方〕日の入り方○晩景晩刻晩暮晡時黄昏

ゆふがほ〔夕顔〕草の名

ゆふぐれ〔夕暮〕「ゆふがた(夕方)」を見よ

ゆふこく〔夕刻〕「ゆふがた(夕方)」を見よ

ゆふだち〔夕立〕にはか雨○白雨驟雨急雨

ゆふばえ〔夕映〕夕日の光にうつること

ゆふひ〔夕日〕くれがたの日○夕陽夕暉夕曛夕日落暉落日落陽落照殘輝斜陽斜暉晩照晩輝

ゆふやけ〔夕燒〕夕日の光に赤く見ゆる霞○晩霞反照

ゆみ〔弓〕武器の名

ゆめ〔夢〕ねむりの中の物思ひ

ゆらい〔由來〕ことのおこり

ゆり〔百合〕草の名

ゆる〔搖〕ふるひうごく○動搖搖蕩撼動撼蕩震撼搖撼

ゆるがす〔搖〕「ゆるぐ(搖)」を見よ

ゆるかせ〔忽〕おろそか○忽諸

ゆるし〔緩・寛〕ゆるやかなり○遲緩緩慢緩舒緩徐＝緩々寛々遲々(ゆるきさま)

ゆるす〔縱〕氣まゝにせさす

ゆるす〔免・宥〕いましめをとく○宥恕優恕宥免寛容寛恕寛宥寛免寛假

ゆるす〔許・允・容〕よしとしてゆるす○允許免許允容許容

ゆるす〔赦〕罪をゆるす○赦免容赦赦宥

ゆるす〔聽・可〕きゝすむ○允可印可許可聽許聽容

ゆるぶ〔弛〕「ゆるむ(弛)」を見よ

ゆるむ〔弛〕ゆるくなる○解弛弛廢

ゆるやか〔緩・寛〕「ゆろし(緩・寛)」を見よ

ゆわう〔硫黄〕礦物の名

ゆゐいつ〔唯一〕たゞひとつなること「――神道」

ゆゐかい〔遺戒〕いひのこしゝいましめ

ゆゐごん〔遺言〕いひのこしゝことば

ゆゐしよ〔由緒〕いはれ

ゆゐしんろん〔唯心論〕心の外に物なしといふ論

ゆゐぶつろん〔唯物論〕物の外に何もなしと

いふ論
ゆゑ〔故〕わけ、よし
ゆゑつ〔逾越〕のりこゆること
ゆゑん〔所以〕わけがら

よ

よ〔世〕よのなか○浮世(フセイ)塵世(ヂンセイ)幻世(ゲンセイ)(この世の中)‖末世(マッセイ)季世(キセイ)澆世(ゲウセイ)(おとろへたる世)‖聖世(セイセイ)盛世(セイセイ)清世(セイセイ)治世(チセイ)(をさまれる世)‖前世(ゼンセイ)往世(ワウセイ)(前の世)‖現世(ゲンセイ)當世(タウセイ)(今の世)‖後世(コウセイ)來世(ライセイ)(後の世)
よ〔代〕入りかはる間「父の―」
よ〔夜〕「よる(夜)」を見よ
よ〔余・予〕われ
よ〔餘〕あまり
よあう〔餘殃〕のこれるわざはひ
よあかし〔夜明〕夜をおきあかすこと○徹明(テツメイ)徹晨(テッシン)徹夜(テッヤ)徹宵(テッセウ)通夜(ツウヤ)窮夜(キユウヤ)
よあけ〔夜明〕「あけがた(明方)」を見よ
よいん〔餘音〕おとのあとにのこるひゞき
よう〔癰〕病の名

ようい〔用意〕こゝろがけ
ようい〔容易〕たやすきこと
ようかい〔溶解〕水にとくること
ようかい〔鎔解〕金のとろくること
ようがん〔容顏〕かほかたち
ようき〔庸器〕なみ〳〵の器量
ようぎ〔容儀〕なりかたち
ようくわ〔溶化〕とろくること
ようくわい〔容喙〕さし出口をきくこと
ようご〔擁護〕たすけまもること
ようざう〔鎔造〕とろかしてつくること
ようし〔擁止〕おしとゞむること
ようし〔傭使〕やとひめしつかふこと
ようし〔容姿〕すがた
ようし〔容止〕身のこなし
ようじ〔用事〕ようむき
ようしや〔用捨〕もちゐるとすつると
ようしや〔容捨〕ゆるすこと
ようしゆつ〔涌出〕わきいづること
ようしよく〔容色〕かほいろ
ようじん〔庸人〕なみの人
ようせい〔擁擠〕多人數がおしあふこと

ようせき〔容積〕もの丶かさ
ようぜん〔溶然〕ゆるやかなる貌
ようそく〔壅塞〕ふさぐこと
ようたい〔容態〕ありさま
ようだい〔容體〕なりかたち
ようぢ〔擁持〕だきかゝへもつこと
ようちつ〔壅窒〕ふさぐこと
ようちゆう〔鎔鑄〕金をとかしいること
ようちよう〔膺懲〕うちこらすこと
ようと〔用途〕つかひみち
ようど〔用度〕いりめ
ようとう〔踊騰〕をどりあがること
ようにん〔孕妊〕子をはらむこと
ようはう〔擁抱〕かゝへいだくこと
ようばう〔容貌〕みめかたち
ようふ〔傭夫〕やとひ人
ようふ〔庸夫〕なみのもの
ようへい〔傭聘〕まねきやとふこと
ようへい〔壅閉・壅蔽〕ふさぐこと
ようべん・〔用辨〕用のたること
ようふん〔容吻〕くちばしをいるゝこと
ようやう〔鷹揚〕たかのごとくまひあがること
ようやく〔踊躍〕をどりあがること
ようよう〔溶溶〕水のながるゝさま
ようりつ〔擁立〕たすけたつること
ようれつ〔庸劣〕すぐれてをらぬこと
ようん〔餘蘊〕のこり
よえい〔餘裔〕すゑの子孫
よえい〔餘榮〕のこれるさかえ
よえい〔餘贏〕このり
よえん〔餘炎〕のこれるほのほ
よえん〔餘烟〕のこれるけむり
よか〔餘暇〕ひま
よか〔豫假〕見つもりれだん
よかう〔餘香〕のこれるにほひ
よかん〔餘閑〕ひま
よかん〔餘寒〕のこれるさむさ
よき〔豫期〕あらかじめ定めまつこと
よぎ〔夜著〕夜の寐具
よきやう〔餘響〕のこれるひゞき
よきよう〔餘興〕のこれるなぐさみ
よぎる〔過〕「すぐ(過)」を見よ
よく〔浴〕ゆあみ

よく〔欲・慾〕むさぼるこゝろ ○暴慾强慾極慾（はげしき欲）
よく〔翌〕つぐ日「―日、―朝」
よく〔避〕「さく（避）」を見よ
よくあつ〔抑壓〕おさふること
よくうつ〔抑鬱〕むれのふさがること
よくくわん〔浴灌〕水をそゝぎかくること
よくさん〔翼贊〕たすくること
よくし〔抑止〕おさへとゞむること
よくしや〔弋射〕いてとること
よくじやう〔欲情〕よくばりの情
よくしん〔欲心〕よくばりの心
よくせい〔抑制〕おさへつくること
よくせい〔翼成〕たすけしあぐること
よくぜう〔沃饒〕土地がゆたかにこゆること
よくぜん〔翼然〕そろひたるさま
よくそく〔抑塞〕おさへふさぐこと
よくそん〔抑損〕おさへひかふること
よくたい〔翼戴〕たすけいたゞくこと
よくど〔沃土〕こえたる土地
よくばう〔欲望〕よくののぞみ
よくばる〔慾張〕「むさぼる（貪）」を見よ

よくほ〔翼輔〕たすくること
よくや〔沃野〕こえたる野はら
よくやう〔抑揚〕文章の筆勢のあげさげ
よくよく〔抑抑〕つゝしむ貌
よくよく〔沃沃〕うるはしきさま
よくよく〔翼翼〕とゝのふさま
よくりう〔抑留〕おさへとゞむること
よくれふ〔弋獵〕射てかりとること
よくわう〔餘光〕のこれる光
よけい〔餘慶〕のこれるよろこび
よけい〔餘計〕あまり
よげつ〔餘孽〕のこりのものども
よげん〔豫言〕あらかじめ未來のことをいふこと
よこ〔横〕左右への線
よこ〔緯〕織物のよこいと
よこく〔與國〕なかまの國
よこしま〔邪〕正しからぬこと○非道横道横逆姦曲邪曲姦邪邪僻
よごす〔汚〕「けがす（汚）」を見よ
よこたはる〔横〕よこになる「―る山」
よこたふ〔横〕よこになす「劍を―ふ」

よこどり〔横取〕わきよりとること○横奪横領
よごる〔汚〕「けがる（汚）」を見よ
よごれ〔汚〕「けがれ（汚）」を見よ
よさう〔豫想〕あらかじめの想像
よさつ〔豫察〕あらかじめ察すること
よさん〔餘蠶〕くひのこり
よさん〔豫算〕あらかじめの計算
よし〔由〕わけ、いはれ
よし〔葦・蘆〕草の名
よし〔餘資〕あまれる資金
よし〔輿子〕かごかき
よし〔可〕ゆるすこと
よし〔善・良〕正しきこと「―き人」○善良
よし〔吉・嘉〕めでたきこと「―き夢」
よし〔好・佳〕うるはしきこと「―き品」
よじ〔餘事〕ほかごと
よじつ〔餘日〕ほかの日
よしふ〔豫習〕あらかじめならふこと
よしふ〔餘習〕のこれるくせ
よしみ〔好〕交のしたしみ○情好情交情誼情義友誼交誼

よじやう〔餘情〕詩文などの文字以外にのこれるこゝろ
よじよう〔輿乘〕天子ののりもの
よしん〔豫審〕あらかじめのしらべ
よじん〔餘人〕ほかのひと
よじん〔餘燼〕もえのこり
よす〔寄〕引きちかづく
よすが〔緣〕ゆかり、たより
よせい〔餘生〕あまれるいのち
よぜう〔餘饒〕あまりあること
よせん〔餘喘〕のこれるいき
よそ〔餘所〕ほかのところ
よそく〔餘息〕のこれるいき
よそほふ〔裝〕かざりとゝのふ○扮裝裝飾
よたう〔餘黨〕のこりのなかま
よたく〔餘澤〕のこりのなさけ
よだつ〔與奪〕あたふるとうばふと
よだれ〔涎〕口よりたるゝ水○垂涎口涎
よち〔與知・預知〕あづかりしること
よち〔餘地〕あまりの地
よち〔輿地〕全世界のこと

よち〔豫知〕あらかじめ知ること
よぢる〔捩〕ひれる、ねぢる
よづ〔攀〕すがりつく○攀援
よつぎ〔世繼〕「あとつぎ(後繼)」を見よ
よてい〔豫定〕あらかじめの定
よど〔淀〕水のよどむところ
よとく〔餘德〕のこれるいさを
よとく〔餘得〕よぶんのまうけ
よどみ〔澱〕㊀しぶりとゞこふること○澁滯 遲滯 ㊁水のよどみ
よどむ〔澱〕「よどみ(澱)」を見よ
よなん〔餘難〕のこれるさいなん
よにん〔餘人〕ほかのひと
よねつ〔餘熱〕のこれるねつ
よねん〔餘念〕ほかのおもひ
よねん〔餘年〕のこれるとし
よのなか〔世中〕○海內 海宇 江湖 社會 世上 世間
よは〔夜半〕よる
よは〔餘波〕なごり
よはう〔豫報〕あらかじめのしらせ
よばう〔輿望〕天下のほまれ

よばう〔聲望〕ほまれ、人望
よばう〔豫防〕あらかじめふせぐこと
よはく〔餘白〕文字をかきたる紙のあまり
よはひ〔齡〕とし○年齡 年齒 年算‖高齡 遐齡 耄齡(年高き齡)‖妙齡 弱齡 幼齡(をさなき齡)
よひ〔宵〕夜中まへ○初更
よびやう〔豫備〕あらかじめのそなへ
よびやう〔餘病〕ほかのやまひ
よびよす〔呼寄〕「めす(召)」を見よ
よぶ〔呼・喚〕聲立てゝよばゝる○喚呼 呼叫
よふけ〔夜更〕夜の深くなりし時○深更 深夜 夜更 夜闌
よぶん〔餘分〕あまり
よぶん〔聲聞〕ほまれ
よぼう〔輿謀〕はかりごとにくみすること
よほど〔餘程〕だいぶん○大半
よみがへる〔蘇〕いきかへる○蘇生 蘇息 復活 再生
よみす〔嘉〕よしとしてほむ○嘉賞
よみぢ〔黃泉〕「めいど(冥土)」を見よ

よむ〔讀〕口にとなふ○誦讀 講讀‖熟讀 細讀(こまかによむ)‖朗讀(聲を立てゝよむ)
よむ〔詠〕詩歌をつくる○吟詠
よめ〔嫁〕息男の妻
よめい〔餘命〕のこれるいのち
よもぎ〔艾〕草の名
よもぎ〔蓬〕うたよもぎ(草の名)
よもすがら〔終夜〕夜どほし
よやく〔豫約〕あらかじめのやくそく
よゆう〔餘裕〕あまり
よよ〔代代・世世〕だい〳〵○奕葉 累葉 累世 累代 歷世 歷代
よりあふ〔寄合〕集りあふ○會合 會同 集會
よりう〔餘流〕あまりのながれ
よりき〔與力〕力をそふること
よりどころ〔據〕もとづく處○憑據
よりよく〔餘力〕あまれる力
よる〔夜〕○夜陰 夜中 夜分‖烏夜 暗夜 晦夜(やみの夜)
よる〔因・緣〕もとづく○歸因 緣由

よる〔依・倚・憑・凭〕よりそふ(憑・凭はもたれかゝる意)○憑依 倚賴 依歸
よる〔寄〕近づく○接近 隣接
よる〔據〕たのみとなし居る「城に―る」○割據(わかれ〳〵に一方による)
よる〔縒〕ねぢあはす「糸を―る」
よるゐ〔餘類〕のこれるなかま
よれつ〔餘烈〕のこれるいさを
よろこび〔喜〕「よろこぶ(喜・悅)」を見よ
よろこび〔慶〕めでたきこと○吉慶 慶賀 祝著
よろこぶ〔喜・悅〕うれしく思ふ(悅は中心にて樂む意)○欣喜 歡喜 歡悅 怡悅 欣悅 喜悅 悅樂 歡樂 欣抃 抃喜 抃舞 雀躍‖欣然 怡然 驩然 欣々 怡々(よろこぶさま)
よろし〔宜〕よし
よろづ〔萬〕すべて○萬般 萬端 萬事
よろひ〔鎧〕戰に著る衣 ○鐵衣 戎衣 介 甲介 介冑
よろめく よろつく○蹌踉 蹣跚
よろん〔輿論〕天下の公論

よわし〔弱〕つよからず○尫羸(ワウルヰ)尫弱(ワウジャク)羸弱(ルヰジャク)虚弱(キヨジャク)孱弱(センジャク)脆弱(ゼイジャク)軟弱(ナンジャク)柔弱(ジウジャク)薄弱(ハクジャク)微弱(ビジャク)

よわたり〔世渡〕口すぎ○渡世(トセイ)營世(エイセイ)生計(セイケイ)生活(セイクワツ)活計(クワツケイ)

よわむ〔弱〕㊀「よわし（弱）」を見よ㊁「よわる（弱）」を見よ

よわる〔弱〕よわくなる○衰弱(スヰジャク)疲弱(ヒジャク)疲弊(ヒヘイ)

よゐん〔餘韻〕あまれるひゞき

ら

ら〔羅〕うすもの（絹の）「―の表紙」

らい〔雷〕かみなり

らいい〔來意〕先方よりいひ來りし意

らいう〔雷雨〕雷なり雨ふること

らいえつ〔來謁〕來りまみゆること

らいが〔來駕〕來り訪ふことの敬語

らいかう〔來航〕船にて來ること

らいがう〔來迎〕佛の靈のあらはるゝこと

らいきやく〔來客〕來る客

らいくわい〔來會〕來り會すること

らいくわう〔雷光〕いなづま

らいぐわう〔雷轟〕かみなりのこゑ

らいこう〔雷公〕かみなり

らいこう〔來貢〕來朝して貢を奉ること

らいし〔耒耜〕農具のこと

らいしや〔來車〕來り訪ふことの敬語

らいじやう〔來狀〕送り來る書狀

らいしん〔來信〕音信の來ること

らいせ〔來世〕未來の世

らいだん〔來談〕來てかたること

らいちやく〔來著〕きつくこと

らいてい〔雷霆〕かみなり

らいてう〔來朝〕外人の入朝すること

らいでん〔雷電〕かみなりといなづま

らいどう〔雷同〕みだりに一致すること

らいどう〔雷動〕なりうごかすこと

らいはう〔來訪〕來りたづぬること

らいびやう〔癩病〕病の名

らいひん〔來賓〕來る客人

らいへい〔來聘〕外人の入朝すること

らいめい〔雷鳴〕かみなりのなりひゞくこと

らいめい〔雷名〕世にひゞき渡る名

らいやう〔來陽〕來春のこと

らいゆ〔來由〕物事のなり來る次第

らいゆ〔來諭〕來狀にてのさとし

らいらく〔磊落〕細かき事にかゝはらぬこと

らいりん〔來臨〕來ることの敬語

らいれき〔來歷〕物事のなり來る次第

らいゑん〔來援〕來りたすくること

らう〔廊〕ほそどの「―下、廻―」

らう〔牢〕罪人を入るゝひとや

らう〔勞〕ほねなり「―を厭ふ」

らう〔老〕としより「―を養ふ」

らうう〔老嫗〕はゞ

らうあう〔老媼〕ばゞ

らういう〔浪遊〕のらくらあそび

らうえい〔朗詠〕古のうたひものゝ名

らうえう〔老幼〕老人と幼者

らうえき〔勞役〕骨をり仕事

らうえん〔狼烟〕のろし

らうがい〔勞咳〕病の名

らうかん〔琅玕〕寶石の名

らうがん〔老眼〕としよりの眼

らうき〔撈起〕ひきおこすこと

らうきう〔老朽〕年とりてやくに立たぬこと

らうきう〔撈救〕ひきあげすくふこと

らうく〔勞苦〕ほねをり

らうくつ〔老屈〕としとりておとろへたること

らうくわ〔狼火〕のろし

らうくん〔郎君〕婦人より男子をよぶ稱

らうげき〔浪擊〕やたらにうつこと

らうげつ〔朗月〕ほがらかなる月

らうこ〔牢固〕かたきこと

らうご〔浪語〕むだくち

らうこう〔老功〕年の功

らうごく〔牢獄〕ひとや

らうさう〔踉蹌〕よろめくこと

らうし〔浪士〕定まりたる主なくさまよふ士

らうじつ〔老實〕まめやか

らうしや〔牢舍〕らうや

らうしやう〔癆症〕病の名

らうじやく〔老若〕としよりとわかもの

らうしゆ〔老手〕てなれたる人

らうじゆ〔老儒〕としよりの學者

らうじゆう〔郞從〕けらい
らうじゆく〔老熟〕ものなれたること
らうしん〔勞心〕氣をもむこと
らうじん〔老人〕おいたる人
らうす〔勞〕ほねをゝる
らうすゐ〔老衰〕おいておとろふること
らうせい〔老成〕おとなぶること
らうせい〔牢晴〕よくはれたる天氣
らうせう〔老少〕としよりとこども
らうせき〔狼藉〕とりみだすこと「杯盤——」
らうせつ〔浪說〕うはさ
らうだう〔郞黨〕けらい
らうてう〔踉跳〕をどりあがること
らうてつ〔老耋〕おいぼれ
らうてつ〔朗徹〕すきとほること
らうてん〔朗天〕ほがらかなる天
らうでん〔浪傳〕うはさ
らうどう〔郞等〕けらい
らうどう〔勞動〕はたらくこと
らうとく〔撈得〕かきさがしてうること
らうどく〔朗讀〕よみあぐること
らうにん〔浪人〕さまよふ人

らうば〔老婆〕ばゞ
らうはい〔老廢〕おいてやくに立たぬこと
らうはい〔勞憊〕つかるゝこと
らうばい〔老憊〕おいぼるゝこと
らうばい〔狼狽〕・あわてさわぐこと「周章——」
らうばしん〔老婆心〕しんせつに過ぐる心
らうはん〔勞煩〕わづらはしきこと
らうひ〔浪費〕むだづかひ
らうびやう〔老病〕おいたる病
らうほ〔老舖〕ふるきみせ
らうまい〔粮米〕かて
らうまう〔老耄〕おいぼれ
らうめい〔朗明〕あきらかなること「月色——」
らうや〔牢屋〕罪人をおく處○牢獄(ラウゴク)獄舍(ゴクシヤ)囚獄(シウゴク)囹圄(レイゴ)囹圉(レイギヨ)
らうや〔老爺〕おやぢ、ぢゞ
らうらう〔浪浪〕さまよふさま「——の身」
らうらう〔朗朗〕ほがらかなる貌
らうらく〔牢落〕おちぶるゝこと
らうりよく〔勞力〕ほねをり

らうるゐ〔老羸〕おいてよわること
らうれい〔狼戾〕心のねぢけたること
らうれん〔老練〕よくなるゝこと
らうろう〔牢籠〕くるしみこまること
らうゑん〔撈援〕ひきあげすくふこと
らうをう〔老翁〕おきな
らかん〔羅漢〕佛の名
らき〔邏騎〕みはりの騎兵
らく〔樂〕やすらかなること
らく〔洛〕みやこ
らくいん〔落胤〕おとしだね
らくえき〔絡繹〕つらなりつゞくこと「車馬——」
らくえふ〔落葉〕おちば
らくがき・〔落書〕いたづらがき
らくき〔落暉〕入り日
らくきよ〔落居〕おちつき
らくきん〔絡緊〕しばりしむること
らくぐわい〔洛外〕みやこのそと
らくくわん〔落款〕書畫にしるす筆者の名
らくご〔落語〕おとしばなし
らくご〔樂娛〕たのしみ

らくこん〔落魂〕おちぶるゝこと
らくさう〔落想〕おもひつき「——非凡」
らくさつ〔落札〕入札の吾手に落つること
らくしつ〔落失〕おとしなくすこと
らくじつ〔落日〕いり日
らくしやう〔落掌〕手に入るゝこと
らくじやう〔落城〕城がおつること
らくしゆ〔落手〕手に入るゝこと
らくしゆ〔落首〕落書のうた
らくしよ〔落書〕いたづらがき
らくしよく〔落飾〕髮をそりて佛門に入ること
らくせい〔落成〕できあがること
らくせう〔落照〕入日のかげ
らくだ〔駱駝〕獸の名
らくだい〔落第〕試驗にはづるゝこと
らくだつ〔落脫〕ぬけおつること
らくたん〔落膽〕力をおとすこと
らくちやく〔落著〕おちつくこと
らくつゐ〔落墜〕おつること
らくてん〔樂天〕天命をたのしむこと
らくど〔樂土〕たのしき土地

らくば〔落馬〕馬よりおつること
らくはく〔落魄〕おちぶるゝこと
らくはく〔落剝〕表皮などのはげおつること
らくばく〔落莫〕さびしきこと
らくばく〔絡縛〕しばること
らくはつ〔落髮〕髮をそりおとすこと
らくめい〔落命〕死ぬること
らくやう〔落陽〕入り日
らくらい〔落來〕おちきたること
らくるゐ〔落淚〕なみだのおつること
らくゑん〔樂園〕たのしきその
らしや〔羅紗〕織物の名
らじやう〔羅城〕城のそとぐるわ
らせん〔螺旋〕ねぢ
らせん〔裸跣〕はだかはだし
らそつ〔邏卒〕みはりの卒
らたい〔裸體〕はだか
らち「埒」馬場のさく
らつこ〔獵虎〕獸の名
らつぱ〔喇叭〕樂器の名
らでん〔螺鈿〕あをがひ(器物の面のかざり)
らはい〔羅拜〕つらなり拜すること

らふ〔蠟〕蠟燭を製しその他種々の用あるもの
らふ〔羅布〕ならびしくこと
らふげつ〔臘月〕十二月のこと
らふじつ〔臘日〕おほみそか
らふそく〔蠟燭〕らふにて作りたるあかり
らへい〔邏兵〕みまはりの兵
ららく〔羅絡〕つる草のまとひつくこと
られつ〔羅列〕ゐならぶこと
らん〔亂〕みだれ
らん〔蘭〕草の名
らんい〔襤衣〕やぶれ衣
らんが〔鸞駕〕天皇のみこし
らんかい〔亂階〕みだれのもと
らんかん〔欄干〕てすり
らんぎやう〔亂行〕みだりなるおこなひ
らんぎやく〔亂逆〕むほん
らんくわい〔亂潰〕みだれつひゆること
らんぐわい〔欄外〕しきりのそと
らんくわく〔攬獲〕つかみとること
らんくわん〔濫官〕無用の官
らんぐん〔亂軍〕入りみだれたるいくさ

らんげき〔亂擊〕みだれうち
らんごく〔亂國〕みだれたる國
らんさい〔攬采〕とりあつむること
らんざう〔濫造〕みだりにつくること
らんざつ〔亂雜〕入りみだるゝこと
らんさん〔爛燦〕うるはしくかゞやくさま
らんざん〔巒山〕やま
らんし〔爛死〕たゞれじに
らんしや〔亂射〕矢丸のみだれうち
らんしやう〔濫賞〕みだりにほむること
らんじやう〔濫觴〕おこり、はじまり「武士の——」
らんしゆつ〔濫出〕みだりに出すこと
らんしゆ〔攬取〕つまみとること
らんしよ〔亂書〕みだれがき
らんしよ〔亂緒〕みだるゝもと
らんしよう〔攬勝〕名勝の地をたづぬること「——の樂」
らんしん〔亂心〕みだれごゝろ
らんしん〔亂臣〕國をみだす臣「——賊子」
らんじん〔亂人〕むほん人
らんすゐ〔爛醉〕ゑひどるゝこと

らんせい〔亂世〕みだれたる世
らんせい〔濫政〕みだりなる政
らんせい〔濫製〕みだりにつくること
らんせき〔闌夕〕よふけ
らんぜん〔瀾然〕淚のこぼるゝさま
らんぜん〔爛然〕かゞやくさま
らんそ〔濫訴〕みだりにうつたふること
らんだ〔亂打〕みだれうち
らんだ〔懶惰・嬾惰〕をこたり
らんたふ〔卵塔〕たふば
らんちやう〔爛腸〕思ひをくだくこと
らんにふ〔亂入〕みだれ入ること
らんばう〔亂暴〕あばるゝこと
らんぱう〔亂邦〕みだれたる國
らんぱつ〔亂髮〕みだれがみ
らんぱつ〔亂發〕みだれうち
らんぴ〔濫費〕むだつかひ
らんぴつ〔亂筆〕みだりがき
らんぷ〔襤布〕ぼろ
らんぼく〔亂撲〕みだれてうちあたること「雪花——」
らんま〔亂麻〕入りみだるゝこと「快刀——」

を斷つ」
らんまん〔爛漫〕花のさきみだれたるさま「百花——」
らんみやく〔亂脈〕入りみだれたること
らんや〔闌夜〕よふけ
らんよ〔鸞輿〕天皇の御輿
らんよ〔籃輿〕かご
らんよう〔懶慵〕ものぐさ
らんよう〔濫用〕みだりに用ゐること
らんらん〔爛爛〕ひかりかゞやくさま
らんり〔亂離〕世のみだるゝこと
らんりつ〔亂立〕みだれ立つこと
らんりん〔亂倫〕人倫をみだすこと
らんる〔襤褸〕ぼろ、つゞれ

り

り〔利〕まうけ
り〔里〕みちのり「五—、十—」
り〔理〕ことわり、わけ
りいう〔理由〕わけがら
りう〔流〕りうぎ「小笠原—」
りういん〔留飲〕病の名
りうえう〔柳腰〕やなぎのこし(美人の形容)
りうかう〔流行〕はやり
りうがく〔留學〕外國に行きて學ぶこと
りうかん〔流汗〕ながるゝあせ
りうぎ〔流儀〕諸藝のつたへ
りうぐう〔流寓〕さまよひやどること
りうけい〔流刑〕島流の刑罰
りうげん〔流言〕世間のとりざた
りうさん〔硫酸〕藥の名
りうざん〔流産〕死兒を生むこと
りうざん〔流竄〕島ながし
りうさんだん〔榴散彈〕鐵砲丸の名
りうし〔柳絲〕やなぎのいと
りうし〔流矢〕ながれや
りうしゆつ〔流出〕ながれいづること
りうじよ〔柳絮〕柳の花のわた
りうすゐ〔流水〕ながるゝ水
りうぞく〔流俗〕世のならはし
りうたい〔留滯〕とゞこほること
りうたい〔柳黛〕美人のまゆ
りうたい〔流體〕ながるゝもの

りうだん〔流彈〕ながれだま
りうち〔留置〕とめおくこと
りうちやう〔流暢〕詩文などのすら〱と滯らぬこと
りうちゆう〔流注〕ながしこむこと
りうつう〔流通〕ながれかよふこと
りうてい〔流睇〕ながしめに見ること
りうてい〔流涕〕なみだをながすこと
りうでん〔流傳〕うはさのひろまること
りうどう〔流動〕ながれうごくこと
りうは〔流派〕ながれ、わかれ
りうび〔柳眉〕美人の眉のこと
りうへい〔流弊〕あしきならはし
りうべつ〔留別〕あとに留まる人に別るゝこと
りうみん〔流民〕さまよふ民
りうよう〔流用〕かれこれくりかへ用ゐること
りうらく〔流落〕おちぶるゝこと
りうり〔流離〕さまよふこと「顛沛——」
りうりやう〔瀏喨〕ひゞきのすみわたりたるさま「——たる笛の音」
りうれい〔流例〕しきたり
りうれん〔流連〕あそびつゞけ「——荒亡」
りうろ〔流露〕あらはに見ゆること
りえき〔利益〕まうけ
りえん〔離筵〕わかれの酒もり
りえん〔離縁〕えんきり
りかい〔理解〕道理をわきまふること
りがい〔利害〕利と害と
りかう〔履行〕ふみおこなふこと
りかく〔離隔〕かけへだつること
りかく〔釐革〕あらたむること「弊政を——す」
りかん〔離間〕他の交のなかをさくこと
りき〔利器〕㊀便利のしな㊁するどきはもの
りきし〔力士〕力もち、すまふとり
りきむ〔力〕力をいる
りきゆう〔離宮〕天皇出遊の地に設けられたる宮殿
りきよ〔離居〕はなれてをること
りきりやう〔力量〕力のほど
りく〔陸〕くが「—軍」
りくうん〔陸運〕陸上の運送

りくかう〔陸行〕陸路を行くこと
りくがふ〔六合〕天地四方のあひだ
りくくわ〔六花〕雪のこと
りくせん〔戮戰〕はげしく戰ふこと
りくぞく〔陸續〕ひきつゞくこと
りくちん〔陸沈〕德をかくして世俗にかくるゝこと「巷間に——す」
りくつ〔理窟〕すぢみち
りくぼつ〔陸沒〕德をかくして世俗にかくるゝこと
りくり〔陸離〕㊀きらめくさま「光彩——」㊁いりみだるゝこと
りくりやう〔陸梁〕あれまはること
りくりよく〔戮力〕力をあはすること
りくろ〔陸路〕くがみち
りくわい〔理會〕さとること
りぐん〔離群〕なかまをはづるゝこと
りげん〔俚言〕ゐなかことば
りげん〔俚諺〕いやしきことわざ
りこ〔利己〕己を利すること
りご〔俚語〕ゐなかことば
りこう〔利口〕かしこきこと◯怜悧(レイリ) 利發(リハツ) 才發(サイハツ)
りこん〔離婚〕えんきり
りこん〔利根〕かしこきこゝろ
りさい〔罹災〕さいなんにかゝること
りざい〔理財〕金錢の用をとりしまること
りさう〔理想〕心に完全なりと思ふおもひ
りさん〔離散〕はなれちること「一族——す」
りし〔利子〕貸金より出づるまうけ
りじ〔理事〕事のさばきをなすこと、又はその役
りしう〔離愁〕わかれのなげき
りしやう〔利生〕佛のめぐみ
りじゆん〔利潤〕まうけ
りじよ〔犂鋤〕㊀すき㊁惡草をすきとること
りじん〔里人〕さとびと
りす〔栗鼠〕獸の名
りす〔利〕「まうく(利)」を見よ
りする〔利水〕水の便をよくすること
りせい〔理性〕心に完全なりとおもふ性質
りぜつ〔離絶〕交をたつこと
りそ〔履祚〕天皇の位につくこと
りそく〔利息〕まうけ

りぞく〔俚俗〕ゐなかのならはせ
りそつ〔吏卒〕やくにん
りたう〔利刀〕するどきかたな
りたつ〔利達〕身分のよくなること「高名——」
りちぎ〔律儀〕ぎりをよく守ること
りつ〔律〕おきて
りつあん〔立案〕案を立つること
りつい〔立意〕考へを立つること
りつけん〔立憲〕憲法を定むること「——政體」
りつし〔立志〕志を立つること
りつしよく〔立食〕立ながら食ふこと
りつしん〔立身〕身を立つること
りつする〔立錐〕きりを立つること「——の地なし」
りつぜん〔慄然〕ふるへをのゝくさま
りつぱ〔立派〕きれいなること
りつぷく〔立服〕はらを立つこと
りつぽふ〔立法〕法律をつくること
りつりつ〔慄慄〕ふるへをのゝく貌
りつりよ〔律呂〕音樂のてうし
りつれい〔立禮〕立ちながら禮をなすこと
りつろん〔立論〕論を立つること
りてい〔里程〕みちのり
りとく〔利得〕まうけ
りどん〔利鈍〕するどきとにぶきと
りはつ〔利發〕はつめい
りはつ〔理髮〕かみあげ
りはん〔離叛〕はなれそむくこと
りはん〔籬畔〕まがきのほとり
りひ〔理非〕よしあし
りひ〔俚鄙〕いやしきこと
りびやう〔痢病〕腹くだし
りふぐわん〔立願〕願がけをすること
りふしよく〔粒食〕米を食ふこと
りふじん〔理不盡〕むりむたい、でごみ
りふせつ〔粒雪〕あられ
りふばう〔立坊〕皇太子を立つること
りぶん〔利分〕まうけ
りべつ〔離別〕わかれ
りへん〔籬邊〕まがきのあたり
りみん〔里民〕むらびと
りむ〔吏務〕役人のつとめ

りやう〔領〕もち地
りやう〔量〕かさ
りやう〔糧〕かて「兵―」
りやう〔輛〕車をかぞふる語「馬車一―」
りやう〔兩〕ふたつ「―の秋」
りやう〔利養〕吾身をやしなふこと
りやうあん〔諒闇〕新帝が先帝の喪にをるあひだ
りやうい〔良醫〕よきいしや
りやうい〔涼衣〕ゆかた
りやういう〔良友〕よきとも
りやういう〔領有〕領しもつこと
りやうえん〔良緣〕よきえん
りやうか〔良家〕身分ある家
りやうかう〔良好〕よきこと
りやうがへ〔兩替〕金銀と錢とをかふること
りやうこう〔良工〕よきたくみ
りやうごく〔領國〕もち國
りやうざい〔良材〕よき材
りやうざい〔良劑〕よきくすり
りやうざう〔兩造〕原告と被告と
りやうさく〔良策〕よきはかりごと
りやうさつ〔諒察〕おもひやること
りやうし〔令旨〕親王のおほせ
りやうじ〔良時〕よき日時
りやうじ〔領事〕外國にありて自國人を監する官人
りやうしう〔領袖〕かしらの人
りやうしう〔領收〕うけとること
りやうしやう〔良將〕よき大將
りやうしやう〔糧餉〕かて
りやうしやう〔良相〕よき宰相
りやうしやう〔領掌〕うけとること
りやうしゆ〔領取〕うけとること
りやうじよ〔諒恕〕察してゆるすこと
りやうしよう〔領承〕うけがふこと
りやうしよく〔糧食〕かて
りやうしん〔良心〕善惡を辨ふる本來の心
りやうしん〔良辰〕よき日
りやうしん〔兩親〕ふたおや
りやうじん〔良人〕おつと
りやうす〔領〕㊀我がものとす「一國を―す」㊁しようちす「其旨を―す」
りやうぜつ〔兩舌〕いつはること（表裏二枚

の舌を用ゐる意）
りやうぜん〔兩全〕二つながら全きこと「忠孝―」
りやうぜん〔亮然〕あきらかなるさま
りやうち〔良知〕生れながらのちゑ
りようちう〔良籌〕よきはかりごと
りやうちよく〔諒直〕すなほなること
りやうと〔良圖〕よきはかりごと
りやうとく〔兩得〕二つながらうること「一擧―」
りやうなふ〔領納〕うけをさむること
りやうにく〔粱肉〕うまき食物のこと
りやうのう〔良能〕生れながらの能力「良知―」
りやうばい〔良媒〕よきなかだち
りやうひ〔良否〕よしあし
りやうひつ〔良弼〕よきたすけ「國家の―」
りやうふう〔涼風〕すゞかぜ
りやうぶん〔領分〕もちぶん
りやうぼう〔良謀〕よきはかりごと
りやうまい〔糧米〕かてにする米
りやうみん〔良民〕たゞしき民
りやうめい〔領命〕おほせにしたがふこと
りやうもく〔量目〕はかりめ
りやうや〔良夜〕よきよる
りやうやう〔兩樣〕ふたやう
りやうやく〔良藥〕よきくすり
りやうり〔良吏〕よきやく人
りやうりやう〔兩兩〕二つづゝ「―相對す」
りやうりん〔兩輪〕二つのわ「車の―の如し」
りやく〔利益〕神佛のめぐみ
りやくぎ〔略儀〕はぶきたる儀式
りやくしゆ〔略取〕うばひとること
りやくじゆつ〔略述〕あらましをのぶること
りやくす〔略〕「はぶく(省)」を見よ
りやくだつ〔略奪〕うばひとること
りやくひつ〔略筆〕はぶきてかくこと
りやくりやう〔略掠〕うばひとること
りゆう〔龍〕動物の名
りゆううん〔隆運〕さかんなる運
りゆうか〔龍駕〕天子ののるふれ
りゆうが〔龍駕〕天子ののりもの
りゆうがん〔龍顏〕天子のおかほ

りゆうがん〔龍眼〕木の名「——肉」
りゆうこう〔隆興〕さかんにおこること
りゆうじやうこし〔龍驤虎視〕威勢の盛なる形容
りゆうせい〔隆盛〕さかんなること
りゆうだ〔龍蛇〕龍とへび
りゆうとうだび〔龍頭蛇尾〕事物の始め盛にして末の振はぬ形容
りゆうなう〔龍腦〕藥の名
りゆうばんこきよ〔龍蟠虎踞〕地形の要害よき形容
りゆうりゆう〔隆隆〕さかんなること「名聲——たり」
りゆうろう〔龍樓〕皇太子の居
りよう〔利用〕やくだゝせて用ゐること「廢物——」
りよう〔龍〕「りゆう（龍）」を見よ
りようい〔陵夷〕おとろふること
りようが〔凌駕〕他をしのぎこゆること
りようぎやく〔陵虐〕むりをすること
りようじよく〔陵辱〕しのぎはづかしむること

りようしん〔凌晨〕あけがた
りようち〔陵遲〕おとろふること
りようはん〔凌犯〕しのぎをかすこと
りやうぶ〔陵侮〕しのぎあなどること
りようら〔綾羅〕あやとうすもの
りようりよう〔稜稜〕かど〳〵しきさま「氣骨——」
りようれき〔凌轢〕あらそひあふこと
りようゐ〔稜威〕天子のみいづ
りよえん〔閭閻〕むらざと
りよかう〔閭巷〕むらのちまた
りよかう〔旅行〕たびすること
りよぎん〔旅銀〕たびの費用
りよく〔利慾〕よくばること
りよくいん〔綠蔭〕みどりの木かげ
りよぐう〔旅寓〕やどや
りよくえき〔力役〕ちからしごと
りよくこう〔力工〕ちからわざ
りよくさう〔綠草〕みどりの草
りよくさう〔力爭〕つとめあらそふこと
りよくじゆ〔綠樹〕みどりの木
りよくせん〔力戰〕つとめたゝかふこと

りよくたい〔綠苔〕あをごけ
りよぐわい〔慮外〕おもひのほか
りよくわく〔虜獲〕いけどること
りよくわん〔旅館〕やどや、はたごや
りよこ〔旅賈〕たびあきうど
りよさう〔旅裝〕たびじたく
りよしう〔虜囚〕とりこ
りよしや〔旅舍〕やどや、はたごや
りよしゆく〔旅宿〕やどや、はたごや
りよだん〔旅團〕軍隊の名
りよちう〔侶儔〕なかま
りよてん〔旅店〕やどや、はたごや
りよはく〔旅泊〕やどや、はたごや
りよひ〔旅費〕たびの入費
りよよう〔旅用〕たびの費用
りより〔閭里〕むらざと
りよりつ〔呂律〕音樂の調子
りよりやく〔虜掠〕おひはぎすること
りよりよく〔膂力〕うでの力
りらく〔籬落〕まがきのほとり
りらく〔里落〕むらざと
りりし〔凜凜〕「いかめし（嚴）」を見よ

りりよ〔里閭〕むらざと
りれう〔吏僚〕やく人たち
りれき〔履歷〕人の來歷
りろん〔理論〕物事の理をきはむること
りゐん〔吏員〕やくにん
りゑん〔梨園〕役者のこと
りをく〔離屋〕はなれや
りん〔燐〕元素の一
りん〔鈴〕すゞ
りんい〔淪漪〕さゞなみ
りんう〔霖雨〕ながあめ
りんか〔隣家〕となりのいへ
りんかい〔鱗介〕うろこあるものゝ總稱
りんかう〔輪講〕順番に講義をなすこと
りんかう〔臨幸〕天子ののぞませらるゝこと
りんがう〔隣鄕〕となりむら
りんき〔悋氣〕やきもち
りんき〔臨機〕ときのはづみ「——應變」
りんぎよ〔臨御〕天子ののぞませらるゝこと
りんきん〔輪勤〕順番につとむること
りんくわ〔燐火〕きつね火
りんくわう〔燐光〕きつね火

りんくわく〔輪廓〕まはりの線
りんくわん〔輪奐〕建築のりつぱなること「――たる殿堂」
りんげつ〔臨月〕うみづき
りんけん〔臨檢〕のぞみしらぶること
りんげん〔綸言〕天子のおことば
りんこ〔凜乎〕いかめしきさま
りんご〔林檎〕菓物の名
りんし〔綸旨〕天子のみことのりのむね
りんじ〔臨時〕その時にのぞみてすること
りんじ〔鱗次〕魚のうろこの如くならぶこと
りんしつ〔痳疾〕病の名
りんしふ〔鱗集〕多くあつまること
りんじゆう〔臨終〕死にぎは
りんしよく〔吝嗇〕けち、やぶさか
りんず〔綾子・綸子〕おりものゝ名
りんせき〔吝惜〕ものをしみすること
りんせき〔臨席〕その席にのぞむこと
りんせき〔隣席〕となりの坐席
りんせつ〔隣接〕となりつゞくこと
りんぜん〔凜然〕するどく感ずるさま「威風――」

りんそう〔林叢〕はやし
りんそん〔隣村〕となりむら
りんだう〔龍膽〕草花の名
りんち〔臨池〕てならひ
りんぢやう〔臨場〕その場にのぞむこと
りんどく〔輪讀〕順番によむこと
りんぱう〔隣保〕となりの家々
りんばん〔輪番〕まはりばん
りんびやう〔痳病〕病の名
りんぺん〔隣邊〕あたりきんじよ
りんぼつ〔淪沒〕水中にしづむこと
りんまう〔釐毫〕わづかなること
りんめい〔綸命〕天子のおほせ
りんよく〔悋慾〕しはきよく
りんらく〔林落〕はやし
りんらく〔淪落〕おちぶるゝこと
りんり〔倫理〕人の道
りんり〔隣里〕となりむら
りんり〔淋漓〕水又血などのしたゝるさま「鮮血――」
りんりつ〔凜慄〕ものすごくすさまじきさま
りんりん〔凜凜〕するどく感ずるさま「勇氣――」

りんりん〔轔轔〕車のきしる聲「車馬――」
りんりん〔淋淋〕流れおつるさま
りんれき〔霖瀝〕雨のつゞけぶり
りんれき〔轔轢〕車のきしること
りんれつ〔凜列〕寒さのはげしきさま「寒風――」
りんをく〔隣屋〕となりの家

る

るけい〔流刑〕しまながし
るげん〔縷言〕こま〴〵いふこと
るざい〔流罪〕しまながし
るじゆつ〔縷述〕こま〴〵のぶること
るす〔留守〕㊀人の居らぬ家を代りて守ること㊁人の居らぬこと○不在(フザイ)他出(タシユツ)
るせつ〔縷說〕こま〴〵とくこと
るつぼ〔坩堝〕金をとかす具
るふ〔流布〕ひろまること
るらう〔流浪〕さまよふこと
るり〔瑠璃〕寶石の名

るる〔縷縷〕こま〴〵と「――陳述す」
るゐ〔類〕たぐひ
るゐ〔壘〕とりで
るゐえふ〔累葉〕だい〳〵
るゐえん〔類緣〕しんるゐ
るゐがん〔淚眼〕なみだぐむ眼
るゐくわ〔類化〕同じやうに變化せさすること
るゐげつ〔累月〕月をかさぬること
るゐこう〔累功〕功をかさぬること
るゐこん〔淚痕〕なみだのあと
るゐざ〔累坐〕まきぞへ
るゐさい〔壘塞〕とりで
るゐじ〔類似〕によりたること
るゐしう〔累囚〕めしうど
るゐじつ〔累日〕まいにち
るゐじゆ〔類聚〕分類してあつむること
るゐしよう〔類證〕によりの證據
るゐしん〔累進〕しだいに進むこと
るゐす〔類〕「たぐふ(類)」を見よ
るゐすゐ〔類推〕類を以ておしはかること
るゐせい〔累世〕だい〳〵、よゝ

るゐせう〔類燒〕失火の家と共にやくること
るゐせき〔累積〕つみかさぬること
るゐせつ〔縲紲〕縲めにかゝること
るゐせつ〔類說〕によりのはなし
るゐせん〔累遷〕しだいに進むこと
るゐそう〔羸瘦〕やせおとろふること
るゐぞく〔類族〕みより、親類
るゐたい〔羸態〕やせおとろへたる姿
るゐだい〔累代〕だい〳〵、よゝ
るゐてん〔類典〕によりの法典
るゐねん〔累年〕まいとし
るゐばい〔羸憊〕つかれよわること
るゐへい〔羸兵〕よわりたる兵
るゐへき〔壘壁〕とりで
るゐべつ〔類別〕類をわくること
るゐらん〔累卵〕つみかされたるたまご「危きこと——の如し」
るゐるゐ〔累累〕㈠かさなりあふさま「死屍——たり」㈡つかれはてたる貌「——として喪家の狗の如し」
るゐれい〔類例〕によりのためし
るゐれき〔瘰癧〕病の名

れ

れい〔禮〕れいぎ「師弟の——」
れい〔令〕おほせ
れい〔零〕數のなきこと
れい〔靈〕たましひ
れい〔例〕ためし
れいあい〔令愛〕むすめご
れいい〔靈異〕あやしく尊きこと
れいえん〔麗艷〕うるはしきこと
れいかい〔捩開〕ねぢあくること
れいかう〔勵行〕はげまし行ふこと
れいかく〔例格〕きまり、しきたり
れいがく〔禮樂〕禮法と音樂
れいがく〔伶樂〕音樂のこと
れいかん〔靈感〕神佛の感應
れいかん〔冷寒〕ひえ、さむさ
れいき〔例規〕きまり、さだめ
れいき〔癘鬼〕やくびやうがみ
れいぎ〔禮儀〕禮の作法
れいきやく〔冷却〕ひゆること

れいきよ〔囹圄〕らうや
れいく〔靈區〕神社佛閣のあるところ
れいぐ〔靈供〕神佛へのそなへもの
れいぐう〔冷遇〕ぶあいそにもてなすこと
れいぐう〔禮遇〕禮をあつくもてなすこと
れいくつ〔靈窟〕神社佛閣のあるところ
れいくわい〔靈快〕いたつて快活なること
れいくわい〔靈怪〕あやしきこと
れいぐわい〔例外〕とりのけ
れいくわつ〔靈活〕いき〳〵したること
れいけい〔令兄〕他人の兄の敬語
れいけい〔令閨〕他人の妻の敬語
れいけん〔怜賢〕かしこきこと
れいげん〔靈驗〕あらたかなるしるし
れいこ〔零枯〕かれておつること
れいご〔冷語〕ひやかしことば
れいご〔囹圄〕らうや
れいこん〔靈魂〕たましひ
れいさい〔零碎〕おちこぼれ「斷片——」
れいさい〔零細〕こまかなること
れいし〔靈芝〕菌の名
れいし〔令旨〕「りやうし(令旨)」を見よ
れいしつ〔令室〕他人の妻の敬語
れいしつ〔麗質〕うるはしきうまれつき
れいしや〔禮謝〕禮をすること
れいしや〔靈舍〕みたまや
れいじやう〔禮讓〕禮を正しうして人に讓ること
れいじやう〔令狀〕命令のかきつけ
れいしゆ〔冷酒〕ひやざけ
れいしゆ〔黎首〕人民のこと
れいじゆつ〔靈術〕ふしぎのわざ
れいしよ〔黎庶〕人民のこと
れいしよう〔例證〕例となる證據
れいしよく〔麗色〕みめのよきこと
れいしよく〔令色〕顏色をつくろふこと「巧言——」
れいしん〔令辰〕めでたき日
れいじん〔伶人〕音樂をなす人
れいじん〔令人〕うるはしき人
れいじん〔隷人〕めしつかひ
れいじん〔靈神〕あらたかなる神
れいす〔令〕「おほす(仰)」を見よ
れいすゐ〔冷水〕ひやみづ

れいずゐ〔靈瑞〕すぐれたるしらせ
れいせい〔勵聲〕こゑをはげますこと
れいせい〔令正〕他人の妻の敬稱
れいせい〔勵精〕つとめはげむこと
れいせう〔冷笑〕あざわらふこと
れいせつ〔令節〕めでたき祝ひ日
れいせつ〔禮節〕れいぎ
れいそく〔令息〕他人の男の子の敬稱
れいぞく〔隸屬〕つきしたがふこと
れいだう〔戾道〕道にもとること
れいたん〔冷淡〕㊀ひやゝか㊁ぶあいそ
れいち〔靈地〕寺社のある地
れいぢやう〔令孃〕他人のむすめの敬稱
れいてい〔令弟〕他人の弟の敬稱
れいてん〔令典〕おきて
れいてん〔禮典〕ぎしき
れいとく〔令德〕うるはしき德行
れいとく〔靈德〕靈妙の德行
れいねつ〔冷熱〕つめたきとあつきと
れいはい〔禮拜〕神佛ををがむこと
れいはい〔靈牌〕死人の位はい
れいばい〔零賣〕小賣のこと

れいばう〔令望〕よききこえ、ほまれ
れいばう〔禮貌〕うや〳〵しきすがた
れいはん〔令範〕よきてほん
れいひやう〔冷評〕見さげたる評
れいふ〔靈符〕まもりふだ
れいふう〔冷風〕つめたき風
れいぶん〔令聞〕よききこえ、ほまれ
れいへい〔例幣〕例になりて神にさゝぐる幣帛
れいへう〔澪標〕みをつくし
れいべう〔靈廟〕みたまや
れいぼく〔隸僕〕めしつかひ
れいみん〔黎民〕人民のこと
れいむ〔靈夢〕あらたかなるゆめ
れいめい〔令名〕ほまれある名
れいめい〔黎明〕夜のあけがた
れいめう〔靈妙〕ふしぎなるほど妙なること
れいもつ〔禮物〕謝禮におくる品物
れいよ〔零餘〕のこり、あまり
れいよう〔禮容〕禮儀たゞしきすがた
れいらく〔零落〕おちぶるゝこと
れいり〔怜悧〕りこう、はつめい

れいれい〔冷冷〕ひやゝかなるさま「――看過す」
れいろう〔玲瓏〕光のすきとほるさま
れいをく〔靈屋〕みたまや
れう〔料〕用ゐるべきもの「飲み―」
れう〔寮〕學生の寄宿舍
れういう〔僚友〕おひやく
れうかい〔了解〕さとること
れうかく〔了覺〕さとりおぼゆること
れうくわ〔燎火〕にはび
れうくわく〔寥廓〕ひろ〴〵したるさま
れうくわん〔僚官〕やく人
れうけん〔料簡〕かんがへ
れうご〔了悟〕さとること
れうさ〔僚佐〕すけやく
れうさつ〔瞭察〕みぬくこと
れうじ〔聊爾〕かりそめ
れうす〔了〕「さとる(了)」を見よ
れうぜん〔瞭然〕あきらかなるさま
れうぜん〔了然〕さとるさま「――見るがごとし」
れうそく〔料足〕錢のこと

れうぞく〔僚屬〕したやく
れうぢ〔療治〕病をなほすこと
れうとく〔了得〕さとること、
れうはい〔僚輩〕ともだち、なかま
れうやう〔療養〕病をやしなふこと
れうらく〔遼落〕おちぶるゝこと
れうらく〔寥落〕ものさびしきこと
れうり〔料理〕㊀にたき「――屋」㊁はかりをさむること「大政を――す」
れうれう〔寥寥〕ものさびしきさま「曉星――たり」
れうれう〔遼遼〕はるかなるさま「――たる行途」
れうゑん〔遼遠〕はるかにとほきこと「先途――なり」
れき〔曆〕こよみ「太陽―」
れきいう〔歷遊〕あそびまはること
れきえふ〔歷葉〕だい〳〵、よゝ
れきくわい〔礫塊〕小石のこと
れきし〔歷史〕國の變遷をしるしたるもの
れきし〔轢死〕車にひかれて死ぬること
れきじつ〔曆日〕こゆみの日「山中――なし」

れきせい〔歷世〕よゝ、だい〳〵
れきせき〔礫石〕小石のこと
れきぜん〔歷然〕あきらかなるさま
れきだい〔歷代〕よゝ、だい〳〵
れきてう〔歷朝〕だい〳〵の御代
れきでん〔歷傳〕だん〳〵に傳はること
れきねん〔歷年〕としぐ〳〵
れきはう〔歷訪〕たづねまはること
れきらん〔歷覽〕めぐりみること
れきらん〔歷亂〕花のさきみだれたること「百花――」
れきれき〔歷歷〕あきらかなるさま
れきろく〔櫟轆〕車のきしる音
れつ〔列〕ならび
れつきよ〔列擧〕ならべあぐること
れつくわ〔烈火〕はげしき火
れつくわう〔列皇〕世々の天子
れつげき〔裂隙〕われめ、さけめ
れつけつ〔列鈌〕いなづま
れつこう〔列侯〕多くの大名
れつこく〔列國〕多くの國々
れつざ〔列座〕ゐならぶこと

れつし〔烈士〕をゝしき士
れつし〔裂眦〕まなじりをさくこと（怒れるさま）
れつしや〔列車〕つらなる車
れつじやく〔劣弱〕おとりてよわきこと
れつしゆく〔列宿〕多くの星のざ
れつす〔列〕「ならぶ(列)」を見よ
れつせい〔列聖〕よゝの天子
れつせき〔列席〕ゐならぶこと、
れつそ〔列祖〕よゝの先祖
れつそう〔列宗〕よゝの先祖
れつぢよ〔烈女〕をゝしき女
れつでん〔列傳〕多くの人の傳をかきならべたるもの
れつとう〔劣等〕おとりたる等級
れつぱん〔列藩〕多くの大名
れつぴん〔列品〕ならべたる品
れつぴん〔劣品〕おとりたる品
れつぷ〔烈夫〕をゝしき男
れつぷ〔烈婦〕をゝしき女
れつぷう〔烈風〕はげしき風
れつれつ〔烈烈〕火のはげしくもゆるさま

れふ〔獵〕かり
れふくわく〔獵獲〕かりとること
れふし〔獵師〕かりうど
れん〔簾〕すだれ
れんあい〔戀愛〕こひしたふこと
れんい〔漣漪〕さゞなみ
れんいん〔連印〕數人ならべて印をおすこと
れんう〔連雨〕ながあめ
れんか〔輦下〕みやこのうち
れんか〔廉價〕やすねだん
れんか〔連歌〕歌の一體
れんかう〔連衡〕よこをむすびあはすること「合縱――」
れんがふ〔連合〕つらなりあふこと
れんきふ〔連及〕まきぞへ
れんきん〔錬金〕ねりきたへし金
れんぐわ〔煉瓦〕瓦の一種
れんくわん〔連環〕くさり
れんげ〔蓮華〕花の名
れんげう〔連翹〕草の名
れんけつ〔廉潔〕心のいさぎよきこと
れんげつ〔連月〕まいつき

れんこく〔輦轂〕天子のみ車「――の下」
れんさ〔鏈鎖〕くさり
れんざ〔連坐〕まきぞへ
れんさつ〔憐察〕あはれみおもひやること
れんざん〔連山〕つらなる山々
れんし〔連枝〕はらから、兄弟
れんしう〔練修〕業をねりをさむること
れんじつ〔連日〕まいにち
れんしふ〔練習〕業をねりならふこと
れんしや〔輦車〕てぐるま
れんじやう〔戀情〕ほれたる心
れんしやく〔連借〕數名申合せて借ること
れんじゆく〔練熟〕なるゝこと
れんじゆつ〔憐恤〕あはれみめぐむこと
れんしよ〔連署〕名をつらねてかくこと
れんしよう〔連勝〕つゞけてかつこと
れんせう〔連宵〕まいよ、毎晩
れんせつ〔廉節〕いさぎよきみさを
れんせん〔連戰〕つゞけてたゝかふこと「――連勝」
れんぜん〔漣然〕涙のながるゝさま
れんぞく〔連續〕つらなりつゞくこと

れんたい〔連帶〕つらなりてなすこと「——責任」

れんたい〔聯隊〕兵隊のくみ

れんだい〔蓮臺〕れんげのざ「九品の——」

れんたつ〔練達〕なれ達すること

れんち〔廉恥〕はぢを知りて正直なること

れんちやく〔戀著〕こひしたふこと

れんちゆう〔連中〕なかま

れんちゆう〔簾中〕貴人の妻の敬稱

れんちよく〔廉直〕心のたゞしきこと

れんねん〔連年〕まいとし

れんぱい〔連敗〕つゞけてまくること「連戰——」

れんぱう〔聯邦〕數國の合したる一大國

れんぱつ〔連發〕つゞけてうつこと

れんぱん〔連判〕數人申合せて印をつくこと

れんびん〔憐憫〕「れんみん（憐憫）」を見よ

れんぺい〔練兵〕兵をねること

れんぼ〔戀慕〕こひしたふこと

れんぽ〔連歩〕つらなりあるくこと

れんぽう〔連峰〕つらなる峰々

れんま〔練磨〕ねりみがくこと

れんみん〔憐憫〕あはれむこと

れんめい〔連名〕數人かきつゞけたる名

れんめい〔連盟〕ちかひをむすぶこと

れんめん〔連綿〕ひきつゞくこと「皇統——」

れんらく〔聯絡〕つらなること

れんり〔廉吏〕たゞしきやく人

れんり〔連理〕根二つにて末の連る木（夫婦の契にたとふ）「比翼——」

れんりつ〔連立〕つらなりたつこと

れんるい〔連累〕まきそへ

れんれん〔戀戀〕こひしたふさま

れんれん〔漣漣〕涙のこぼるゝさま

ろ

ろ〔絽〕織物の名「—の羽織」

ろ〔爐〕ゐろり

ろ〔櫓〕船をこぐ具「—を搒ぐ」

ろ〔廬〕「いほ（廬）」を見よ

ろう〔樓〕たかどの

ろう〔聾〕つんぼ

ろうえい〔漏洩〕密事のもるゝこと

ろうかう〔哢吭〕鳥などのさへづること

ろうかう〔陋巷〕きたなきちまた

ろうかく〔樓閣〕たかどの

ろうぎ〔螻蟻〕蟲の名、けら

ろうきよ〔陋居〕きたなきすまひ

ろうきよ〔樓居〕二階ずみ

ろうく〔陋苦〕むさぐるしきこと

ろうくつ〔僂屈〕腰をかゞむること

ろうくわ〔弄花〕かるたあそび

ろうくわい〔漏潰〕堤のくづるゝこと

ろうくわん〔樓觀〕たかどの

ろうけふ〔陋狹〕むさぐるしきこと

ろうげん〔弄言〕しやべりちらすこと

ろうこく〔漏刻〕水どけい

ろうこく〔鏤刻〕ちりばむること

ろうし〔陋姿〕いやしきすがた

ろうじ〔聾耳〕つんぼみゝ

ろうしう〔陋醜〕いやしくみにくきこと

ろうしつ〔陋質〕いやしきうまれつき

ろうしふ〔陋習〕いやしきならはし

ろうしや〔聾者〕つんぼ

ろうじやう〔籠城〕城に立てこもること

ろうしゆつ〔漏出〕もれいづること

ろうしん〔弄臣〕そばづかひ

ろうず〔弄〕もてあそぶ

ろうせつ〔漏泄〕もるゝこと

ろうせつ〔弄舌〕・しやべること

ろうせん〔陋賤〕いやしきこと

ろうせん〔樓船〕やかたぶね

ろうぞく〔陋俗〕いやしきならはせ

ろうたい〔陋態〕いやしきさま

ろうたく〔陋宅〕きたなきいへ

ろうだつ〔漏脫〕ぬけおつること

ろうだん〔壟斷〕ひとり利をしむること

ろうと〔漏斗〕じやうご

ろうは〔綠礬〕鑛物の名

ろうふう〔陋風〕いやしきならはせ

ろうぶん〔漏聞〕もれきこゆること

ろうもん〔樓門〕二階のある門

ろうや〔朧夜〕おぼろ夜

ろうらく〔籠絡〕ごまかすこと

ろうろう〔朧朧〕おぼろなるさま「夜色——」

ろうをく〔陋屋〕きたなきいへ

ろえい〔露營〕のぢん

ろか〔艪歌〕ふなうた
ろかん〔鹵鹹〕しほはゆきこと
ろぎよ〔滷魚〕しほづけのうを
ろぎん〔路銀〕たびの費用
ろく〔祿〕ふち
ろくこつ〔肋骨〕あばらぼね
ろくさく〔勒索〕むりどりすること
ろくじ〔錄事〕かきやく
ろくしやう〔綠靑〕かなけ
ろくす〔錄〕しるす「名簿に―す」
ろくまく〔肋膜〕あばらをつゝむ膜
ろくろ〔轆轤〕まんりき、しやち
ろくろく〔漉漉〕血のながるゝさま
ろくろく〔碌碌〕何もなすことなきさま
ろくわ〔濾過〕水を通してかすをすきこすこと
ろくわ〔蘆花〕あしの花
ろぐわ〔露臥〕野にいぬること
ろけい〔路蹊〕ほそみち
ろけん〔露見・露顯〕あらはるゝこと
ろこつ〔露骨〕むきだし「――にいふ」
ろざ〔露坐〕のてんにすわること

ろじ〔路次〕みちのついで
ろしう〔蘆洲〕あしはら
ろしゆつ〔露出〕あらはれいづること
ろじん〔路人〕みちゆく人
ろじん〔露刃〕ぬきみの刃
ろだい〔露臺〕屋根なきもの見
ろぢ〔路地〕せまきかよひぢ
ろてい〔路程〕みちのり
ろてん〔露店〕ほしみせ
ろとう〔路頭〕みちばた
ろどん〔魯鈍〕おろか
ろば〔驢馬〕獸の名
ろばう〔路傍〕みちのかたはら
ろひ〔路費〕たびの入費
ろへん〔爐邊〕ゐろりべ
ろぼ〔鹵簿〕天子の行幸の行列
ろまう〔鹵莽〕文辭などのみだりなること
ろめい〔露命〕はかなきいのち
ろよう〔路用〕たびの費用
ろりやく〔鹵掠〕むりどりすること
ろれつ〔臚列〕ならぶること
ろゐ〔賂遺〕おくりもの

ろゐ〔蘆葦〕あし(草の名)
ろをく〔露屋〕あばらや
ろん〔論〕いひあらそひ
ろんかく〔論客〕いひあらそふ人
ろんぎ〔論議〕ろんじはかること
ろんきう〔論究〕ろんじきはむること
ろんきふ〔論及〕ろんじおよぶこと
ろんけつ〔論決〕ろんじさだむること
ろんし〔論旨〕ぎろんのむね
ろんしよう〔論證〕ぎろんのしようこ
ろんず〔論〕いひあらそふ
ろんせつ〔論說〕ろんじとくこと
ろんそう〔論奏〕意見を論じて君に上奏すること
ろんだん〔論談〕ろんじかたらふこと
ろんなん〔論難〕ろんじとがむること
ろんぱ〔論破〕ろんじやぶること
ろんばく〔論駁〕ろんじなじること
ろんぱん〔論判〕ろんじさばくこと
ろんべん〔論辯〕ろんじいひひらくこと
ろんぽう〔論鋒〕ぎろんのほこさき
ろんり〔論理〕りくつ

わ

わ〔和〕なかなほり「―を講ず」
わ〔和・倭〕日本のこと「―學、―書」
わ〔輪〕まはるきわ「車の―、指―」
わいざう〔賄贓〕まひなひ
わいざつ〔猥雜〕入りみだるゝこと
わいせう〔矮小〕たけひきく小さきこと
わいせつ〔猥褻〕みだりなるたはけごと
わいろ〔賄賂〕まひなひ
わいゐ〔薈蔚〕草木のしげるさま
わいをく〔矮屋〕小さき家
わう〔王〕きみ
わうか〔王家〕帝王の一家
わうが〔枉駕〕人のとひ來ることの敬語
わうかう〔橫行〕みだりにおしあるくこと
わうき〔王畿〕天子の住まるゝ土地
わうぎ〔橫議〕みだりに議すること
わうぎやく〔橫逆〕よこしま
わうきゆう〔王宮〕帝王の宮殿
わうくわ〔王化〕帝王の德化

わらくわん 〔往還〕㊀ゆきき㊁ゆききの道
わらこ 〔往古〕おほむかし
わらごん 〔黃金〕こがね
わらさ 〔王佐〕天子をたすくるもの「——の才」
わらし 〔王師〕天子の軍
わらし 〔枉死〕のたりじに「路傍に——す」
わらし 〔橫死〕わざはひにかゝりて死ぬるを
わらじ 〔往事〕過ぎさりし事
わらじ 〔往時〕むかし
わらじ 〔王事〕君につくす事
わらしつ 〔王室〕帝王の御家
わらじつ 〔往日〕さきだッて、先日
わらしや 〔橫斜〕なゝめになるを「疎影——」
わらじやう 〔王城〕天子の宮居
わらじやう 〔往生〕死して極樂にいくこと
わらじやく 〔尫弱〕かよわきこと「——の身」
わらせい 〔王政〕天子のまつりごと
わらせい 〔旺盛〕さかんなること
わらせい 〔王制〕天子のまつりごと
わらせき 〔往昔〕むかし
わらぞく 〔王族〕天子の一族

わらそん 〔王孫〕天子の子孫
わらだい 〔往代〕いにしへ
わらだう 〔王道〕帝王の世を治むる道
わらだう 〔橫道〕よこしまの道
わらだつ 〔橫奪〕よこどりすること
わらちやく 〔橫著〕わがまゝ
わらど 〔王土〕帝王の治むる土地
わらとう 〔王統〕帝王の血すぢ
わらなん 〔橫難〕思ひかけぬわざはひ
わらねん 〔往年〕むかし
わらひ 〔王妃〕帝王のきさき
わらふく 〔往復〕ゆきかへり
わらへい 〔橫柄〕おごり高ふること
わらへん 〔往返〕ゆきかへり
わらほふ 〔枉法〕法をまぐること
わらめい 〔王命〕帝王の命令
わらい 〔往來〕ゆきき
わらりやう 〔王領〕帝王の領地
わらりやう 〔橫領〕おしどりすること
わらるゐ 〔尫羸〕よわ〳〵しきこと
わらわう 〔往往〕とき〴〵「——見ゆ」
わらわう 〔汪汪〕水のさかんなるさま「海水

たり」
わらゐ 〔王威〕帝王の威光
わらゐ 〔王位〕帝王のくらゐ
わか 〔和歌〕日本のうた
わかい 〔和解〕なかなほり
わかし 〔若〕年わかきこと ○少壯弱冠
わかじに 〔若死〕はやじに○夭折夭死夭札夭死殤死折死早逝早世早天殀歿蚤沒短命
わかす 〔沸・沕・涌〕「わく(沸・沕・涌)」を見よ
わかつ 〔別〕二になす○區別區分分別
わかつ 〔判〕とりさばく○判斷判決剖判判別辨別
わかつ 〔頒〕わけあたふ○配布分配頒賦
わがぬ 〔綰〕輪にす「糸を——ぬ」
わかば 〔若葉〕わかき葉○嫩葉新葉
わがふ 〔和合〕やはらぎむつぶこと「家內——す」
わがまま 〔我儘〕氣まゝ○我意橫著自肆自恣恣縱任縱放縱放埒侈放任恣專橫驕放驕恣驕肆

わかもの 〔若者〕年わかきもの○壯佼壯士壯丁壯齡壯年
わかる 〔分・別〕分は合ひしものゝはなるゝこと、別は一物の二にはなるゝこと○分別分離=離別訣別分袂(人と人とわかる)=分派支分(えだはをなす)
わかる 〔解〕「さとる(悟)」を見よ
わかん 〔和漢〕日本と支那
わき 〔脇〕そば、かたはら「——道」
わぎ 〔和議〕なかなほりの評議
わきざし 〔脇差〕こしがたな
わきまふ 〔辨〕㊀知りわく○辨知辨別辨識㊁つくのふ○辨償返辨㊂とりあつかふ○支辨處辨
わきみ 〔傍見〕よこみ○傍觀側視
わく 〔沸〕湯がにえかへる(水のさかまくにもいふ)○沸騰煮沸
わく 〔涌・沕〕水が地中よりあふれ出づ○涌出
わくでき 〔惑溺〕まどひおぼろゝこと「女色に——す」
わくらん 〔惑亂〕まどひみだるゝこと

わくん〔和訓〕漢字の日本よみ
わけ〔譯〕すぢ○理由所由緣由仔細所以
わご〔和語〕日本のことば
わこく〔和國〕日本のくに
わこん〔和魂〕やまとだましひ
わざ〔業〕「しわざ(仕業)」を見よ
わざ〔技〕手わざ○技術技能
わざと〔態〕ことさらに○故意
わざはひ〔禍・殃・災〕ふしあはせ（殃は神のとがめなうくること、災は天地のなせる難義のこと）○禍殃禍害禍患禍難禍災過厄殃難殃禍殃災災殃災禍災厄
わさび〔山葵〕水草の名
わざもの〔技物〕よくきたへたる刀○鋭刀利刀利劍快劍
わざわざ〔態態〕ことさらに「——來る」
わさん〔和讃〕佛の德を稱ふる歌
わし〔鷲〕鳥の名
わじゆく〔和熟〕やはらぎむつぶこと
わじゆん〔和順〕おだやか
わじゆん〔和潤〕水にほとぶろこと
わしる〔走・奔・趨〕「はしる(走・奔・趨)」を見よ
わしん〔和親〕じたしむこと
わす〔和〕㊀やはらぐ「夫婦相—す」㊁調子が合ふ「吟聲相—す」
わする〔忘〕心中におぼえず ○失念忘却遺忘遺念遺却
わせい〔和製〕日本でき
わせん〔和戰〕平和と戰爭と
わた〔綿〕草の名
わだかまり〔奸曲〕「よこしま(邪)」を見よ
わだかまる〔蟠〕輪になりてかゞまる○蟠紆蟠蜿蟠屈蟠曲盤桓
わたくし〔私〕㊀われ、おのれ㊁おもて立たぬこと「—を營む」㊂おのれの利を計ること○私曲私枉私利私欲
わたしば〔渡場〕河に舟を渡す所○津頭津渡口渡頭
わたす〔渡〕㊀「わたる(渡)」を見よ㊁てわたす○交附支給
わたる〔渡・濟〕水をわたる ○過渡越渡渡濟

わたる〔涉〕足にてふみわたる「山を——り谷を越ゆ」○涉獵徒涉跋涉
わたる〔亘〕こゝよりかしこまで行きとゞく「泳虹天に—る」
わだん〔和談〕なかなほりの相談
わづか〔僅〕いさゝか、すこし ○些少少許些細微細輕微瑣末毫末錙銖瑣瑣毫釐毫髮秋毫
わづかに〔纔〕からうじて、かつ〴〵に
わつぷ〔割賦〕わりあつること○配賦配分
わづらはし〔煩〕うろさし、いとはし○煩累煩雜煩冗煩縟繁瑣
わづらはす〔煩〕「わづらふ(煩)」を見よ
わづらひ〔煩〕「わづらふ(煩)」を見よ
わづらひ〔累〕「ほだし(累)」を見よ
わづらふ〔煩〕くるしみなやむ○煩慮煩勞煩悶煩勞
わとう〔話頭〕はなしのさき
わな〔羂〕おす
わななく〔戰〕「をのゝく(戰)」を見よ
わに〔鰐〕獸物の名
わび〔詫〕「わぶ(詫)」を見よ
わびし〔侘〕なやまし、つらし「—しき住居」○無聊幽寂
わぶ〔詫〕あやまちを謝す○辭謝陳謝面謝謝罪
わぶ〔侘〕思ひわづらふ
わぼく〔和睦〕なかなほり
わめく〔叫〕「をめく(叫)」を見よ
わやう〔和洋〕日本と西洋
わやく〔和譯〕日本語の飜譯
わら〔藁〕稻の莖から
わらぢ〔草鞋〕藁のはきもの
わらは〔童〕「こども(小供)」を見よ
わらび〔蕨〕草の名
わらふ〔笑・咲〕をかしさにわらふ ○失笑＝微笑(少しく笑ふ)＝哄笑 解頤(大に笑ふ)＝癡笑(ばか笑ひをなす)＝訕笑嘲笑冷笑嗤笑(あざ笑ふ)＝哄然嗑然呵々啞々(笑ふさま)＝莞爾莞然(ほゝゑむさま)
わりあひ〔割合〕わりあてたる高○比例

わりつく〔割付〕わりふる○分賦(ブンプ)配分(ハイブン)配當(ハイタウ)配付(ハイフ)
わりまへ〔割前〕わけまへ○配分(ハイブン)股分(コブン)
わる〔割〕わかつ○割斷(カツダン)分割(ブンカツ)
わる〔破〕「やぶる(破)」を見よ
わるがしこし〔惡賢〕惡しき方にかしこし○狡獪(カウクワイ)狡猾(カウクワツ)姦黠(カンカツ)姦猾(カンクワツ)狡黠(カウカツ)桀黠(ケツカツ)桀猾(ケツクワツ)剽狡(ヘウカウ)
わるくち〔惡口〕あしきことば○毒舌(ドクゼツ)惡言(アクゲン)苦言(クゲン)
わるだくみ〔惡巧〕あしき謀○惡計(アクケイ)奸計(カンケイ)姦策(カンサク)奸謀(カンボウ)譎謀(ケツボウ)
わるぢゑ〔惡智惠〕あしきちゑ○狡智(カウチ)黠智(カツチ)奸智(カンチ)邪智(ジャチ)
わるもの〔惡者〕あしき人○惡漢(アクカン)惡黨(アクタウ)惡徒(アクト)奸徒(カント)奸賊(カンゾク)兇徒(キョウト)兇賊(キョウゾク)
われ〔吾・我〕わたくし○余(ヨ)予(ヨ)小生(セウセイ)拙者(セッシャ)迂生(ウセイ)
われら〔吾等〕わたくしども○吾輩(ゴハイ)余輩(ヨハイ)吾曹(ゴサウ)吾人(ゴジン)
わろし〔惡〕「あし(惡)」を見よ
わん〔椀〕食物をもる器

わん〔灣〕いり江○港灣(カウワン)海灣(カイワン)
わんきよく〔彎曲〕弓なりにまがること
わんしやう〔惋傷〕かなしみなげくこと
わんぜん〔惋然〕悲しみなげくさま
わんぱく〔椀白〕わやく「——小僧」
わんりよく〔腕力〕うでのちから

ゐ

ゐ〔胃〕ゐのふ「—病、—液」
ゐ〔井〕ゐど「—水、釣—」
ゐ〔藺〕草の名
ゐ〔猪〕獸の名、ゐのしゝ
ゐ〔亥〕十二支の一
ゐ〔威〕ゐきほひ
ゐあい〔遺愛〕生前に愛せられしもの、死後までのこるもの「——の琴」
ゐあく〔帷幄〕まく「謀を——の中にめぐらす」
ゐい〔逶迤〕まがりうねるさま「——たる山路」
ゐかい〔位階〕くらゐ

ゐかい〔遺戒〕いひのこしゝいましめ
ゐがい〔遺骸〕しかばね
ゐかう〔遺稿〕死後までのこしたるかきもの
ゐかん〔遺憾〕のこりをしきこと
ゐき〔委棄〕すつること
ゐき〔位記〕位のかきつけ
ゐき〔畏悸〕おそるゝこと
ゐぎ〔威儀〕いかめしきふり
ゐきやく〔遺却〕わするゝこと
ゐきやく〔畏却〕おそれ入ること
ゐきよく〔委曲〕くはしきこと
ゐく〔畏懼〕おそるゝこと
ゐくわい〔違乖〕そむきたがふこと
ゐくわう〔威光〕いかめしきいきほひ
ゐくん〔偉勳〕大なるてがら
ゐくん〔遺訓〕いひのこしゝをしへ
ゐけい〔畏敬〕おそれうやまふこと
ゐけいざい〔違警罪〕警察の禁制を犯しゝ罪
ゐげた〔井桁〕井のまはりのふち
ゐけふ〔畏怯〕おくびやうなること
ゐげふ〔遺業〕後世にのこしゝ業
ゐげふ〔偉業〕大いなる業

ゐけん〔威權〕いきほひ
ゐげん〔威嚴〕いかめしきこと
ゐげん〔遺言〕「ゆゐごん(遺言)」を見よ
ゐご〔圍碁〕ごうち
ゐこう〔偉功〕大いなるてがら
ゐこつ〔遺骨〕しかばね
ゐこん〔遺恨〕のこるうらみ
ゐさい〔委細〕くはしきこと
ゐさん〔遺產〕後の世にのこしゝ財產
ゐさん〔違算〕かんぢやうちがひ
ゐざり〔膝行〕足の立たぬかたは
ゐざる〔膝行〕足を立てずあるく○膝行(シツカウ)
ゐし〔遺旨〕後の世にのこしゝむね
ゐし〔遺志〕後の世にのこしゝ志
ゐじ〔遺事〕後の世にのこれる事
ゐしき〔違式〕式にたがふこと
ゐしつ〔遺失〕とりおとすこと
ゐしふ〔蝟集〕よりあつまること
ゐしや〔慰藉〕なぐさめやること
ゐじやく〔胃弱〕病の名
ゐしゆく〔畏縮〕おそれちゞむこと
ゐしよ〔遺書〕かきのこしゝ書

ゐしよ〔位署〕官位をかきしるすこと
ゐしん〔維新〕萬事新しくあらたまること「王政——」
ゐせい〔威勢〕いきほひ
ゐせう〔遺詔〕帝王の遺言
ゐせき〔遺跡〕名高き事のありしあと
ゐぞく〔委囑〕まかすること
ゐぞく〔遺俗〕古よりのこりし風俗
ゐぞく〔遺族〕死にのこりし一族
ゐだ〔畏懦〕おくびやうなること
ゐだい〔偉大〕りつぱにおほきなること
ゐたく〔委託〕まかすること
ゐだく〔唯諾〕うけがふこと
ゐだつ〔遺脫〕もれ、おち
ゐたん〔畏憚〕おそれはゞかること
ゐち〔位置〕ばしよ
ゐぢ〔維持〕もちつゞくること「現狀——」
ゐちよく〔違勅〕勅命にたがふこと
ゐでん〔遺傳〕親よりすぢを引きて病などの傳はること
ゐど〔井戸〕のみ水をくむところ
ゐど〔緯度〕地理學上の語

ゐとく〔威德〕いかめしき德
ゐなか〔田舍〕むらざと○村落(ソンラク)鄕村(キヤウソン)鄕曲(キヤウキヨク)田舍(デンシヤ)田家(デンカ)田園(デンエン)邊邑(ヘンイフ)邊鄙(ヘンピ)
ゐならぶ〔居列〕ならびてすわる○列坐(レツザ)
ゐにん〔委任〕まかすること
ゐねう〔圍繞〕めぐりかこむこと
ゐねむり〔居眠〕すわりながらねむること○坐睡(ザスヰ)居睡(キヨスヰ)
ゐのこ〔豚〕ぶたの子
ゐのしし〔猪〕獸の名
ゐはい〔位牌〕死者の戒名をしるしたる木牌
ゐはい〔違背〕たがひそむくこと
ゐばう〔遺忘〕わするゝこと
ゐばう〔偉貌〕すぐれたるすがた
ゐはく〔威迫〕おどしせまること
ゐばく〔帷幕〕まく
ゐばる〔威張〕はびこる○跋扈(バツコ)跳梁(テウリヤウ)
ゐはん〔違反〕たがひそむくこと
ゐはん〔違犯〕たがひをかすこと
ゐひ〔痿痺〕しびるゝこと
ゐび〔萎靡〕おとろふること
ゐふ〔威怖〕おどし怖れしむること

ゐぶ〔威武〕いきほひ
ゐぶ〔慰撫〕なぐさめてやること
ゐふう〔威風〕威ある風采
ゐふう〔遺風〕後までのこりしふり
ゐふく〔遺腹〕父の死後に生れたる兒
ゐふく〔威服〕威を以て服せしむること
ゐふく〔畏服・畏伏〕おそれしたがふこと
ゐぶつ〔遺物〕後の世にのこりし物
ゐぶん〔遺文〕後の世にのこりし文
ゐへん〔違變〕約束などにたがふこと
ゐま〔居間〕常にゐるざしき○居室(キヨシツ)便室(ベンシツ)
ゐまん〔帷幔〕まく
ゐめい〔遺命〕死する時いひのこしゝおほせ
ゐめい〔違命〕おほせにたがふこと
ゐもん〔慰問〕なぐさめとふこと
ゐもり〔蠑螈〕動物の名
ゐやく〔違約〕約束にそむくこと
ゐゆ〔慰諭〕なぐさめさとすこと
ゐよう〔威容〕すぐれたるすがた
ゐらう〔慰勞〕なぐさめいたはること
ゐりう〔遺留〕あとにのこり留ること
ゐりよう〔威稜〕いかめしきいきほひ

ゐりよく〔威力〕いきほひ
ゐる〔居〕「をる(居)」を見よ
ゐるゐ〔遺類〕のこりしなかま
ゐるゐ〔彙類〕おなじたぐひ
ゐれい〔威靈〕神佛のいきほひ
ゐれい〔違例〕やまひ、わづらひ
ゐれい〔違戾〕そむきたがふこと
ゐれつ〔遺烈〕先祖ののこしたるてがら「祖宗の——」
ゐれつ〔偉烈〕大いなるてがら
ゐろう〔遺漏〕もれ、おち
ゐゐ〔唯唯〕うけがふさま「——諾々」
ゐゐ〔渭渭〕水のながるゝさま
ゐゐん〔委員〕事を委せられたる人
ゐん〔院〕寺、宮などの號
ゐん〔韻〕音のひゞき「詩の——」
ゐんじ〔韻事〕みやびなる事「風流——」
ゐんずう〔員數〕かず
ゐんせん〔院宣〕上皇のおほせ
ゐんち〔韻致〕みやびなるおもむき
ゐんめい〔殞命〕いのちをうしなふこと
ゐんらく〔隕落〕おつること

ふ

ふ〔畫・繪〕繪はいろどらぬふ、畫は色どりたるふ○繪畫(クワイグワ)圖畫(トグワ)畵圖(グワト)
ふ〔餌〕ふば、ふさ
ふいせい〔衞生〕身を養ふこと
ふかう〔回向〕死人の追福をいのること
ふがく〔畫〕畫をかく
ふがほ〔笑顔〕わらひがほ○破顔(ハガン)笑顔(セウガン)
ふぐし〔酸〕ふごし、ふからぼし
ふくぼ〔靨〕笑ふとき頰にてくるくぼみ
ふぐる〔刳〕「くじる(抉)」を見よ
ふじき〔餌食〕餌となる食物
ふしやく〔會釋〕㊀うなづくこと㊁あいさつすること
ふた〔穢多〕いやしき民の稱
ふづ〔繪圖〕國郡、家宅、庭園などのかた
ふど〔穢土〕この世(佛教にてけがれたる世の意)
ふとく〔會得〕さとること
ふのぐ〔繪具〕繪を色どるもの○顔料(ガンレウ)塗料

ふふ〔醉〕酒にふふ○酩酊(メイテイ)酩醉(メイスヰ)泥醉(デイスヰ)酣醉(カンスヰ)爛醉(ランスヰ)沈醉(チンスヰ)
ふむ〔笑・咲〕「わらふ(笑・咲)」を見よ
ふる〔彫・鐫〕ほりきざむ、ちりばむ
ふん〔圓〕㊀まる㊁金錢を數ふる語「千—」
ふん〔園・苑〕「その(園・苑)」を見よ
ふん〔寃〕無實の罪
ふんいう〔苑囿〕花ぞの
ふんいん〔援引〕みちびくこと
ふんえん〔蜿蜒〕まがりうねるさま「山脈—たり」
ふんおう〔援應〕加勢すること「敵に—す」
ふんか〔遠遐〕はるかなること
ふんかく〔遠隔〕遠くへだゝること
ふんきう〔援救〕たすけすくふこと
ふんきよく〔婉曲〕やはらかくおもむきあること「—に歌ふ」
ふんきん〔遠近〕をちこち
ふんくわつ〔圓滑〕かどだゝぬこと
ふんぐん〔援軍〕たすけのいくさ
ふんげい〔園藝〕庭を作る法

ふんげき〔怨隙〕なかのあしきこと
ふんけん〔圓圈〕まる
ふんけん〔遠見〕とほくみること
ふんげん〔淵源〕みなもと
ふんこう〔猿猴〕さる
ふんさ〔怨嗟〕うらみなげくこと
ふんざい〔寃罪〕無實の罪
ふんざん〔遠竄〕しまながしにすること
ふんし〔遠視〕遠く見ること
ふんじ〔遠邇〕遠きと近きと
ふんしう〔怨讐〕うらみ
ふんじゆ〔槐〕木の名
ふんじよ〔援助〕たすくること
ふんしん〔圓心〕圓の中心
ふんしん〔淵潭〕水のふかきところ
ふんしんりよく〔遠心力〕とびはなるゝ力
ふんず〔怨〕うらむ
ふんすう〔遠陬〕遠きゐなか
ふんする〔遠陲〕遠きゐなか
ふんせい〔遠征〕遠く行きて敵をせむること
ふんぜん〔宛然〕さながら「—山をなす」
ふんそう〔淵藪・淵叢〕よりあつまるところ「學者の—・—」
ふんそく〔遠足〕とほあるき
ふんだい〔遠大〕遠くおほいなること「—の志望」
ふんち〔園池〕庭のいけ
ふんてい〔園丁〕にはつくり
ふんてん〔宛轉〕玉などのころがる貌「—たること玉の如し」
ふんてん〔圓轉〕めぐること
ふんどう〔豌豆〕豆の名
ふんどく〔怨讟〕うらむること
ふんばう〔怨望〕うらむること
ふんばう〔遠望〕とほくをのぞむこと
ふんぷん〔怨憤〕うらみいきどほること
ふんぺい〔援兵〕たすけの兵
ふんぽ〔園圃〕はたけ
ふんぼう〔遠謀〕とほきはかりごと「—深慮」
ふんまん〔圓滿〕十分みち足ること
ふんもん〔轅門〕大將の陣の門
ふんらい〔遠來〕遠くよりきたること
ふんりやく〔遠略〕とほきはかりごと

ゑんりよ〔遠慮〕㈠ふかき用心「深謀―」㈡人に心をおくこと
ゑんりん〔園林〕そのとはやし
ゑんろ〔遠路〕とほきみち
ゑんわう〔寃枉〕むじつの罪
ゑんゑん〔蜿蜒〕うねりのたるさま「―たる峻坂」

を

を〔緒〕ひも「下駄の―」
を〔尾〕しりを「猫の―」
を〔苧〕麻のいと「―を績む」
を〔男〕をとこ「鎰飛―」
を〔雄〕をす「―牛」
をうつ〔蓊鬱〕木のしげるさま「―たる老杉」
をか〔岡・丘・阜・陵〕地の小高き所○丘陵丘阜岡阜岡陵
をかし〔可笑〕笑ふべし
をかす〔犯〕爲すべからざることをなす「罪を―す」○凌犯違犯
をかす〔侵〕だん〳〵にのりこむ「敵を―す」○侵入侵略
をかす〔冒〕爲し難きをなす「嶮を―す」
をがむ〔拜〕ぬかづく○拜禮禮拜
をかめ〔傍目〕わきめ○局外
をぎ〔荻〕草の名
をくしや〔屋舍〕いへ
をくろう〔屋漏〕あまもり
をくわい〔汚穢〕けがれ
をけ〔桶〕道具の名
をこ〔痴〕「おろか(愚)」を見よ
をこたり〔怠・惰〕なまけ(怠は心のをこたり、惰は行ひのをこたり)○怠惰怠慢懈怠懈惰懶惰懶惰簡怠
をこたる〔怠・惰〕「をこたり(怠・惰)」を見よ
をごり〔驕〕たかぶり○驕慢驕傲傲慢倨傲驕誇驕蹇
をごり〔奢〕ぜいたく○奢侈驕奢豪奢華奢豪華敖樂贅澤
をごる〔驕・奢〕「をごり(驕・奢)」を見よ
をさ〔長〕かしら「村―、魚の―」
をさ〔筬〕はたを織る具

をさなご〔幼兒〕いとけなき子○嬰孩嬰兒幼孩孩兒孩童
をさなし〔幼〕いとけなし○幼少幼穉幼冲孩冲
をさまる〔治・修・收・納〕「をさむ(治・修・收・納)」を見よ
をさむ〔治〕とゝのふ「世を―む」○治定治理平治治安
をさむ〔修〕正しくなす「身を―む」○修理修正修補
をさむ〔收〕とりまとむ「罪を―む」○收攬收拾收集收得收入
をさむ〔納〕先方へはらひこむ「租稅を―む」○納付納入
をさむ〔藏〕かくし入る「刀を鞘に―む」○包藏蓄藏
をさむ〔理〕さばく○經理整理調理
をし〔鴛鴦〕鳥の名
をし〔惜〕あたらし
をしふ〔敎・誨・訓〕「をしへ(敎・誨・訓)」を見よ
をしへ〔敎・訓・誨〕しるべ(訓・誨はさとして道によらしむる意)○教訓教誨教導訓導訓誨＝風敎德敎(世をおしへ)
をしむ〔惜〕のこりをしく思ふ○愛惜痛惜痛惜
をしむ〔吝〕けちにしはくす○慳吝慳貪吝嗇恪惜
をしやう〔和尙〕僧の位の名
をじよく〔汚辱〕はづかしめ
をす〔牡〕動物のをこと
をそ〔獺〕獸の名
をだく〔汚濁〕にごり「―の世」
をぢ〔伯父〕父母の兄
をぢ〔叔父〕父母の弟
をちこち〔遠近〕あちらこちら○遠近遠邇遐邇
をちど〔越度〕「あやまち(過)」を見よ
をつそ〔越訴〕訴の順序をこえて上官に訴ふること
をつと〔夫〕ていしゆ○良人
をつとせい〔膃肭臍〕獸の名
をつねん〔越年〕年をこすこと

をとこ〔男〕を○男子男兒丈夫男郎

をとこだて〔男達〕男子たる面目を立つること○伉俠豪俠任俠俠豪俠任俠勇

をどす〔縅〕よろひの小札を絲又は革にてつゞる

をとめ〔少女〕むすめ○處女處子少女

をとり〔媒鳥〕他を誘ひ捕ふるための鳥

をどり〔踊〕まひの俗なるもの

をどる〔踊〕をどりをなす○蹈舞舞蹈

をどる〔跳・躍〕とびあがる○跳躍跳揚跳踊踉跳跳踊踊躍飛躍奮跳＝躍如躍然（をどりあがるさま）

をの〔斧〕木をきる具○斧鉞斧斤

をのゝく〔戰〕ふるへおそる○戰慄

をのへ〔尾上〕山のいたゞき

をば〔伯母〕父母の姉

をば〔叔母〕父母の妹

をばな〔尾花〕すゝきの花

をはり〔終・畢〕すゑ、はて○終局終極終結極終結局結句結尾結末畢竟

をはる〔終・畢〕「をはり（終・畢）」を見よ

をはる〔卒〕つぎてたゆ「業がーる」

をはる〔了〕ことすむ「讀みーる」○完了結了完結

をひ〔甥〕兄弟姉妹の生める男子

をふ〔終・畢・卒・了〕「をはる（終・畢・卒・了）」を見よ

をぶつ〔汚物〕きたなきもの

をみなめし〔女郎花〕花の名

をめい〔汚名〕けがれし名

をり〔檻〕猛獸、狂人、罪人など入れおくもの

をり〔機〕はづみ○機會時機機運

をり〔折〕㊀たび、とき㊁食物を入るゝ具

をり〔滓〕水によどむかす○滓垢

をりゆう〔汚隆〕高きとひくきと

をりをり〔節節〕とき〴〵○時々刻々節々

をる〔居〕ゐる○居留在留

をる〔折〕くじく○挫折摧折斷折折挫

をろち〔大蛇〕大きなるへび

をゝし〔雄雄〕をとこらし、いさまし

をんえき〔瘟疫〕やくびやう

をんが〔溫雅〕しとやか

をんがん〔溫顏〕やさしき顏

をんきよう〔溫恭〕おだやかにうや〳〵しきこと

をんげん〔溫言〕やさしきことば

をんこ〔溫故〕ふるきをたづぬること「—知新」

をんこう〔溫厚〕おだやか

をんしう〔怨讐〕うらみに思ふかたき

をんじう〔溫柔〕すなほ「—敦厚」

をんしふ〔溫習〕習ひかへすこと

をんじゆん〔溫順〕おとなしきこと

をんしよく〔慍色〕いかれるいろ

をんせん〔溫泉〕いでゆ

をんぜん〔溫然〕おだやかなるさま「—たる容貌」

をんたい〔溫帶〕あたゝかき地方「—地方」

をんたう〔穩當〕おだやか

をんたう〔溫湯〕ぬるまゆ

をんだん〔溫暖〕あたゝか

をんてき〔怨敵〕うらみあるかたき

をんな〔女〕をなご○女子女性女人婦人婦女巾幗

をんねん〔怨念〕うらみのおもひ

をんぱう〔溫袍〕綿入きもの「—の養」

をんびん〔穩便〕おだやか

をんみつ〔穩密〕ないしよ

をんりやう〔溫良〕すなほ「—恭敬」

をんりやう〔怨靈〕うらみたゝる死靈

をんりやう〔溫涼〕あつさすゞしさ

をんる〔遠流〕遠き島ながし

をんわ〔溫和〕おだやか

明治三十七年五月一日印刷
明治三十七年五月五日發行

定價金六拾五錢

著者　森下松衛
東京市牛込區下宮比町九番地

發行者　三樹一平
東京市神田區錦町一丁目十番地

印刷者　石川金太郎
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

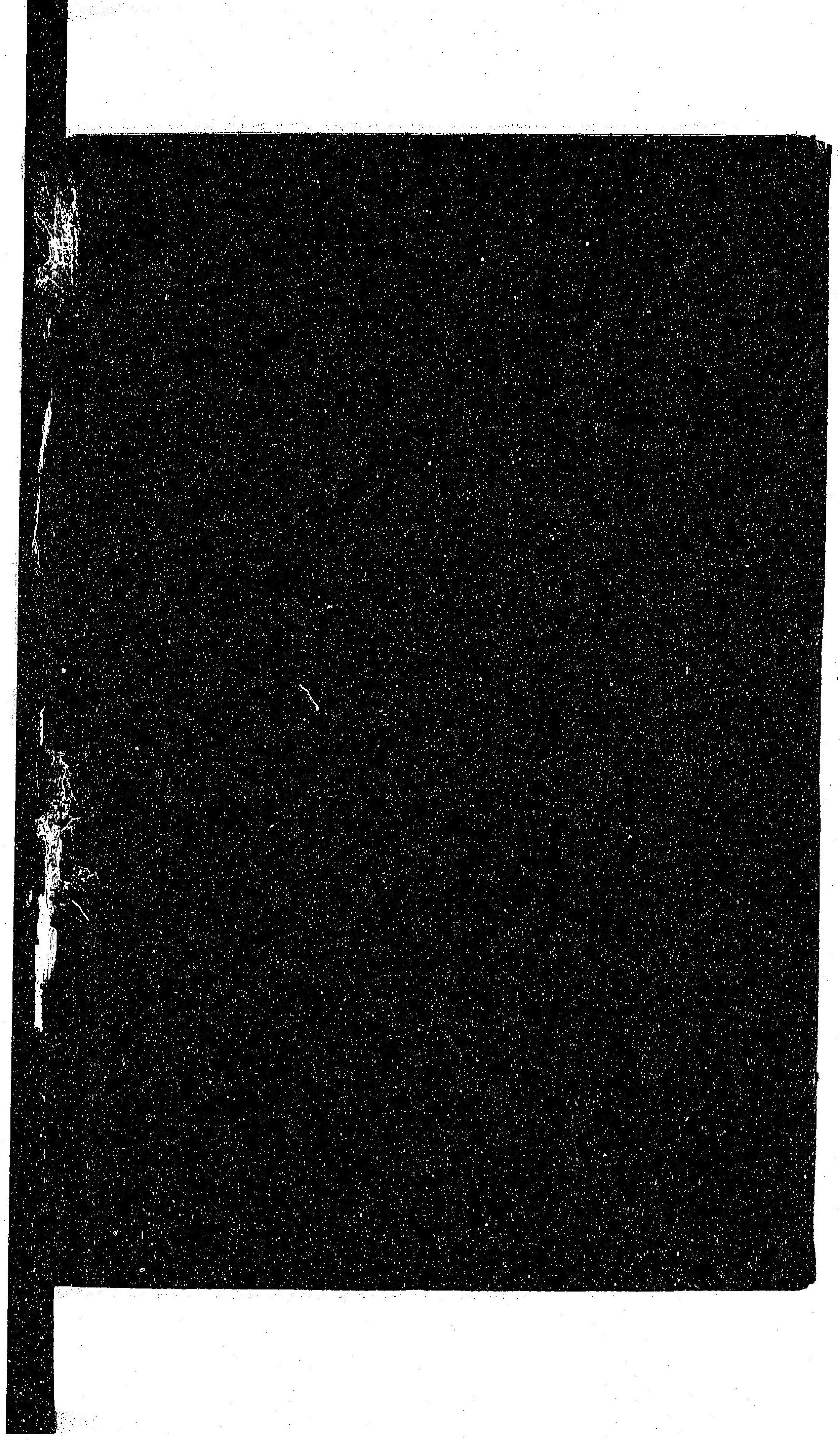
印刷所　株式會社秀英舍
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

發行所　明治書院
東京市神田錦町一丁目
特電話本局二四三八番

不許複製

[illegible]

94
268



94
268

077962-000-4

94-268

中等作文辞典

森下　松衛／著

M37.5

DAC-1447